

保健師助産師看護師国家試験出題基準

平成30年版

厚生労働省医政局看護課

目 次

医道審議会保健師助産師看護師分科会保健師助産師看護師国家試験出題基準改定部会 委員名簿
保健師助産師看護師国家試験出題基準とは
保健師助産師看護師国家試験出題基準の利用方法

【保健師国家試験出題基準】

公衆衛生看護学

公衆衛生看護学概論	保－1
公衆衛生看護方法論Ⅰ（個人・家族・グループへの支援）	保－4
公衆衛生看護方法論Ⅱ（地域組織・地域への支援、事業化と施策化）	保－7
対象別公衆衛生看護活動論	保－10
学校保健・産業保健	保－14
健康危機管理	保－17
公衆衛生看護管理論	保－19
疫学	保－20
保健統計	保－22
保健医療福祉行政論	保－24

【助産師国家試験出題基準】

基礎助産学

基礎助産学Ⅰ	助－1
基礎助産学Ⅱ	助－5

助産診断・技術学

助産診断・技術学Ⅰ	助－8
助産診断・技術学Ⅱ	助－10
地域母子保健	助－26
助産管理	助－28

【看護師国家試験出題基準】

必修問題	看－1
人体の構造と機能	看－9
疾病の成り立ちと回復の促進	看－14
健康支援と社会保障制度	看－19
基礎看護学	看－25
成人看護学	看－29
老年看護学	看－39
小児看護学	看－44
母性看護学	看－49
精神看護学	看－55
在宅看護論	看－60
看護の統合と実践	看－64

【参考】保健師助産師看護師国家試験制度改善検討部会報告書（平成28年2月22日）

医道審議会保健師助産師看護師分科会
保健師助産師看護師国家試験出題基準改定部会委員名簿

	氏名	所属
部会長	◎ 中山 洋子	高知県立大学大学院看護学研究科
保健師	○ 佐伯 和子	北海道大学大学院保健科学研究所
	荒木田 美香子	国際医療福祉大学小田原保健医療学部
	安藤 智子	千葉科学大学看護学部
	上原 里程	宇都宮市保健福祉部
	岸 恵美子	東邦大学看護学部
	佐藤 由美	群馬大学大学院保健学研究科
	塚田 ゆみ子	長野県健康福祉部保健・疾病対策課
	前田 秀雄	渋谷区健康推進部兼渋谷区保健所
	山野井 尚美	岡山県保健福祉部健康推進課
	助産師	○ 高田 昌代
岡垣 竜吾		埼玉医科大学産婦人科
片桐 麻州美		帝京大学助産学専攻科
倉本 孝子		社会医療法人愛仁会本部看護部
土田 晋也		東京大学大学院医学系研究科小児科
林 啓子		杏林大学医学部付属病院
廣瀬 孝子		日本赤十字社医療センター
山崎 圭子		東邦大学看護学部
米山 万里枝		東京医療保健大学大学院医療保健学研究科
看護師 必修問題		○ 佐伯 由香
	遠藤 由美子	つくば国際大学医療保健学部看護学科
	佐々木 幾美	日本赤十字看護大学看護学部看護学科
人体の構造と機能	○ 深井 喜代子	岡山大学大学院保健学研究科
	習田 明裕	首都大学東京健康福祉学部看護学科
	福島 統	東京慈恵会医科大学教育センター
疾病の成り立ちと回復の促進	○ 縄 秀志	高崎健康福祉大学保健医療学部看護学科
	川井 真	東京慈恵会医科大学循環器内科
	長堀 隆一	国立研究開発法人日本医療研究開発機構戦略推進部再生医療研究課
健康支援と社会保障制度	○ 朝倉 京子	東北大学大学院医学系研究科
	大橋 俊子	栃木県南健康福祉センター
基礎看護学	○ 香春 知永	武蔵野大学看護学部看護学科
	宮本 千津子	東京医療保健大学医療保健学部看護学科
	渡辺 美保子	ポラリス保健看護学院
成人看護学	○ 宇都宮 明美	聖路加国際大学大学院看護学研究科
	清水 安子	大阪大学大学院医学系研究科
	外崎 明子	国立看護大学校
	葉梨 智子	東海大学医学部附属東京病院
	山勢 博彰	山口大学大学院医学系研究科保健学専攻臨床看護学講座
老年看護学	○ 牛田 貴子	湘南医療大学保健医療学部看護学科
	時本 圭子	倉敷中央看護専門学校
	百瀬 由美子	愛知県立大学看護学部・大学院看護学研究科
小児看護学	○ 西村 真実子	石川県立看護大学
	中村 伸枝	千葉大学大学院看護学研究科
	横山 由美	自治医科大学看護学部
母性看護学	○ 片岡 弥恵子	聖路加国際大学大学院看護学研究科
	中込 さと子	山梨大学大学院総合研究部
	中村 幸代	横浜市立大学医学部看護学科
精神看護学	○ 萱間 真美	聖路加国際大学大学院看護学研究科
	江波戸 和子	杏林大学保健学部看護学科
	森 真喜子	国立看護大学校
在宅看護論	○ 福井 小紀子	日本赤十字看護大学
	棚橋 さつき	高崎健康福祉大学保健医療学部看護学科
	結城 美智子	北海道大学大学院保健科学研究所
看護の統合と実践	○ 宮本 千津子	東京医療保健大学医療保健学部看護学科
	勝山 貴美子	横浜市立大学医学部看護学科
	縄 秀志	高崎健康福祉大学保健医療学部看護学科
	渡辺 美保子	ポラリス保健看護学院

(◎：部会長、○幹事委員)

(敬称略)

保健師助産師看護師国家試験出題基準とは

保健師国家試験、助産師国家試験及び看護師国家試験（以下「保健師助産師看護師国家試験」という。）は、保健師助産師看護師法第 17 条に基づき、それぞれ保健師、助産師又は看護師として必要な知識及び技能を評価するものである。

保健師助産師看護師国家試験の内容は、保健師、助産師及び看護師が保健医療の現場に第一歩を踏み出す際に、少なくとも具有すべき基本的な知識及び技能であり、保健師助産師看護師国家試験出題基準は、これらを具体的な項目によって示したものである。保健師助産師看護師試験委員（以下「試験委員」という。）は、保健師助産師看護師国家試験の妥当な内容や範囲及び適切な水準を確保するため、この基準に拠って出題する。

従って、保健師助産師看護師国家試験出題基準は、保健師、助産師及び看護師学校養成所の教育で扱われる全ての内容を網羅するものではなく、これらの教育のあり方を拘束するものでもない。

保健師助産師看護師国家試験出題基準の利用法

利用者は以下の各項に留意し、利用すること。なお、各項目は、保健師助産師看護師国家試験問題の出題範囲という観点から配列されているため、必ずしも学問的な分類体系と一致しない点があるほか、各科目や項目間で内容が重複することがある。

1. 目標

目標は、保健師助産師看護師国家試験における出題のねらいを示している。この出題のねらいを踏まえ、大・中項目の記載内容によって、保健師、助産師及び看護師として少なくとも具有すべき基本的な知識及び技能について出題する範囲が示されるものである。

2. 大・中・小項目の位置付け

1) 大項目

中項目を束ねる見出しである。なお、中項目の記載と併せて「出題の範囲」を示すことがある。

2) 中項目

保健師助産師看護師国家試験の「出題の範囲」となる事項である。

3) 小項目

中項目に関する内容を分かりやすくするために示したキーワードである。よって、小項目の表現や記載の有無に限らず、中項目で記載された内容が「出題の範囲」となることに留意する。

従って、「出題の範囲」は記載された事項に限定されず、標準的な学生用教科書に記載されている程度の内容を含むものとする。

3. その他

1) 括弧書き

提示する同一事象に対し、異なる表現がある場合には、括弧書きで提示している。試験委員の判断により、括弧内・外の語を単独又は併記して使用できる。

なお、括弧は以下の規定により用いている。

< > : 直前の語の言い換え

①正式名称と比しても略語の周知度や重要度が高い場合

②和名と英名等によって同義語を記載する場合

③人名を冠した用語において原語を併記する場合

例 ; 世界保健機関<WHO> 権利擁護<アドボカシー>
Apgar<アプガー>スコア など

() : 直前の語のさらに下位項目

①直前の語の具体的な例示が必要な場合

②特に重要な事項を示す場合

例 ; 情報管理 (個人情報保護) 肺循環障害 (肺高血圧、肺塞栓症)
など

2) 読点「、」 及び 中点「・」

関連する語を列記する際に、読点「、」及び中点「・」を以下の規定により用いている。ただし、検索の利便性を確保する観点から、索引には中点を使用せずに掲載している場合がある。

読点「、」 : 単純に列記する場合

例 ; 肺癌、胃癌 粘膜、皮膚 アスベスト、放射性物質 など

中点「・」 : 前後の語での重複を排して列記する場合、英熟語を使用する場合

例 ; 転倒・転落の防止 羊水の量・性状 インフォームド・コンセント など

保健師国家試験出題基準

保健師国家試験出題基準 目次

公衆衛生看護学

公衆衛生看護学概論	1
公衆衛生看護方法論Ⅰ（個人・家族・グループへの支援）	4
公衆衛生看護方法論Ⅱ（地域組織・地域への支援、事業化と施策化）	7
対象別公衆衛生看護活動論	10
学校保健・産業保健	14
健康危機管理	17
公衆衛生看護管理論	19
疫学	20
保健統計	22
保健医療福祉行政論	24

公衆衛生看護学

【公衆衛生看護学概論】

目標Ⅰ. 公衆衛生看護の概念・理念、対象や活動方法の特性について基本的な理解を問う。
 目標Ⅱ. 地域や社会の動向、人々の健康に影響する背景・要因と健康課題について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 公衆衛生看護の基本	A. 公衆衛生看護の概念と変遷	a. 公衆衛生看護の定義
		b. 諸外国の公衆衛生と公衆衛生看護
		c. 日本の公衆衛生と公衆衛生看護
	B. 公衆衛生看護の基本理念	a. 公衆衛生の向上と増進
		b. 社会的公正
		c. 生存権・生活権の保障
		d. プライマリヘルスケア
		e. ヘルスプロモーション
		f. well-being
g. ノーマライゼーション		
C. 公衆衛生看護の活動根拠	a. 保健師助産師看護師法 b. 地域における保健師の保健活動について<保健師活動指針>	
2. 公衆衛生看護における倫理	A. 公衆衛生看護の責務	a. 基本的人権の尊重
		b. 公的責任
		c. 権利擁護<アドボカシー>
	B. 保健師の職業倫理	a. 社会的信用の保持
		b. 自己研鑽
3. 公衆衛生看護の対象	A. 地域社会を構成する単位と公衆衛生看護活動の対象	a. 個人、家族
		b. 近隣
		c. 組織（自治会、学校、企業、組合）
		d. 小集団、グループ
		e. コミュニティ、地域
		f. ポピュレーション
		g. a～fの間の相互作用への働きかけ
	B. 公衆衛生看護活動の場と機能	a. 行政
		b. 学校
		c. 職域
		d. 医療・福祉施設
		e. 地区、自治体
		f. 国
g. 国際		

大項目	中項目	小項目
4. 公衆衛生看護の活動方法と特性	A. 予防レベルと活動	a. 一次予防、二次予防、三次予防
		b. ポピュレーションアプローチ
		c. ハイリスクアプローチ
	B. 公衆衛生看護活動の基本と展開過程	a. エンパワメント、自己決定の支援
		b. 住民参加
		c. パートナーシップ
		d. 公助、共助、互助、自助
		e. ソーシャル・キャピタルの醸成と活用
		f. 社会的ネットワークの構築と活用
		g. ソーシャルサポートの育成と活用
		h. 信頼関係の構築
		i. PDCAサイクルとマネジメント
		j. アウトリーチ
		k. 調整、コーディネーション
	l. 多職種・多機関連携	
C. 地域ケアシステムの構築	a. 事業化・施策化の意義	
	b. 効果的・効率的なケアの提供	
	c. ケアの公平性と継続性の保障	

公衆衛生看護学

大項目	中項目	小項目
5. 人々の健康に影響する背景・要因と健康課題	A. 人口の変化と健康課題	a. 少子化に伴う課題
		b. 高齢化に伴う課題
		c. 人口の偏在・過疎・過密
	B. 疾病構造の変化と健康課題	a. 生活習慣病
		b. メンタルヘルス
		c. 新興感染症、再興感染症
	C. 社会構造・文化的背景の変化と健康課題	a. 家族形態・機能の変化
		b. 近隣・人間関係の希薄化
		c. 労働・雇用形態の変化と多様化
		d. 社会格差、貧困
		e. 社会的不利による生活破綻
		f. 健康の社会的決定要因と健康格差
		g. 生活様式の多様化
		h. 文化・価値観の多様化、多文化との共生
		i. グローバリゼーション
	D. 社会情勢、政治・経済・産業構造の変化	a. 社会保障制度改革、医療制度改革
		b. 男女共同参画社会の推進
		c. 地方分権の推進
		d. 科学技術の発展
		e. 情報化、ICT<情報通信技術>の発展
f. 医療の高度化・複雑化		
E. 環境の変化と健康課題	a. 地球環境の変化（温暖化、酸性雨）	
	b. 環境汚染（大気、水質、土壌）、公害	
	c. 生活環境の変化（住居、騒音、振動）	
	d. 放射能による影響	
	e. 地域の健康危機（自然災害、人為災害、感染症）	

公衆衛生看護学

【公衆衛生看護方法論 I】（個人・家族・グループへの支援）

目標Ⅰ. 地域を構成する人々の心身の健康、疾病・障害の予防・発生・回復、改善の過程のアセスメント及び健康課題の明確化について基本的な理解を問う。
 目標Ⅱ. 「個人、家族」が主体的に問題を解決できるよう、地域特性を踏まえた適切な支援技術の選択及び支援方法について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 対象の理解とアセスメントに基づく支援	A. 生活者としての個人の対象理解と健康課題への支援	a. 発達段階、発達課題
		b. 生活習慣（食習慣、運動習慣、休息）
		c. 生活環境・背景、社会的役割
		d. 価値観
		e. 健康レベル・健康状態に応じた支援
		f. 対象の把握と支援の優先順位の決定
		g. 顕在的・潜在的健康課題の明確化と予測
	B. 家族を単位とした対象理解と健康課題への支援	a. 家族の発達段階・発達課題
		b. 家族の形態・機能・役割と変遷
		c. 家族と他者（近隣）との関係
		d. 家族の理解のための理論・モデル
		e. 家族力動・ダイナミズムの把握と支援の優先順位の決定
f. 顕在的・潜在的健康課題の明確化と予測		
C. グループの理解と健康課題への支援	a. グループの種類（地域集団＜コミュニティグループ＞、サポートグループ、セルフヘルプグループ、自主グループ、ピアグループ）	
	b. グループの発達段階・発達課題	
	c. グループの理解のための理論・モデル	
	d. 集団力動・集団心理の把握と支援の優先順位の決定	
	e. 顕在的・潜在的健康課題の明確化と予測	
	f. グループダイナミクス	
2. 保健行動の理解とアセスメントに基づく支援	A. 保健行動に関する理論	a. 変化の3段階理論
		b. ヘルスビリーフモデル
		c. 変化ステージ理論
	B. 健康段階別保健行動	a. 健康増進行動
		b. 予防的保健行動
		c. 病気回避行動
		d. 病気対処行動
	C. 目的別保健行動	a. セルフケア行動
		b. コンプライアンス行動
		c. ウェルネス行動
	D. 理論・モデルを用いた保健行動の理解	a. 行動変容段階（無関心期、関心期、準備期、実行期、継続期）
		b. ヘルスリテラシー
		c. 自己効力感
		d. ストレスへの対処力

公衆衛生看護学

大項目	中項目	小項目
3. 公衆衛生看護活動における対人支援の基本	A. 対人支援の目的	a. 動機付け、健康問題・課題への気付き
		b. 価値と規範
		c. 自己効力感の向上
		d. エンパワメント
		e. セルフケア能力の向上、自立支援
		f. 行動変容
		g. QOLの維持・向上
		h. 自己決定への支援
	B. 対人支援の過程と特徴	a. 対象者の把握と選定、優先順位の決定
		b. 情報収集、アセスメント、問題把握
		c. ニーズに基づく支援計画の立案
		d. 実施、記録、モニタリング、評価
e. フォローアップ		
f. 関係機関・職種との連携・協働		
g. 地域活動への反映		
C. 対人支援の技術	a. 傾聴、共感	
	b. カウンセリング、面接	
	c. アウトリーチ	
	d. コーチング	
	e. スモールステップ法	
4. 公衆衛生看護活動における各支援の特徴と方法	A. ケースマネジメントの特徴・方法	a. ケアコーディネーション、サービスの統合
		b. ケアの継続性
		c. ニーズの多様化への対応
		d. フォーマルサービスとインフォーマルサービスの活用
		e. 新たなサービス・ケアの創造
		f. ケースマネジメント会議
	B. 健康相談の特徴・方法	a. 健康相談の契機、地域の健康特性を活かした企画
		b. 場面の設定、場の工夫や配慮
		c. 事後フォローアップ
	C. 訪問の特徴・方法	a. 生活・環境・家族・社会的背景の把握と介入
		b. 予防的訪問、危機的介入、訪問の緊急性
		c. 信頼関係・支援関係の構築、キーパーソンの活用
		d. 訪問拒否への対応
		e. グループや社会資源の紹介
		f. ネットワーク構築への支援

公衆衛生看護学

大項目	中項目	小項目
	D. 健康教育の特徴・方法	a. KAPモデル
		b. ヘルスビリーフモデル
		c. プリシード・プロシードモデル
		d. 社会学習理論
		e. 個別健康教育、集団健康教育
		f. 対象に応じた参加勧奨・効果的な媒体の工夫
		g. 対象の組織化への支援
		h. グループワーク、課題の共有
	E. グループ支援の特徴・方法	a. 主体性の確立、自己洞察の深まり
		b. 仲間づくり
		c. グループダイナミクス
		d. ファシリテーション技術
		e. 治療的・予防的アプローチ
		f. 相互作用アプローチ
	F. 健康診査・検診の特徴・方法	a. スクリーニング
		b. 対象に応じた参加勧奨の工夫
		c. 特定健康診査、特定保健指導
		d. 要精査者のフォローアップと体制づくり
e. 未受診者の把握とフォローアップ		
f. スクリーニングの要件や結果の評価、事業化		
g. 参加者の自立支援・組織化		
5. 公衆衛生看護活動における各支援の展開と実際	A. ケースマネジメント	※A～Fに共通の小項目 a. ニーズの把握や対象の選定 b. 対象・目的に合った方法の選択 c. 計画、実施、評価 d. フォローアップ e. 地区活動への反映、事業化、施策化
	B. 健康相談	
	C. 訪問	
	D. 健康教育	
	E. グループ支援	
	F. 健康診査、検診	

公衆衛生看護学

【公衆衛生看護方法論Ⅱ】（地域組織・地域への支援、事業化と施策化）

- 目標Ⅰ. 地域アセスメント＜地域診断＞に基づき地域の健康課題を明確化する方法についての基本的な理解を問う。
- 目標Ⅱ. 地区活動および地域組織の育成・支援に関わる活動の展開方法について基本的な理解を問う。
- 目標Ⅲ. 保健医療福祉における施策化と事業の計画・実施・評価の方法について基本的な理解を問う。
- 目標Ⅳ. 保健医療福祉における地域ケアシステムの構築について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 地域保健活動の基本	A. 地域における活動の意義と対象	a. 地域への責任と公平性
		b. 健康なまちづくり、予防活動
		c. 住民・組織の自立支援・協働
		d. 生活基盤としてのコミュニティ・地域への支援
2. 地域アセスメント＜地域診断＞	A. 地域アセスメント＜地域診断＞の目的	a. 地域の全体像の把握、対象のニーズの把握
		b. 地域アセスメント＜地域診断＞に関する理論・モデル
		c. 地域特性にあった保健活動
		d. 効果的・効率的な施策や事業の実施と評価
		e. 施策・事業・サービスの監査・点検・改善
	B. 地域アセスメント＜地域診断＞の過程	a. 対象となる地域・グループ・組織の特定
		b. 情報収集、多角的・継続的アセスメント
		c. 顕在・潜在するニーズの把握と分析
		d. 健康課題の特定・予測
		e. 社会資源および関係機関・職種の把握
		f. 地域の健康に影響する背景・要因の把握
		g. 健康課題の解決のための強みと弱みの把握
C. 地域アセスメント＜地域診断＞の方法	a. 既存の統計資料の分析	
	b. 実態調査	
	c. 地区視診	
	d. エスノグラフィ	
	e. 疫学を活用した方法（記述疫学、分析疫学）	
3. 地域保健活動、地区活動	A. 地域・地区の定義と活動の範囲	a. 行政区域、日常生活圏域
		b. 自治会単位、校区単位
	B. 地域保健活動・地区活動の目的と過程	a. 地域包括ケアシステムの構築
		b. コミュニティ・エンパワメント
		c. ソーシャル・キャピタルの醸成と活用
		d. 住民・関係者とのパートナーシップ・合意形成
		e. 関係者・関係機関のネットワークづくり
		f. 地域特性にあった保健活動・生活や文化に配慮した保健活動の計画策定と方法の選定
		g. 各支援方法を組み合わせた活動の展開
		h. モニタリング、評価と次年度の活動計画への反映
		i. 評価に基づく施策化・事業化

公衆衛生看護学

大項目	中項目	小項目
4. 地域組織の育成・支援	A. 地域組織の育成・支援の定義と対象	a. 組織の構造と育成・支援、組織化
		b. 住民参加、コミュニティ・エンパワメント
		c. 住民組織（自治会組織、地縁組織）
		d. 行政委託型組織
		e. 当事者組織
		f. 特定非営利活動法人<NPO>、ボランティア組織
	B. 地域組織の育成・支援の目的と過程	a. 構成員に共通する健康課題の解決
		b. 仲間づくりを意図した育成・支援
		c. 発展段階・課題や力量を踏まえた育成・支援
		d. 地域における組織化のニーズの把握
		e. 構成員および地域組織の主体性を高める支援
		f. 地域組織の活動の安定化や活性化を図る支援
		g. スーパーバイズ、コンサルテーション
		h. ボランティア人材の育成
5. 保健医療福祉における事業化と施策化	A. 事業化の目的と過程	a. サービスの公平性、利用可能なサービスの創設
		b. 法的根拠、事業の位置付けの明確化
		c. 既存事業の評価・分析
		d. 予算の確保、マンパワーの確保と調整
		e. 事業計画の策定、プレゼンテーション
		f. 事業の周知・広報
		g. 事業委託、アウトソーシング
		h. モニタリング、進行管理
		i. インプット評価
		j. アウトプット評価
		k. ストラクチャー評価
		l. プロセス評価
		m. アウトカム評価
		n. 事業の継続・中止
B. 施策化の目的と過程	a. 公助	
	b. 地域ケアシステムの構築	
	c. 自治体における基本計画との整合性	
	d. 施策の決定過程（審議会、パブリックコメント、議会による検討）	
	e. 中・長期的な目標設定と対策	
	f. 施策の公表と周知	
	g. 進行管理と評価結果の公表	

公衆衛生看護学

大項目	中項目	小項目
6. 地域ケアシステムの構築	A. 地域ケアのシステム化	a. 地域ケアシステムの概念
		b. 地域ケアシステムの発展過程
		c. ケアの連続性と継続性
		d. 共通認識・合意の形成と目標の設定
		e. 連携する関係者・機関の役割と機能
	B. ネットワークの形成とケアコーディネーション	a. 関係者・機関との連携・協働、パートナーシップ
		b. 連携のための会議の企画・運営
	C. 地域ケアシステムの評価	a. ネットワークによる実践・評価の体制づくり

公衆衛生看護学

【対象別公衆衛生看護活動論】

目標Ⅰ. 対象や発達段階に応じた生活や健康課題及び支援の特徴についての基本的な理解を問う。
 目標Ⅱ. 人々が主体的に課題を解決できるよう、施策及び地域の社会資源を活用して保健活動を展開することについて基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 母子保健活動、女性の健康支援	A. 母子保健医療福祉の動向	a. 母子保健の理念と変遷
		b. リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
		c. ジェンダーと性<セクシュアリティ>の多様性
		d. 性と生殖に関する医療と生命倫理
		e. 少子化と次世代育成支援施策
		f. 健やか親子21
	B. 母子保健における健康課題と支援	a. 妊婦健康診査、切れ目ない妊産婦・乳幼児への支援の展開、妊娠・出産包括支援事業
		b. 周産期のメンタルヘルス
		c. 関係者・機関との連携・協働、地域ケアシステムの構築
		d. 共通の課題をもつ小集団への支援
		e. 親育て、子育てにおけるエンパワメント
	C. 子どもの健康課題と支援	a. 乳幼児の成長・発達の評価
		b. 乳幼児健康診査における課題の早期発見とフォローアップ
		c. 基本的な生活習慣の確立と保健指導
		d. 疾病予防と予防接種
		e. 子どもの心の診療ネットワーク事業
		f. 事故予防、リスクアセスメント
	D. 女性のライフサイクル各期の健康課題と支援	a. 早発思春期
		b. 月経異常、不妊、不育
		c. 合併症がある妊産褥婦
d. 女性と労働、ワーク・ライフ・バランス		
e. 更年期障害		
f. 乳癌・子宮癌と治療に伴う障害		
g. 老化に伴う障害（腔炎、骨粗鬆症、排尿障害）		
E. 支援のニーズが高い対象と家族の健康課題と支援	a. 未熟児・低出生体重児・多胎児	
	b. 医療的ケアの必要性の高い児（先天性疾患、心身障害、慢性疾患）	
	c. 社会生活において困難を抱える児（発達障害）	
	d. ひとり親、血縁関係のない親子	
	e. 特定妊婦	
	f. 在留外国人、在外日本人、帰国日本人	
	g. 貧困、ドメスティック・バイオレンス<DV>	

公衆衛生看護学

大項目	中項目	小項目
	F. 虐待防止における保健師の役割と支援	<ul style="list-style-type: none"> a. 虐待防止と早期発見 b. 虐待を受けた児と家族の健康課題 c. 地域における継続した支援 d. 要保護児童対策協議会
2. 成人保健活動、生活習慣病対策	A. 成人保健医療福祉の動向	<ul style="list-style-type: none"> a. 成人保健の理念と変遷 b. 健康日本21 c. 成人保健医療福祉施策
	B. 成人保健における健康課題と支援	<ul style="list-style-type: none"> a. 地域・集団の特性に応じた地域ケアシステム b. 青年期・壮年期・向老期に特徴的な健康課題への支援 c. レセプト情報・特定健診等情報データベース<NDB>の活用 d. 保険者・医療提供施設との連携 e. 成人期に発症する疾患（がん、心血管疾患、糖尿病、慢性腎臓病）の重症化予防 f. 生活習慣病予防と特定健康診査・特定保健指導 g. 健康課題の共有とグループ支援
3. 高齢者保健活動	A. 高齢者の保健医療福祉の動向	<ul style="list-style-type: none"> a. 高齢者保健の理念と変遷 b. 高齢者の保健医療福祉施策
	B. 高齢者の健康課題と支援	<ul style="list-style-type: none"> a. 介護予防 b. 複数の疾患を抱える高齢者 c. 独居、高齢者のみ世帯 d. 要支援・要介護高齢者と家族への支援 e. 認知症高齢者と家族 f. 終末期にある高齢者と家族 g. 高齢者虐待、セルフネグレクト h. 自立した生活を維持するための生活支援 i. 保険者・介護保険事業者・地域支援事業者との連携、地域ケアシステムの構築
4. 精神保健活動	A. 精神保健医療福祉の動向	<ul style="list-style-type: none"> a. 精神保健の理念と変遷 b. 精神保健医療福祉施策 c. 人権擁護
	B. 精神保健の健康課題と支援	<ul style="list-style-type: none"> a. 心の健康づくりと保健指導、健康増進計画 b. 日常生活における自立支援、社会復帰・地域生活支援 c. 日常生活又は社会生活を営む上での制約に対応した支援 d. 対人関係の困難に対する支援 e. 二次障害の予防 f. 社会資源・サービスの活用と調整、地域のサポートシステム g. 関係者・機関との連携、地域ケアシステムの構築 h. 共通の課題をもつ小集団への支援 i. 自殺企図者、自死遺族への支援

公衆衛生看護学

大項目	中項目	小項目
	C. 地域における支援が必要な精神疾患と支援の特徴	<ul style="list-style-type: none"> a. 症状性を含む器質性精神障害 (Alzheimer<アルツハイマー>病、血管性認知症、Lewy<レビー>小体型認知症、せん妄) b. 精神作用物質使用による精神・行動の異常 (アルコール依存症、覚醒剤・大麻精神病) c. 統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害 d. 気分<感情>障害 (うつ病、双極性障害) e. 神経症性障害、ストレス関連障害 (パニック障害、心的外傷後ストレス障害<PTSD>、適応障害)、身体表現性障害 f. 生理的障害、身体的要因に関連した障害 (摂食障害、不眠症、ナルコレプシー、睡眠時無呼吸症候群) g. パーソナリティ障害 h. 習慣および衝動の障害 (病的賭博、病的窃盗、病的放火) i. 小児期・青年期・成人期に発症する行動・情緒の障害
5. 障害者 (児) 保健福祉活動	A. 障害者 (児) の保健医療福祉の動向	<ul style="list-style-type: none"> a. 障害者 (児) 保健の理念と変遷 b. 障害者 (児) の保健医療福祉施策 c. 共生社会の形成 d. 人権擁護、虐待予防
	B. 障害者 (児) の健康課題と保健指導	<ul style="list-style-type: none"> a. 日常生活 b. 地域生活支援 c. 対人関係の困難に対する調整 d. 二次障害の予防 e. 障害福祉サービスの活用調整 f. 住環境・地域環境の整備 g. 重複障害者 (児) と家族 h. 合併症を持つ障害者 (児) と家族 i. 日常生活又は社会生活を営む上での制約に応じた支援 j. 福祉施設・地域生活支援事業所との連携、地域ケアシステムの構築 k. 共通の課題を持つ小集団への支援

公衆衛生看護学

大項目	中項目	小項目
6. 難病保健活動	A. 難病保健医療福祉の動向	a. 難病保健の理念と変遷
		b. 難病対策
	B. 難病患者の健康課題と支援	a. 日常生活の自立支援、地域生活支援
		b. 疾患の特徴に応じた支援
		c. 対人関係の困難に対する支援
		d. 二次障害・合併症の予防
		e. 医療依存度の高い難病患者・合併症を持つ難病患者
		f. 在宅療養難病患者と家族
		g. 小児慢性特定疾病児の成人移行
		h. 医療機関、難病相談支援センターとの連携、地域ケアシステムの構築
		i. 共通の課題を持つ小集団への支援
j. 支援体制が確立していない疾患をもつ者（児）への支援		
7. 感染症の保健活動	A. 感染症対策の動向	a. 感染症保健活動の理念と変遷
		b. 感染症発生動向調査
		c. 世界保健機関<WHO>や各国の感染症対策
		d. 検疫所・防疫所・医療機関との連携
	B. 感染症対策	a. 感染症予防
		b. 標準予防策<スタンダードプリコーション>
		c. 感染症発生時の対応
		d. 薬剤耐性<AMR>対策
		e. 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律<感染症法>
		f. 肝炎対策基本法
	C. 感染症対策における疾病管理と支援の特徴	a. 結核、結核患者への直接服薬確認<DOTS>
		b. ヒト免疫不全ウイルス<HIV>感染症、後天性免疫不全症候群<AIDS>
		c. 性感染症<STI>
		d. 新興・再興感染症
		e. ウイルス性肝炎
		f. 食中毒
D. 予防接種	a. 予防接種に関する基本的な計画	
	b. 定期の予防接種	
	c. 臨時の予防接種	
8. 歯科保健活動	A. 歯科保健の動向	a. 歯科口腔保健の理念と変遷
		b. 歯科保健統計
		c. ライフサイクル・健康レベルに応じた歯科保健
	B. 口腔の健康の保持と歯科保健活動	a. う蝕の予防
		b. 歯周疾患予防
		c. 口腔機能・嚥下機能の低下の予防
		d. 在宅療養者（障害者（児）、難病患者）の口腔疾患の予防

公衆衛生看護学

【学校保健・産業保健】

目標Ⅰ. 学校保健の制度と仕組み、及び対象の健康課題の把握と適切な支援方法について基本的な理解を問う。
 目標Ⅱ. 産業保健の制度と仕組み、及び対象の健康課題の把握と適切な支援方法について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 学校保健の基本	A. 学校保健の目的、学校と養護教諭の役割・機能	a. 学校保健の定義と目的
		b. 学校教育・特別支援教育の機能
		c. 養護教諭の役割・機能
	B. 学校保健の動向	a. 社会的背景と学校保健の動向
		b. 学校保健統計の動向
	C. 学校保健・安全の制度と仕組み	a. 学校保健・安全に関する法規
		b. 学校保健・安全組織と人材、「チームとしての学校」のあり方、組織活動
		c. 学校保健計画、保健教育、保健管理
		d. 学校安全計画、安全管理校内救急体制の整備
		e. 環境管理、学校環境衛生基準
f. 学校給食、食育推進		
2. 学校保健における対象の健康課題への対策と支援	A. 発達段階別にみる対象の特徴と健康課題への対策と支援	a. 幼児期
		b. 学童期
		c. 思春期
		d. 青年期
	B. 対象の主な健康課題への対策と支援	a. いじめ、暴力
		b. 不登校
		c. 喫煙、飲酒、薬物乱用
		d. 性感染症<STI>
		e. 自殺、自殺企図
		f. 思春期やせ症、神経性食欲不振症
		g. パニック障害
		h. 急性ストレス障害<ASD>、心的外傷後ストレス障害<PTSD>
		i. 児童虐待
	C. 特別な支援を必要とする子どもへの対策と支援	a. 視覚・聴覚・知的・運動障害がある子ども
		b. 医療的ケアを必要とする子ども
		c. 発達障害がある子ども
		d. 慢性疾患がある子ども
		e. アレルギーがある子ども
		f. ジェンダーアイデンティティに違和感がある子ども
		g. 若年妊娠
D. 学校保健活動の展開	a. 学校保健情報の把握と活用	
	b. 学校保健計画の立案・実施・評価・見直しのプロセス (PDCAサイクル)	
	c. 保健室の機能と保健室経営計画	

公衆衛生看護学

大項目	中項目	小項目
	E. 養護教諭の活動の実際	a. 健康診断と事後措置 b. 感染症の予防と拡大防止 c. 健康相談、保健指導 d. 学校管理下の事故の防止と救急処置 e. 保健学習、特別活動・道徳での健康教育、食育 f. 学校保健委員会、児童生徒保健委員会 g. 地域の関係機関・ボランティアとの連携・協働
3. 産業保健の基本	A. 産業保健の目的、保健師の役割・機能	a. 産業保健の定義と目的
		b. 産業保健・組織の機能
		c. 保健師・第一種衛生管理者の役割・機能
	B. 産業保健の動向	a. 社会的背景と産業保健の動向
		b. 労働災害及び業務上疾病の動向
		c. 労働者の健康の動向
		d. 労働の多様化（非正規雇用、派遣労働、外国人労働者）
		e. 中小規模事業場における産業保健の動向
	C. 産業保健の制度と仕組み	a. 労働安全衛生に関する法規
		b. 労働安全衛生行政の体系
		c. 労働安全衛生に関する組織と人材
		d. 労働衛生管理（作業環境管理、作業管理、健康管理）
e. 事業場における労働衛生管理体制		
f. 労働における安全衛生教育		
g. 労働安全衛生マネジメントシステム、リスクアセスメント、ストレスチェック制度		
h. 労災制度、労働者災害補償保険法		
4. 産業保健における対象の健康課題への対策と支援	A. 対象の主な健康課題への対策と支援	a. 職業性疾病（化学物質、粉じん、石綿、物理的因子、作業様態、業務上の負傷）
		b. 作業関連疾患
		c. 生活習慣病、がん
		d. 心身症、メンタルヘルスの不調
		e. 過重労働
		f. ハラスメント
		g. 妊娠・育児期にある労働者
		h. 障害がある労働者、障害者雇用
		i. 高齢労働者、高齢者雇用
		j. 疾病がある労働者、両立支援
		k. 退職者、職場復帰への支援
	B. 産業保健活動の展開	a. 産業保健情報の把握と活用
		b. 産業保健計画の立案・実施・評価・見直しのプロセス（PDCAサイクル）
		c. 衛生委員会、職制・ラインを活用した産業保健活動の推進

公衆衛生看護学

大項目	中項目	小項目
	C. 保健師・第一種衛生管理者の活動の実際	<ul style="list-style-type: none"> a. 一般健康診断と事後措置・健康保健増進対策 b. 特殊健康診断と事後措置・健康確保対策 c. トータル・ヘルス・プロモーションプラン<THP>、心身両面にわたる健康の保持増進対策の推進 d. 快適職場づくり e. ワーク・ライフ・バランスの推進 f. 心の健康づくり計画、労働者の心の健康の保持増進のための指針 g. ストレスチェック h. 職場における喫煙対策 i. 健康保険組合との連携（特定健康診査・特定保健指導、データヘルス計画、コラボヘルス） j. 地域・職域連携活動

公衆衛生看護学

【健康危機管理】

- 目標Ⅰ. 健康危機管理の理念と目的、対象と方法について基本的な理解を問う。
 目標Ⅱ. 災害時サイクル各期の保健活動について基本的な理解を問う。
 目標Ⅲ. 感染症の集団発生時の保健活動について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 健康危機管理の基本	A. 健康危機管理の理念と目的	a. 健康危機管理の定義・分類
		b. 健康危機管理の目的
	B. 健康危機を起こす要因	a. 感染症
		b. 災害（自然災害、人為災害）
		c. 食中毒（食品、飲料水）
		d. 化学物質、放射性物質
		e. 事故
		f. ドメスティック・バイオレンス<DV>
	C. リスクマネジメントの過程	a. リスクアセスメント、リスク分析
b. リスクへの対応とその評価		
c. リスクコミュニケーション		
d. 事業継続計画<BCP：Business Continuity Plan>		
2. 災害に対応した保健活動	A. 災害の分類と特徴	a. 災害の定義と分類
		b. 自然災害（地震、津波、噴火、豪雨）
		c. 大規模人為災害（戦争、テロ、事故）
	B. 災害保健活動の基本	a. 情報収集・分析
		b. 健康課題の把握・集約
		c. 計画策定・評価
		d. 関係職種・機関との連携・協働
		e. 住民への防災・減災教育
		f. 被災者及び支援者の健康課題への支援
		g. 対策と活動の評価
		h. 減災・防災対策の計画策定・評価
		i. 広報、マスコミ対策
	C. 災害支援制度とシステム	a. 災害支援の関係法規
		b. 災害支援の制度
		c. 災害時健康危機支援システム<DHEAT>
3. 災害予防と事前対策	A. 平常時の保健活動と減災・防災対策	a. 災害を想定した地域アセスメント<地域診断>
		b. ガイドライン・マニュアルの作成
		c. 関係機関の役割と連携
		d. 健康危機のレベルに応じた対策の検討・決定
		e. ガイドラインに基づく訓練
		f. 地域住民への健康教育

公衆衛生看護学

大項目	中項目	小項目
	B. 要支援者への対策	<ul style="list-style-type: none"> a. 要支援者の把握、アセスメント b. 要支援者の支援計画の作成 c. 対策マニュアルと訓練 d. 防災・減災教育、普及啓発 e. 支援ネットワークの構築
4. 発災直後から応急対策期（フェーズ0～2）の保健活動	A. 発災直後の保健活動	<ul style="list-style-type: none"> a. 発災直後の初動対応 b. 被害状況に関する情報収集・情報集約 c. 健康課題の分析 d. 受援体制、支援体制のマネジメント
	B. 応急対策期の保健活動	<ul style="list-style-type: none"> a. 救護所・避難所・在宅での健康課題の把握 b. 健康課題に対応した保健活動 c. 避難所・地域の環境モニタリングと対策 d. 健康回復へ向けた支援 e. 二次的健康障害（心的外傷後ストレス障害<PTSD>、廃用症候群（生活不活発病））の予防と対策
5. 災害復旧・復興対策期（フェーズ3～5）の保健活動	A. 災害復旧期の保健活動	<ul style="list-style-type: none"> a. 被災者の健康課題 b. 保健活動計画の策定、実施、評価、見直し c. 二次的健康障害（心的外傷後ストレス障害<PTSD>、廃用症候群（生活不活発病）、孤独死）の予防と対応、こころの健康 d. 職員及び支援者の心身の健康管理
	B. 復興対策期の保健活動	<ul style="list-style-type: none"> a. コミュニティの再構築への支援 b. 中長期的な健康課題の明確化 c. 復興期における保健計画の再評価・見直し
6. 感染症の集団発生への保健活動	A. 感染症調査の基本	<ul style="list-style-type: none"> a. 積極的疫学調査 b. 患者調査、接触者調査、環境調査 c. 疫学解析
	B. 事前対策、発生時の対応	<ul style="list-style-type: none"> a. 感染経路別の予防対策 b. 初動対応 c. 発生時の患者・接触者・関係者への保健指導
	C. 感染拡大防止	<ul style="list-style-type: none"> a. 臨時予防接種 b. 集団・施設の種類に応じた対策（保育園、高齢者施設、障害者施設、医療機関）

公衆衛生看護学

【公衆衛生看護管理論】

目標 I. 公衆衛生看護管理の目的・構造・機能、専門的自律と人材育成について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 公衆衛生看護管理の目的と特徴	A. 公衆衛生看護管理の目的	a. 組織・地域の健康水準の向上
		b. 職員や住民の権利の保障
		c. 効果的・効率的な公衆衛生看護活動の実践
	B. 公衆衛生看護管理の特徴	a. 初任期から担う実務的管理機能
		b. 職位に付随する管理機能
		c. 基盤となる基本的な管理機能
2. 公衆衛生看護管理の構造と機能	A. 事例管理の基本	a. サービスの質と量の評価
		b. サービスの総合調整
		c. 関係者との目的の共有や役割分担
	B. 業務管理の基本	a. 必要量と稼働量（組織・個人）
		b. 業務計画の作成・進行管理・評価
		c. 業務委託の管理
	C. 予算管理の基本	a. 予算編成・確保
		b. 予算の執行管理、評価
	D. 情報管理の基本	a. 情報管理に関する法制度（個人情報保護法等）
		b. 個人情報の保護
		c. ICT<情報通信技術>活用の推進に伴う個人情報保護への対応
		d. 看護活動に関する地域情報管理、情報の収集・活用・発信
		e. 情報公開、情報開示
	E. 人事管理の基本	a. ジョブローテーション
		b. 労務管理
		c. キャリアパス、キャリアラダー
		d. ワーク・ライフ・バランス
		e. 人事評価
	F. 組織運営・管理の基本	a. 組織の理念・目標の明確化と共有
		b. 組織体制の整備、必要な人員の確保
		c. 職務・権限・責任の明確化
		d. 組織の意思決定、指揮命令系統、コミュニケーション
		e. 他部門との連携・協働、情報の共有
		f. リスクマネジメント（組織・個人）、苦情対応
3. 専門的自律と人材育成	A. 保健師教育	a. 保健師教育制度の変遷
		b. 保健師教育課程の現状
	B. 継続教育	a. 継続教育の目的と方法
		b. 人材育成方針・計画の策定（OJT、OFF-JT）
	C. 専門的自律	a. 保健活動の研究的評価方法の習得
		b. 事業の成果および研究的評価の蓄積
		c. 研究成果の活用

疫 学

目標 I. 公衆衛生看護の基盤となる疫学概念と方法について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 疫学概念	A. 疫学の定義と分類	a. 疫学の定義
		b. 記述疫学と分析疫学
		c. 人、場所、時間
	B. 曝露と疾病発生	a. 危険因子
	b. 診断基準	
C. 因果関係	a. 時間的關係	
	b. 強固な関連、一致した関連、量反応関連	
	D. 疫学研究における倫理	a. 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針
2. 疾病頻度の指標	A. 割合	a. 有病率
		b. 累積罹患率
		c. 致命率<致死率>
		d. 相対頻度
	B. 率	a. 罹患率
		b. 死亡率
3. 曝露効果の指標	A. 相対危険	a. 罹患率比、死亡率比
		b. 累積罹患率比<リスク比>
		c. オッズ比
	B. 寄与危険	a. 寄与危険割合
		b. 人口<集団>寄与危険
		c. 人口<集団>寄与危険割合
4. 疫学調査法	A. 対象集団の選定	a. 母集団と対象集団
		b. 標本抽出
		c. 無作為抽出
	B. 調査方法(研究デザイン)	a. 生態学的研究
		b. 横断研究
		c. コホート研究
		d. 症例対照研究
		e. 介入研究
	C. 誤差	a. 偶然誤差と精度
		b. 系統誤差と妥当性
	D. 偏り<バイアス>	a. 選択の偏り<バイアス>
		b. 情報の偏り<バイアス>
	E. 交絡とその制御方法	a. 交絡因子
		b. 無作為化(割付)
		c. 制限
		d. マッチング
		e. 層化
	F. 年齢調整	a. 直接法
b. 間接法		

疫 学

大 項 目	中 項 目	小 項 目						
5. スクリーニング	A. スクリーニングの目的	a. 疾病の早期発見（二次予防） b. 集団の特性の把握						
	B. スクリーニングの要件	a. 健康に及ぼす影響 b. 有病率 c. 疾病の検査・診断・治療法の確立 d. 目的の明確化、有効性の科学的根拠、信頼性の確保 e. 十分な情報提供と選択、公平なアクセスの推進 f. 有害事象を上回る有益性						
	C. スクリーニングの評価	a. 敏感度と特異度 b. 陽性反応的中度						
6. 疾病登録	A. 疾病登録の意義	a. がん登録 b. 脳卒中登録 c. 疾病対策の基礎となるデータ（罹患率・生存率）の分析 d. 疾病対策や医療計画への活用 e. 評価に基づく効果的な検診の実施						
	7. 生活習慣の疫学	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">A. 栄養・食生活</td> <td rowspan="6" style="text-align: center; vertical-align: middle;"> ※ A～Fの共通の小項目 a. 生活習慣に起因する健康課題の頻度と分布 b. 危険因子 </td> </tr> <tr><td>B. 活動・運動</td></tr> <tr><td>C. 休息・睡眠</td></tr> <tr><td>D. 飲酒</td></tr> <tr><td>E. 喫煙</td></tr> <tr><td>F. 歯・口腔</td></tr> </table>	A. 栄養・食生活	※ A～Fの共通の小項目 a. 生活習慣に起因する健康課題の頻度と分布 b. 危険因子	B. 活動・運動	C. 休息・睡眠	D. 飲酒	E. 喫煙
A. 栄養・食生活	※ A～Fの共通の小項目 a. 生活習慣に起因する健康課題の頻度と分布 b. 危険因子							
B. 活動・運動								
C. 休息・睡眠								
D. 飲酒								
E. 喫煙								
F. 歯・口腔								
8. 主な疾患の疫学	A. 母性関連疾患	※ A～Kの共通の小項目 a. 頻度と分布 b. 危険因子 c. 年次推移						
	B. 小児疾患							
	C. がん							
	D. 心血管疾患（高血圧を含む）							
	E. 脳血管疾患							
	F. 糖尿病							
	G. 難病							
	H. 精神疾患							
	I. 感染症							
	J. 事故							
	K. 環境要因による疾患							
9. エビデンスに基づく公衆衛生看護に関連する疫学	A. 社会疫学	a. 健康の社会的決定要因 b. 健康格差						
	B. 政策疫学	a. 政策の方針決定への疫学の関わり b. 危険因子に対する予防対策						
	C. 臨床疫学	a. 治療効果の評価 b. システマティックレビュー、メタアナリシス						

保健統計

目標 I. 公衆衛生看護の基盤となる統計学の基礎、統計情報と活用方法について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 統計学の基礎	A. データの種類と分布	a. カテゴリーデータ
		b. 順序データ
		c. 数量データ
		d. ヒストグラム
	B. 測定と尺度	a. 健康評価尺度
		b. 心理発達尺度
		c. 活動・行動・社会尺度
	C. 主な確率分布	a. 正規分布
		b. 二項分布
	D. 代表値と散布度	a. 平均 (算術平均)
		b. 幾何平均
		c. 中央値
		d. 最頻値<モード>
		e. 分散と標準偏差
		f. 四分位数とパーセンタイル値
	E. 関連の指標	a. 相関・散布図
		b. 回帰
		c. クロス集計
	F. 統計分析	a. 点推定と区間推定
		b. 帰無仮説と統計学的有意性
		c. 割合に関する推定と検定 (χ^2 <カイ二乗>検定)
d. 平均に関する推定と検定 (t検定)		
e. 相関係数に関する推定と検定		
f. 多変量解析		
G. 適切な図表の作成と活用	a. データに合わせた図表の選択	
	b. 図表の作成	
	c. 図表の活用	
2. 人口統計	A. 人口静態統計の基本と動向	a. 日本の人口
		b. 年齢別人口
		c. 世界の人口
	B. 人口動態統計の基本と動向	a. 死亡
		b. 出生と人口再生産
		c. 死産、周産期死亡
		d. 婚姻と離婚

保健統計

大項目	中項目	小項目
	C. 主な健康指標と動向	a. 平均寿命 b. 健康寿命 c. 合計特殊出生率 d. 年齢調整死亡率 e. 標準化死亡比<SMR>
3. 保健統計調査	A. 基幹統計の基本と動向	a. 国勢調査
		b. 国民生活基礎調査
		c. 患者調査
		d. 医療施設調査
		e. 学校保健統計調査
		f. 社会生活基本調査
	B. A以外の基礎的な統計調査の基本と動向	a. 感染症発生動向調査
		b. 食中毒統計調査
		c. 国民健康・栄養調査
		d. 地域保健・健康増進事業報告
		e. 身体障害児・者等実態調査
		f. 介護保険事業状況報告
		g. 衛生行政報告例
		h. 福祉行政報告例
	C. 医療経済統計の基本と動向	a. 国民医療費
b. 介護サービス施設・事業所調査		
D. 疾病・障害の定義と分類	a. 国際疾病分類<ICD>	
	b. 国際生活機能分類<ICF>	
E. 活用可能なデータベースの基本	a. レセプト情報・特定健診等情報データベース<NDB>	
	b. 国保データベース<KDB>システム	
4. 情報処理	A. 情報処理の基礎	a. データの電子化
		b. 情報セキュリティ
		c. データベース
		d. レコードリンケージ
	B. 文献検索の方法と結果・データの活用	a. 一次情報、二次情報
		b. 文献検索方法

保健医療福祉行政論

目標Ⅰ．保健医療福祉行政の基本および行政・財政の仕組みについて基本的な理解を問う。
 目標Ⅱ．保健医療福祉における各分野の制度の仕組みと機能、対策の実際や動向について基本的な理解を問う。
 目標Ⅲ．保健医療福祉行政の施策への住民参加と、計画策定・実施・評価のサイクルについて基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目		
1. 保健医療福祉行政の基本	A. 社会保障の理念と背景	a. 日本国憲法における国民の権利及び義務		
		b. 人権保障、権利擁護<アドボカシー>		
		c. 社会保障と税の一体改革		
		d. 健康格差に対する社会保障		
		e. 少子高齢化社会と人口減少への対応		
	B. 公衆衛生政策の理念と背景	a. プライマリヘルスケア		
		b. ヘルスプロモーション（オタワ憲章、バンコク憲章）		
		c. 持続可能な保健医療福祉の仕組み		
		d. 社会保障制度としての国の政策		
		e. 戦後の公衆衛生政策の基盤形成		
		f. 近年の公衆衛生政策の発展		
		g. 諸外国における公衆衛生政策の変遷		
		2. 保健医療福祉の行政・財政の理念と仕組み	A. 保健医療福祉における行政の理念と仕組み	a. 厚生行政の仕組み、厚生労働省の機構
				b. 国と地方公共団体における行政の仕組み
c. 保健医療福祉行政における保健師の役割				
d. 地方自治の目的と仕組み				
e. 地方分権				
f. 地域医療ビジョン、地域包括ケアシステム				
B. 保健医療福祉における財政の理念と仕組み	a. 国と地方公共団体における財政の仕組み			
	b. 社会保障の給付と財源			
	c. 地方財政の歳入と歳出の構造			
	d. 地方財政の予算の原則と予算編成			
	e. 財政の評価と指標			
3. 保健医療福祉行政の分野と制度の基本	A. 地域保健の体系と関係機関の機能・役割	a. 地域保健法、健康増進法		
		b. 保健所、市町村保健センター		
		c. 精神保健福祉センター		
		d. 市町村と都道府県の役割分担と体制整備		
		e. 各関係機関における保健師の役割		
		f. 地域・職域連携の推進		

大項目	中項目	小項目
	B. 公衆衛生行政の分野の制度と概要	a. 生活環境施設、食品安全・衛生行政
		b. 生活衛生
		c. 化学物質の安全対策
		d. 医事薬事行政
		e. 労働衛生・産業保健行政
		f. 学校保健行政
		g. 環境保健行政
	C. 国際的な公衆衛生活動と日本の国際協力活動	a. 国際機関の種類と役割、国際協力の仕組み
		b. 国際交流と国際協力（二国間、多国間）
		c. 経済協力と政府開発援助<ODA>
4. 社会福祉制度と政策	A. 社会保障の仕組みと機能	a. 生活安定・向上、所得再分配、経済安定
		b. 国民皆保険・皆年金、公的扶助
		c. 生活保護
		d. 措置制度と給付制度
	B. 社会福祉制度の概要と機能	a. 次世代育成支援制度、少子化対策
		b. 障害者支援制度
		c. 高齢者介護支援制度
		d. 生活困窮者自立支援対策
		e. 権利擁護制度
	C. 介護保険制度の概要と機能	a. 理念と基本的な仕組み
b. サービスの種類と考え方、ケアマネジメント		
c. 地域包括ケアシステムにおける自治体の役割、地域ケア会議		
d. 生活支援・介護予防の推進、地域支援事業による在宅医療・介護の連携		
e. 費用・介護報酬支払い制度の仕組み		
D. 医療・介護・福祉の包括的な連携の基本的な考え方	a. 地域における医療・介護制度改革	
	b. 連携推進における保健師の役割と住民参加	
	c. 医療の機能分化・連携と地域包括ケア	
	d. 病床機能報告制度と地域医療構想の策定	
	e. 地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律	
5. 医療制度と政策	A. 医療制度と仕組み	a. 医療費・診療報酬支払い制度の仕組み
		b. 医療保険制度（国民健康保険、社会保険）
		c. 医療費助成制度および医療費公費負担制度
	B. 医療体制の管理と整備	a. 医療関係法規
		b. 医療監視制度
		c. 医療提供体制、医療施設の整備、病床機能分化
		d. 医療関係者の現況、医療従事者の確保
		e. 訪問看護制度

保健医療福祉行政論

大項目	中項目	小項目
	C. 医療安全対策	a. 医療事故予防対策 b. 院内感染制御対策
	D. 医療対策と医療提供体制	a. 医療法と地域保健医療計画、地域医療構想（ビジョン） b. 医療計画における5事業と対策 c. 医療供給体制の整備、医療従事者の確保 d. 在宅医療の推進、保健医療福祉の連携 e. 医療圏
6. 保健医療福祉分野における政策への住民参加	A. 計画の種類と目的	a. 行政計画と基本構想 b. 基本構想と保健医療福祉計画の関連 c. 都道府県計画と市町村計画
	B. 行政計画の策定・推進・管理・評価	a. 計画策定のプロセス b. 評価指標、計画目標値・評価指標値の設定 c. 計画の管理・評価の推進体制 d. 政策評価、経済的評価
	C. 政策決定への住民参加	a. 協議会等への住民参加 b. 情報公開とアカウンタビリティ c. パブリックコメント
7. 保健医療福祉分野における政策と動向	A. 生活習慣病対策	※A～Mに共通の小項目 a. 基盤となる法規と概念の変遷 b. 近年の政策の動向
	B. 母子保健対策	
	C. 児童虐待防止対策	
	D. 障害者（児）支援対策	
	E. 高齢者保健福祉対策	
	F. 認知症対策	
	G. 精神保健対策	
	H. 自殺対策、依存症対策	
	I. 歯科口腔保健対策	
	J. 感染症対策	
	K. がん対策	
	L. 難病対策	
	M. 災害対策	

保健師国家試験出題基準・索引

A

AIDS..... 13

Alzheimer病..... 12

AMR..... 13

ASD..... 14

B

BCP : Business Continuity
Plan..... 17

D

DHEAT..... 17

H

HIV感染症..... 13

I

ICD..... 23

ICF..... 23

ICT..... 3, 19

ICT活用..... 19

K

KAPモデル..... 6

KDBシステム..... 23

L

Lewy小体型認知症..... 12

N

NDB..... 11, 23

NPO..... 8

O

ODA..... 25

OFF-JT..... 19

OJT..... 19

P

PDCAサイクル..... 2, 14, 15

PTSD 12, 14, 18

Q

QOLの維持・向上..... 5

S

STI 13, 14

T

THP 16

t検定 22

U

UHC 25

W

well-being..... 1

WHO 13

X

χ^2 <カイ二乗>..... 22

あ

アウトカム評価..... 8

アウトソーシング..... 8

アウトプット評価..... 8

アウトリーチ..... 2, 5

アカウントビリティ..... 26

アドボカシー..... 1

アルコール依存症..... 12

アルツハイマー..... 12

アレルギー..... 14

い

育児 15

いじめ 14

石綿 15

依存症対策..... 26

一次情報 23

一次予防 2

一致した関連 20

一般健康診断 16

医療安全対策 26

医療関係法規 25

医療監視制度 25

医療機関 18

医療計画 21, 26

医療経済統計 23

医療圏 26

医療事故予防対策 26

医療施設 1

医療施設調査 23

医療施設の整備 25

医療従事者 25, 26

医療制度 25

医療制度改革 3

医療体制 25

医療提供施設 11

医療提供体制 25

医療的ケア 10

医療の高度化 3

医療の複雑化 3

医療費公費負担制度 25

医療費支払い制度 25

医療費助成制度 25

医療法 26

医療保険 25

因果関係 20

飲酒 14, 21

院内感染制御対策 26

インフォーマルサービス .. 5

インプット評価 8

う

ウイルス性肝炎 13

ウェルネス行動 4

う蝕の予防 13

うつ病 12

運動 21

運動習慣 4

索引

え

衛生委員会.....	15
衛生行政報告例.....	23
栄養.....	21
疫学.....	7, 20
疫学研究.....	20
疫学調査法.....	20
エスノグラフィ.....	7
嚥下機能の低下の予防.....	13
エンパワメント.....	2, 5, 10

お

横断研究.....	20
オタワ憲章.....	24
オッズ比.....	20
温暖化.....	3

か

回帰.....	22
外国人労働者.....	15
介護サービス施設・事業所調査.....	23
介護保険.....	25
介護保険事業状況報告.....	23
介護予防.....	11
快適職場づくり.....	16
介入研究.....	20
カウンセリング.....	5
科学技術.....	3
化学物質.....	15, 17, 25
覚醒剤・大麻精神病.....	12
学童期.....	14
確率分布.....	22
過重労働.....	15
家族.....	1, 4, 5
家族機能.....	2
家族形態.....	2
家族力動.....	4
偏り<バイアス>.....	20
価値観.....	4
学校.....	1
学校安全計画.....	14
学校環境衛生基準.....	14
学校管理下の事故の防止.....	15

学校教育.....	14
学校保健.....	14
学校保健・安全組織.....	14
学校保健委員会.....	15
学校保健活動.....	14
学校保健計画.....	14
学校保健情報.....	14
学校保健統計.....	14
学校保健統計調査.....	23
活動・行動・社会尺度.....	22
合併症を持つ障害者(児).....	12
カテゴリーデータ.....	22
稼動量.....	19
がん.....	11, 15, 21
環境汚染.....	3
環境管理.....	14
環境要因による疾患.....	21
関係機関.....	17
関係機関・職種.....	7
関係者・機関.....	10
関係職種・機関.....	17
患者調査.....	23
関心期.....	4
間接法.....	20
感染経路.....	18
感染症 .. 3, 15, 17, 18, 21	
感染症対策.....	13, 26
感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律<感染症法>.....	13
感染症発生動向調査.....	13, 23
感染症予防.....	13
がん対策.....	26
がん登録.....	21

き

キーパーソン.....	5
議会.....	8
幾何平均.....	22
基幹統計.....	23
危機的介入.....	5
企業.....	1
危険因子.....	20, 21
帰国日本人.....	10

記述疫学.....	7, 20
喫煙.....	14, 16, 21
気分<感情>障害.....	12
基本的人権の尊重.....	1
帰無仮説.....	22
虐待.....	11
虐待予防.....	12
キャリアパス.....	19
キャリアラダー.....	19
救急処置.....	15
救護所.....	18
休職者.....	15
急性ストレス障害.....	14
休息.....	4, 21
共感.....	5
強固な関連.....	20
共助.....	2
行政.....	1
行政委託型組織.....	8
行政区画.....	7
行政計画.....	26
共通認識.....	9
協働.....	9, 10, 19
業務管理.....	19
業務計画.....	19
業務上疾病.....	15
業務上の負傷.....	15
寄与危険.....	20
寄与危険割合.....	20
近隣.....	1
近隣関係.....	2

く

偶然誤差.....	20
区間推定.....	22
組合.....	1
グループダイナミクス .. 4, 6	
グループワーク.....	6
グローバリゼーション .. 2	
クロス集計.....	22

け

ケアコーディネーション .. 5	
ケアの継続性.....	5, 9

ケアの連続性.....	9
ケアマネジメント.....	25
計画目標値.....	26
経済的評価.....	26
継続期.....	4
継続教育.....	19
継続性.....	2
傾聴.....	5
系統誤差.....	20
ケースマネジメント.....	5, 6
血縁関係のない親子.....	10
結核.....	13
血管性認知症.....	12
月経異常.....	10
研究デザイン.....	20
健康格差.....	2, 21, 24
健康課題4, 5, 7, 8, 11, 13, 14, 17	
健康管理.....	15
健康危機.....	3, 17
健康危機管理.....	17
健康教育.....	6, 15, 17
健康指標.....	23
健康寿命.....	23
健康状態.....	4
健康診査.....	6
健康課題.....	4, 5
健康診断.....	15
健康増進計画.....	11
健康増進行動.....	4
健康増進法.....	24
健康相談.....	5, 6, 15
健康に及ぼす影響.....	21
健康日本21.....	11
健康評価尺度.....	22
健康保険組合.....	16
健康保健増進対策.....	16
健康問題.....	5
健康レベル.....	4
減災.....	17, 18
検診.....	6
権利擁護.....	1, 24
権利擁護制度.....	25

こ

公害.....	3
校区.....	7
口腔.....	21
口腔機能の低下の予防.....	13
合計特殊出生率.....	23
高血圧.....	21
公衆衛生活動.....	25
公衆衛生看護.....	5, 21
公衆衛生看護管理.....	19
公衆衛生行政.....	25
公衆衛生政策.....	24
公助.....	2, 8
構成員.....	8
公的責任.....	1
後天性免疫不全症候群.....	13
行動・情緒の障害.....	12
行動変容.....	5
行動変容段階.....	4
更年期障害.....	10
公平性.....	2, 7, 8
広報.....	17
交絡.....	20
交絡因子.....	20
高齢化.....	3
高齢者介護支援制度.....	25
高齢者虐待.....	11
高齢者雇用.....	15
高齢者施設.....	18
高齢者の保健医療福祉.....	11
高齢者保健福祉対策.....	26
高齢労働者.....	15
コーチング.....	5
コーディネーション.....	2
国際.....	1
国際機関.....	25
国際協力.....	25
国際協力活動.....	25
国際交流.....	25
国際疾病分類.....	23
国際生活機能分類.....	23
国勢調査.....	23
国保データベースシステム.....	23
国民医療費.....	23

国民健康・栄養調査.....	23
国民健康保険.....	25
国民生活基礎調査.....	23
誤差.....	20
互助.....	2
個人.....	1, 19
個人情報保護法等.....	19
子育て.....	10
骨粗鬆症.....	10
子どもの心の診療ネットワー ク事業.....	10
個別健康教育.....	6
コホート研究.....	20
コミュニケーション.....	19
コミュニティ.....	1, 7, 18
コミュニティ・エンパワメン ト.....	7, 8
コミュニティグループ.....	4
雇用形態.....	2
コラボヘルス.....	16
婚姻.....	22
コンサルテーション.....	8
コンプライアンス行動.....	4

さ

サービスの統合.....	5
災害.....	17, 18
災害支援.....	17
災害時健康危機支援システム	17
災害対策.....	26
在外日本人.....	10
再興感染症.....	2, 13
歳出.....	24
在宅療養者の口腔疾患の予防	13
在宅療養難病患者.....	13
歳入.....	24
最頻値.....	22
在留外国人.....	10
作業環境管理.....	15
作業管理.....	15
作業関連疾患.....	15
作業様態.....	15

サポートグループ	4
参加勸奨	6
産業保健	15
産業保健計画	15
算術平均	22
三次予防	2
酸性雨	3
散布度	22

し

支援関係	5
ジェンダーアイデンティティ	14
歯科口腔保健対策	26
歯科保健	13
歯科保健統計	13
時間的關係	20
指揮命令系統	19
子宮癌	10
事業化	2, 6, 7
事業継続計画	17
事故	10, 17, 21
自己決定	5
自己決定の支援	2
自己研鑽	1
自己効力感	4, 5
事後措置	15, 16
自己洞察	6
施策	8
施策化	2, 6, 7
自殺	14
自殺企図	11, 14
自殺対策	26
死産	22
自死遺族	11
歯周疾患予防	13
自主グループ	4
思春期	14
思春期やせ症	14
自助	2
システマティックレビュー	21
次世代育成支援制度	25
自然災害	3, 17
自治会	1, 7, 8

自治体	1
市町村	24
市町村保健センター	24
実行期	4
疾病対策	21
疾病登録	21
疾病予防	10
児童虐待	14
児童虐待防止対策	26
四分位数	22
死亡	22
死亡率	20
死亡率比	20
社会疫学	21
社会格差	2
社会学習理論	6
社会資源	5, 7, 11
社会生活基本調査	23
社会的公正	1
社会的信用の保持	1
社会的ネットワーク	2
社会的背景	5
社会的不利	2
社会的役割	4
社会福祉制度	25
社会保険	25
社会保障	24, 25
社会保障制度	24
社会保障制度改革	3
社会保障と税の一体改革	24
尺度	22
住居	3
周産期死亡	22
集団健康教育	6
集団心理	4
集団力動	4
終末期にある高齢者	11
住民参加	2
住民組織	8
主体性	6
出生	22
順序データ	22
準備期	4
障害	15

障害者支援制度	25
障害者（児）支援対策	26
障害者施設	18
障害者（児）の保健医療福祉	12
障害者（児）の保健医療福祉 施策	12
障害福祉サービス	12
少子化	2, 10
少子化対策	25
少子高齢化社会	24
小集団	1, 10, 11, 12, 13
小児疾患	21
小児慢性特定疾病児	13
情報化	3
情報開示	19
情報管理	19
情報公開	19, 26
情報処理	23
情報セキュリティ	23
情報通信技術	3, 19
情報の偏り<バイアス>	20
症例対照研究	20
職位	19
職域	1
食育	14, 15
職業性疾病	15
食習慣	4
職制	15
食生活	21
食中毒	13, 17
食中毒統計調査	23
職場復帰	15
食品安全・衛生行政	25
初動対応	18
ジョブローテーション	19
自立支援	5, 6, 11, 13
人為災害	3
審議会	8
神経症性障害	12
神経性食欲不振症	14
心血管疾患	11, 21
人権保障	24
人権擁護	11, 12

新興感染症..... 2, 13
 進行管理..... 8
 人口減少..... 24
 人口再生産..... 22
 人口静態統計..... 22
 人口動態統計..... 22
 人口の過疎..... 2
 人口の過密..... 2
 人口の偏在..... 2
 人材育成..... 19
 人材育成計画..... 19
 人材育成方針..... 19
 人事管理..... 19
 人事評価..... 19
 心身症..... 15
 心身障害..... 10
 身体障害児・者等実態調査 23
 身体表現性障害..... 12
 診断基準..... 20
 心的外傷後ストレス障害. 12,
 14, 18
 振動..... 3
 信頼関係..... 2, 5
 心理発達尺度..... 22
 診療報酬支払い制度..... 25

す

水質..... 3
 睡眠時無呼吸症候群..... 12
 スーパーバイズ..... 8
 数量データ..... 22
 スクリーニング..... 6, 21
 スタンダードプリコーション
 13
 ストラクチャー評価..... 8
 ストレス..... 4
 ストレス関連障害..... 12
 ストレスチェック..... 16
 ストレスチェック制度..... 15
 図表..... 22
 スモールステップ法..... 5

せ

生活..... 5

生活環境..... 3, 4
 生活基盤..... 7
 生活権..... 1
 生活困窮者自立支援対策.. 25
 生活支援..... 11
 生活習慣..... 4, 10, 21
 生活習慣病..... 2, 11, 15
 生活習慣病対策..... 26
 生活背景..... 4
 生活不活発病..... 18
 生活様式..... 2
 性感染症..... 13, 14
 正規分布..... 22
 制御方法..... 20
 制限..... 20
 政策疫学..... 21
 政策評価..... 26
 精神作用物質..... 12
 精神疾患..... 21
 精神保健医療福祉..... 11
 成人保健医療福祉..... 11
 精神保健医療福祉施策... 11
 成人保健医療福祉施策... 11
 精神保健対策..... 26
 精神保健福祉センター... 24
 生存権..... 1
 生存率..... 21
 生態学的研究..... 20
 青年期..... 14
 政府開発援助..... 25
 生理的障害..... 12
 世界保健機関..... 13
 摂食障害..... 12
 セルフケア行動..... 4
 セルフケア能力..... 5
 セルフネグレクト..... 11
 セルフヘルプグループ..... 4
 選択の偏り<バイアス>.. 20
 先天性疾患..... 10
 せん妄..... 12
 専門的自律..... 19

そ

騒音..... 3

層化..... 20
 相関係数..... 22
 相関・散布図..... 22
 早期発見..... 10, 11, 21
 双極性障害..... 12
 相互作用アプローチ..... 6
 相対危険..... 20
 相対頻度..... 20
 早発思春期..... 10
 ソーシャル・キャピタル 2, 7
 ソーシャルサポート..... 2
 測定..... 22
 組織..... 8
 組織運営..... 19
 組織化..... 6, 8
 組織管理..... 19
 組織の意思決定..... 19
 組織の目標..... 19
 組織の理念..... 19

た

第一種衛生管理者... 15, 16
 大気..... 3
 大規模人為災害..... 17
 対象集団..... 20
 対人関係..... 11
 ダイナミズム..... 4
 代表値..... 22
 多機関連携..... 2
 多職種連携..... 2
 多胎児..... 10
 妥当性..... 20
 他部門との連携..... 19
 多文化との共生..... 2
 多変量解析..... 22
 男女共同参画社会..... 3

ち

地域アセスメント<地域診
 断>..... 7, 17
 地域医療ビジョン..... 24
 地域活動..... 5
 地域ケアシステム 2, 8, 9, 10,
 11, 12, 13

地域支援事業..... 11
 地域・職域連携活動..... 16
 地域・職域連携の推進..... 24
 地域組織..... 8
 地域特性..... 7
 地域における医療及び介護の
 総合的な確保の促進に関する
 法律〈医療介護総合確保
 推進法〉..... 25
 地域包括ケアシステム 7, 24,
 25
 地域保健..... 24
 地域保健医療計画、地域医療
 構想..... 26
 地域保健・健康増進事業報告
 23
 地域保健法..... 24
 地縁組織..... 8
 地球環境..... 3
 地区..... 1
 地区活動..... 6
 地区視診..... 7
 致死率..... 20
 膣炎..... 10
 地方公共団体..... 24
 地方財政..... 24
 地方自治..... 24
 地方分権..... 3, 24
 致命率..... 20
 中央値..... 22
 調査方法..... 20
 調整..... 2
 重複障害者（児）..... 12
 直接法..... 20
 治療効果..... 21
 治療的アプローチ..... 6

て

低出生体重児..... 10
 データの電子化..... 23
 データベース..... 23
 データヘルス計画..... 16
 適応障害..... 12
 点推定..... 22

と

統計学..... 22
 統計学的有意性..... 22
 統計資料..... 7
 統計分析..... 22
 統合失調症..... 12
 統合失調症型障害..... 12
 当事者組織..... 8
 糖尿病..... 11, 21
 トータル・ヘルス・プロモー
 ションプラン..... 16
 特殊健康診断..... 16
 特定健康診査..... 6, 16
 特定健診等情報データベース
 11
 特定健診等情報データベース
 23
 特定妊婦..... 10
 特定非営利活動法人..... 8
 特定保健指導..... 6, 16
 特別支援教育..... 14
 土壌..... 3
 独居..... 11
 都道府県..... 24
 都道府県計画..... 26
 ドメスティック・バイオレン
 ス〈DV〉..... 10, 17

な

仲間づくり..... 6, 8
 ナルコレプシー..... 12
 難病..... 13, 21
 難病対策..... 13, 26

に

二項分布..... 22
 二次障害・合併症の予防.. 13
 二次障害の予防..... 11, 12
 二次情報..... 23
 二次的健康障害..... 18
 二次予防..... 2, 21
 日常生活圏域..... 7
 日本国憲法..... 24
 乳癌..... 10

乳幼児健康診査..... 10
 人間関係..... 2
 妊産褥婦..... 10
 妊娠..... 15
 認知症高齢者..... 11
 認知症対策..... 26

ね

ネットワーク..... 5, 7, 9
 年齢調整..... 20
 年齢調整死亡率..... 23

の

脳血管疾患..... 21
 脳卒中登録..... 21
 ノーマライゼーション..... 1

は

歯..... 21
 パーセンタイル値..... 22
 パーソナリティ障害..... 12
 パートナーシップ.. 2, 7, 9
 排尿障害..... 10
 廃用症候群..... 18
 ハイリスクアプローチ..... 2
 曝露..... 20
 曝露効果..... 20
 派遣労働..... 15
 発達課題..... 4
 発達障害..... 10, 14
 発達段階..... 4, 14
 パニック障害..... 12, 14
 パブリックコメント.. 8, 26
 ハラスメント..... 15
 バンコク憲章..... 24

ひ

ピアグループ..... 4
 ヒストグラム..... 22
 非正規雇用..... 15
 必要量..... 19
 ヒト免疫不全ウイルス感染症
 13
 ひとり親..... 10

避難所.....	18
評価指標.....	26
評価指標値.....	26
病気回避行動.....	4
病気対処行動.....	4
標準化死亡比<SMR>.....	23
標準偏差.....	22
標準予防策.....	13
病的窃盗.....	12
病的賭博.....	12
病的放火.....	12
標本抽出.....	20
貧困.....	2

ふ

ファシリテーション.....	6
不育.....	10
フォーマルサービス.....	5
フォローアップ.....	5, 6, 10
福祉行政報告例.....	23
福祉施設.....	1
物理的因子.....	15
不登校.....	14
不妊.....	10
不眠症.....	12
プライマリヘルスケア.....	1, 24
プリシード・プロシードモデル.....	6
プレゼンテーション.....	8
プロセス評価.....	8
文化.....	2
文献検索.....	23
文献検索方法.....	23
分散.....	22
粉じん.....	15
分析疫学.....	7, 20

へ

平均.....	22
平均寿命.....	23
ヘルスビリーフモデル.....	4, 6
ヘルスプロモーション.....	1, 24
ヘルスリテラシー.....	4
変化ステージ理論.....	4

変化の3段階理論.....	4
---------------	---

ほ

保育園.....	18
防災.....	17, 18
放射能.....	3
訪問看護制度.....	25
訪問拒否.....	5
暴力.....	14
保健医療福祉.....	24, 26
保健医療福祉行政.....	24
保健医療福祉計画.....	26
保健学習.....	15
保健管理.....	14
保健教育.....	14
保健師活動指針.....	1
保健師教育.....	19
保健師教育課程.....	19
保健師教育制度.....	19
保健師助産師看護師法.....	1
保健室.....	14
保健室経営計画.....	14
保健指導.....	10, 11, 15, 18
保健所.....	24
保健統計調査.....	23
母子保健医療福祉.....	10
母子保健対策.....	26
母集団.....	20
母性関連疾患.....	21
ポピュレーション.....	1
ポピュレーションアプローチ.....	2
ボランティア人材.....	8
ボランティア組織.....	8

ま

マスコミ対策.....	17
マッチング.....	20
マネジメント.....	2
慢性疾患.....	10, 14
慢性腎臓病.....	11
マンパワー.....	8

み

未熟児.....	10
----------	----

む

無関心期.....	4
無作為化.....	20
無作為抽出.....	20

め

面接.....	5
メンタルヘルス.....	2, 10, 15

も

妄想性障害.....	12
モード.....	22
モニタリング.....	5, 7, 8, 18

や

薬剤耐性.....	13
薬物乱用.....	14

ゆ

有害事象.....	21
有効性の科学的根拠.....	21
有病率.....	20, 21
ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ.....	25

よ

要介護高齢者.....	11
養護教諭.....	14
要支援高齢者.....	11
幼児期.....	14
要保護児童対策協議会.....	11
予算.....	8
予算管理.....	19
予算編成・確保.....	19
予防接種.....	10, 13
予防的アプローチ.....	6
予防的訪問.....	5
予防的保健行動.....	4

ら

ライン..... 15

り

罹患率..... 20, 21
罹患率比..... 20
離婚..... 22
リスクアセスメント. 10, 15,
17
リスクコミュニケーション 17
リスク比..... 20
リスクマネジメント..... 17
量反応関連..... 20
臨床疫学..... 21

る

累積罹患率..... 20
累積罹患率比..... 20

れ

レコードリンケージ..... 23
レセプト情報..... 11, 23
レビー小体型認知症..... 12

ろ

老化 10
労災制度..... 15
労働 2
労働安全衛生..... 15

労働安全衛生マネジメントシ
ステム 15
労働衛生管理体制 15
労働災害 15
労働者災害補償保険法 ... 15
労働における安全衛生教育 15
労務管理 19

わ

ワーク・ライフ・バランス10,
16, 19
割合 20, 22
割付 20

助産師国家試験出題基準

助産師国家試験出題基準 目次

基礎助産学

基礎助産学Ⅰ 1

基礎助産学Ⅱ 5

助産診断・技術学

助産診断・技術学Ⅰ 8

助産診断・技術学Ⅱ 10

地域母子保健 26

助産管理 28

基礎助産学

【基礎助産学Ⅰ】

目標Ⅰ. 助産の基本となる概念と変遷、基本姿勢について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 助産の基本	A. 助産・助産師の定義	a. 保健師助産師看護師法
		b. 世界保健機関<WHO>
		c. 国際助産師連盟<ICM>
	B. 助産師の役割と責務	a. 保健師助産師看護師法に基づく義務
		b. 医療法に基づく業務
		c. コア・コンピテンシー、助産師の声明
		d. 守秘義務
		e. 助産師の業務範囲と臨時応急の手当て
	C. 助産における倫理	a. 性と生殖に関する生命倫理
		b. 助産師の倫理綱領
	D. 助産における基本的な概念	a. 対象の権利の尊重
		b. 女性を中心としたケア<Women-centered care>
		c. 家族を中心としたケア<Family-centered care>
		d. リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
		e. エビデンスに基づいた助産活動
	E. 日本・諸外国の助産・助産師の変遷	a. 助産の場
		b. 助産の担い手
		c. 助産師教育
		d. 母子健康手帳

目標Ⅱ. 女性の健康に関する支援のための基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
2. 女性のライフサイクルと健康課題への支援	A. 思春期・成熟期女性に特有な健康課題	a. 性器の奇形・異常
		b. やせ、肥満
		c. 初経（早発月経、遅発月経）
		d. 月経周期の異常（月経不順、稀発月経、無月経）
		e. 体重減少性無月経
		f. 月経困難症
		g. 月経前症候群・月経前不快気分障害<PMDD>
		h. 過多月経、過少月経
		i. 多嚢胞性卵巣症候群<PCOS>
		B. 更年期女性に特有な健康課題
	b. 脂質異常症、糖尿病	
	c. 虚血性心疾患	
	d. メタボリックシンドローム	

基礎助産学

大項目	中項目	小項目	
3. 女性の健康に影響を及ぼす因子	C. 老年期女性に特有な健康課題	a. 萎縮性膀胱 b. 排尿障害、尿失禁、過活動膀胱 c. 骨盤臓器脱 d. 骨粗鬆症、フレイル e. 認知症、抑うつ	
	D. 就業女性に特有な健康課題	a. ライフプランを考慮した健康 b. ワーク・ライフ・バランス	
	E. 女性への暴力と健康課題	a. ドメスティック・バイオレンス<DV> b. 性暴力 c. セクシュアル・ハラスメント	
	A. 遺伝	a. 常染色体遺伝とその異常 b. 性染色体遺伝とその異常	
	B. 食事と栄養	a. 食生活指針、食生活の習慣 b. 栄養所要量 c. 栄養状態の評価法 d. 有害物質の摂取	
	C. 物理・化学的環境	a. 放射線、電磁波 b. 大気汚染 c. 環境汚染物質と環境ホルモン	
	D. 嗜好、薬物	a. 喫煙 b. 飲酒、アルコール依存 c. 薬物（薬物乱用、薬物依存）	
	E. 運動	a. エネルギー不足 b. 過活動	
	4. 性と生殖に関する解剖と生理	A. 内性器、外性器	a. 内性器・外性器の構造と機能 b. 神経の構造 c. 血管の構造
B. 骨盤、骨盤内臓器		a. 骨盤の構造 b. 骨盤内臓器と支持組織 c. 骨盤内臓器の神経・血管支配	
C. 性周期		a. 制御するホルモン b. 生殖器の変化 c. 心身に与える影響	
5. 性の機能と行動		A. 性の分化と発達	a. 性分化の仕組み b. ジェンダー・アイデンティティ c. セクシュアリティの発達
		B. 性行動	a. 性反応 b. 性機能と障害
		6. 女性生殖器と乳房の疾患	A. 子宮と付属器の疾患
B. 乳房疾患	a. 乳癌 b. 乳腺症		

基礎助産学

大項目	中項目	小項目
	C. 検査法	a. 基本的な診察（視診、触診、腔鏡診、内診） b. 子宮頸部細胞診（パップスメアテスト） c. 腔分泌物等を用いた検査（鏡検、培養） d. 超音波断層法 e. マンモグラフィー

目標Ⅲ. リプロダクティブ・ヘルスに関する支援のための基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
7. 家族計画と受胎調節法	A. 家族計画に関する基礎的知識	a. 目的と必要性 b. 生活状況に応じた方法の選択 c. 産後の回復過程に応じた方法の選択 d. パートナーを含めた教育 e. 母体保護法 f. 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律〈医薬品医療機器等法、旧薬事法〉
	※ a～g の共通の中項目 B. 各受胎調節法の特徴や効果 C. 指導における留意点	a. 基礎体温法 b. コンドーム c. 経口避妊薬、緊急避妊薬 d. 子宮内避妊具〈IUD〉 e. 子宮内黄体ホルモン放出システム〈IUS : Intrauterine Contraceptive System〉 f. 不妊手術 g. ペッサリー
8. 婦人科の炎症性疾患	※ a～e の共通の中項目 A. 病態 B. 診断 C. 治療 D. 予防	a. 尿道炎、膀胱炎、腎盂腎炎 b. 子宮頸管炎、子宮内膜炎・筋層炎 c. 陰周囲炎、外陰炎 d. 細菌性陰炎・陰症 e. 骨盤腹膜炎
9. 性感染症〈STI〉	※ a～j の共通の中項目 A. 病態 B. 診断 C. 治療 D. 予防	a. 性器ヘルペス b. 尖圭コンジローマ c. ヒト免疫不全ウイルス〈HIV〉、後天性免疫不全症候群〈AIDS〉 d. クラミジア感染症 e. 淋菌感染症 f. 梅毒 g. ヒトパピローマウイルス〈HPV〉感染症 h. カンジダ症 i. トリコモナス陰炎 j. 疥癬

基礎助産学

大項目	中項目	小項目
10. 不妊症・不育症	A. 女性側の要因の病態、診断と治療	a. 排卵障害
		b. 卵管の障害
		c. 子宮の障害
		d. 性交障害
		e. 卵子のエイジング
		f. 抗リン脂質抗体症候群
		g. 染色体異常
	B. 男性側の要因の病態、診断と治療	a. 精子形成障害
		b. 精管通過障害
		c. 性交障害
C. 不妊症・不育症の女性への支援	a. 社会的支援	
	b. 精神的支援	
	c. 不妊治療	
	d. 生殖補助医療（体外受精、顕微授精）と合併症（多胎妊娠、卵巢過剰刺激症候群）	
	e. 卵巣・配偶子の凍結保存	
	f. 第三者の関わる治療（配偶子・胚の提供、代理懐胎）	
	g. 養子縁組	
11. 出生前診断	A. 出生前診断の基本的な考え方	a. 出生前診断の概念・目的
		b. 出生前診断における倫理
	B. 出生前検査の方法に関する基礎	a. 絨毛検査
		b. 羊水検査
		c. 母体血清マーカー検査
		d. 母体血胎児染色体検査<NIPT：non-invasive prenatal test>
		e. 超音波検査

基礎助産学

【基礎助産学Ⅱ】

目標Ⅰ. 妊娠による女性の変化や正常な妊娠・分娩・産褥の経過及び正常な新生児の経過や乳幼児の成長・発達における特徴について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 妊娠	A. 妊娠の成立	a. 卵胞発育と排卵 b. 子宮内膜（増殖期・分泌期）と機能 c. 造精機能と射精 d. 精子・卵子形成 e. 受精 f. 着床の機序
	B. 妊娠の維持機構	a. 妊娠の維持とホルモン b. 免疫機能
2. 妊娠による母体の変化	A. 生殖器の変化	a. 子宮 b. 子宮付属器 c. 膣、外陰部 d. 乳房
	B. 全身の変化	a. 神経系 b. 感覚器系 c. 循環器系 d. 呼吸器系 e. 消化器系 f. 内分泌系、代謝系 g. 泌尿器系 h. 運動器系
	C. 免疫能の特性	a. 胎児の免疫学的機能 b. 母体－胎児間の免疫
3. 妊娠中の栄養	A. 母体の健康と胎児の発育	a. 妊娠中の栄養所要量 b. ビタミン・鉄・葉酸・カルシウムの過不足 c. 母体低栄養 d. 栄養過剰摂取 e. 非妊時の体格（やせ、肥満） f. 喫煙 g. 飲酒 h. 嗜好品 i. 成人病胎児期発症説〈DOHaD〉
	B. 母体の栄養と妊娠合併症	a. 妊娠糖尿病、糖尿病合併妊娠 b. 妊娠高血圧症候群

基礎助産学

大項目	中項目	小項目
4. 胎児	A. 胎児の発育	a. 妊卵<胚>、胎芽、胎児 b. 胎児の形態と発育
	B. 臓器の成熟と器官形成期	a. 神経・運動器系 b. 感覚器系 c. 循環器系 d. 血液・造血器系 e. 免疫系 f. 呼吸器系 g. 消化器系 h. 内分泌系、代謝系 i. 泌尿器系、生殖器系
5. 胎児付属物	A. 卵膜の構造と機能	a. 羊膜、絨毛膜、脱落膜 b. 母体由来、胎児由来
	B. 羊水の生成と機能	a. 羊水の生成過程・成分 b. 羊水の機能
	C. 臍帯の構造と機能	a. 臍帯血管、臍帯血 b. 臍帯の形状
	D. 胎盤の構造と機能	a. 胎盤の形成と構造 b. 胎盤の発育 c. 胎児－胎盤系循環 d. 物質の胎盤通過性
6. 分娩の基礎	A. 分娩に関する定義	a. 分娩開始の定義 b. 分娩第1期から第4期の定義 c. 妊娠期間による分娩の法的・産科学的定義 d. 分娩様式、分娩体位 e. 分娩誘発、分娩促進 f. 無痛分娩
	B. 分娩の三要素	a. 胎児と胎児付属物 b. 産道 c. 娩出力
7. 新生児の特徴	A. 身体的特徴	a. 身体的発育 b. 成熟徴候
	B. 生理的特徴	a. 神経・運動器系 b. 感覚器系 c. 循環器系 d. 血液・造血器系 e. 免疫系 f. 呼吸器系 g. 消化器系 h. 内分泌系、代謝系 i. 泌尿器系 j. 体温調節

基礎助産学

大項目	中項目	小項目
	C. 行動上の特徴	a. 睡眠と覚醒 b. 哺乳 c. 母子の相互作用
8. 乳幼児の特徴	A. 身体的特徴	a. 身体的発育
	B. 生理的特徴	a. 神経・運動器系
		b. 感覚器系
		c. 循環器系
		d. 免疫系
		e. 呼吸器系
		f. 消化器系
		g. 内分泌系、代謝系
		h. 泌尿器系
	C. 心理・社会的特徴と行動上の特徴	a. 精神発達 b. 生活習慣・行動 c. 食事と栄養 d. 予防接種
9. 妊娠・分娩・産褥と薬物	A. 薬物の作用と母子への影響	a. 子宮収縮薬
		b. 子宮収縮抑制薬
		c. 麻酔薬
		d. 薬物の催奇形性
		e. 薬物の胎盤通過性
	B. 授乳期の薬物摂取と母子への影響	a. 薬物の母乳移行
		b. 乳汁分泌に影響する薬物

助産診断・技術学

【助産診断・技術学 I】

目標 I. 女性や家族の健康課題の解決、健康の保持・増進に必要な相談・教育について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 相談・教育活動の基本	A. 相談・教育の基礎	a. 対象理解
		b. 成人教育における留意点
		c. 問題解決プロセス
		d. 女性を中心にしたケア<Woman-centered care>
		e. セルフケア
		f. エンパワメント
		g. 意思決定支援
	B. 相談・教育活動の過程	a. 計画立案
		b. 実施評価
		c. 教材・媒体の工夫
	C. 相談・教育活動の技術	a. コミュニケーション
		b. カウンセリング
	D. 相談・教育の方法	a. 個別相談
		b. 集団教育
		c. 家庭訪問
		d. 電話相談
e. 仲間づくり		
f. ピアサポート		
g. 討議法、グループワーク		
h. 双方向教育		

助産診断・技術学

目標Ⅱ. 女性のライフサイクル各期における相談・教育活動の実際について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
2. 女性のライフサイクル各期における相談・教育活動の実際	A. 思春期女性への相談・教育	a. 月経に関する教育・相談（月経異常、月経随伴症状）
		b. 性教育（いのちの教育、生命誕生）
	B. 成人期女性への相談・教育	a. ライフプランを考慮した健康
		b. 家族計画、性生活
		c. 子宮頸がん検診
		d. 性感染症<STI>
		e. 不妊症、不育症
		f. 人工妊娠中絶
	C. 周産期にある女性や家族への相談・教育	a. 出産準備教育
		b. 両親学級
		c. 祖父母向け教育（孫育て教室）
		d. 育児に関する相談・教育
		e. 家庭訪問（妊婦訪問、新生児訪問）
		f. 産後の生活、家族計画
	D. 更年期・老年期女性への相談・教育	a. 更年期障害、更年期症状
		b. 骨粗鬆症
c. 骨盤臓器脱、尿失禁		

助産診断・技術学

【助産診断・技術学Ⅱ】

目標Ⅰ. 助産に必要な助産診断・技術について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 助産診断	A. 助産診断・助産ケアの過程	a. 情報収集 b. 助産診断 c. 計画立案 d. 実施 e. 評価 f. 記録
	B. 助産診断に関わる諸理論	a. 適応理論 b. 発達理論 c. 家族理論 d. 親子理論
2. 助産技術	A. 妊娠経過の診断および妊婦健康診査に必要な技術	a. 医療面接、情報収集、インフォームド・コンセント b. 視診 c. 触診（乳房、腹部、Leopold<レオポルド>触診法） d. 計測診（身体計測、骨盤外計測、腹囲、子宮底長） e. 内診、双合診 f. 間欠的胎児心拍数聴取 g. 超音波断層法 h. ノンストレステスト<NST>
	B. 分娩経過の診断・ケアに必要な技術	a. 医療面接、情報収集、インフォームド・コンセント b. 視診 c. 聴診（Doppler<ドプラ>法） d. 触診（Seitz<ザイツ>法、頤部法、後会陰触診法） e. 内診 f. 間欠的胎児心拍数聴取 g. 分娩監視装置による連続モニタリング

助産診断・技術学

目標Ⅱ. 妊娠期の助産診断及び支援について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
3. 妊娠期の助産診断	A. 妊娠の診断	a. 医療面接、情報収集
		b. 性器に現れる妊娠徴候
		c. 性器外に現れる妊娠徴候
		d. 内診
		e. 免疫学的妊娠反応検査
		f. 超音波検査
		g. 分娩予定日の決定
	B. 妊娠経過の診断	a. 身体所見
		b. 体格指数<BMI>、体重増加量
		c. 内診
		d. 血圧
		e. 血液検査
		f. 尿検査
		g. マイナートラブル
		h. 既往歴、家族歴
		i. 妊娠・分娩歴、産科病歴、合併症
	C. 胎児の発育・健康状態の診断	a. 胎児推定体重
		b. 子宮底長、腹囲
		c. 胎位、胎向、胎勢
		d. 胎児心拍数の評価（間欠的胎児心拍数聴取、連続的胎児心拍数モニタリング）
		e. 胎盤付着部位
		f. 胎児胎盤機能検査
		g. 羊水量の変化と羊水量の測定
		h. 母体栄養と胎児の発育
	D. 日常生活行動の診断	a. 食事と栄養
		b. 睡眠、休息
		c. 活動、運動
		d. 排泄
e. 清潔行動		
f. 性生活		

助産診断・技術学

大項目	中項目	小項目
	E. 妊婦と家族の心理・社会的側面の診断	a. 年齢 b. 経済状態 c. 婚姻形態（パートナーとの関係） d. 家族関係（家族の意識と役割） e. 文化的背景（母性意識、母親役割、ソーシャルサポート） f. 妊娠の受容 g. 情緒の変化 h. 不安や問題への対処行動 i. ボディイメージの変化 j. 日常生活行動の変化 k. 過去の出産体験
4. 正常な経過にある妊婦への支援	A. 妊娠期の生活に適応するための支援	a. 食事と栄養
		b. 排泄
		c. 活動と運動
		d. 休息と睡眠
		e. 清潔と衣生活
		f. 定期健康診査受診の推奨
		g. マイナートラブルへの対処
		h. 嗜好品
		i. 性生活
	B. 就労女性への支援	a. 母性健康管理指導事項連絡カード
		b. 就業規則
		c. 労働時間
d. 産前産後休業、育児休業、育児時間		
C. 心理・社会的支援	a. 妊婦の妊娠の受容	
	b. 出産に対する不安	
	c. 出産・育児準備	
	d. 家族関係の形成	
	e. 胎児に対する愛着形成	
	f. 妊婦に対する家族の理解	
	g. 社会資源の活用	

助産診断・技術学

目標Ⅲ. 正常な妊娠経過からの逸脱及びハイリスク状態にある妊婦への支援について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
5. 正常な妊娠経過からの逸脱・産科合併症のある妊婦への支援	※ a～rの共通の中項目 A. 病態 B. 診断と治療 C. 助産診断 D. 助産ケア（健康教育、胎児管理、薬物治療の管理、早期発見、予防を含む）	a. 妊娠悪阻
		b. 切迫流産・早産
		c. 異所性妊娠
		d. 妊娠貧血
		e. 妊娠糖尿病
		f. 頸管無力症
		g. 妊娠高血圧症候群、妊娠高血圧腎症
		h. 羊水量の異常
		i. 絨毛膜羊膜炎
		j. 胎児発育不全<FGR>
		k. 骨盤位
		l. 前期破水
		m. 常位胎盤早期剥離
		n. 子宮内胎児死亡
		o. 過期妊娠
		p. 多胎妊娠
		q. 血液型不適合妊娠
		r. 胎盤の位置異常（前置胎盤）
6. 母子感染のリスクのある妊婦への支援	※ a～nの共通の中項目 A. 病態 B. 診断と治療 C. 助産診断 D. 助産ケア（早期発見、予防を含む）	a. サイトメガロウイルス
		b. ヒトパルボウイルスB19
		c. B型肝炎ウイルス
		d. C型肝炎ウイルス
		e. ヒト免疫不全ウイルス<HIV>
		f. 成人T細胞白血病ウイルス-1型<HTLV-1>
		g. 単純ヘルペスウイルス
		h. 水痘ウイルス
		i. クラミジア
		j. トキソプラズマ
		k. 梅毒トレポネーマ
		l. B群溶連菌
		m. カンジダ
		n. ヒトパピローマウイルス<HPV>

助産診断・技術学

大項目	中項目	小項目
7. ハイリスク状態にある妊婦と家族への支援	A. 愛着形成への支援	a. 妊娠の受容が困難な妊婦
		b. 胎児との愛着形成困難
		c. 被虐待経験者
	B. ハイリスク妊娠における心理的支援	a. 若年妊娠
		b. 高年妊娠
		c. 未受診妊婦
	C. 喪失体験への支援	a. 流産・胎内死亡を経験した女性
		b. 帝王切開既往妊婦

目標Ⅳ. 分娩期の助産診断及び正常な経過にある産婦への支援について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
8. 分娩期の助産診断	A. 分娩開始の予知の診断	a. 自覚症状
		b. 子宮頸管成熟度
		c. 子宮収縮（前駆陣痛）
	B. 分娩開始の診断	a. 陣痛発来
		b. 子宮頸管の変化、子宮口の開大
	C. 破水の診断	a. 自覚症状
		b. 検査法
		c. 陰鏡診、内診
		d. 羊水の性状
	D. 分娩経過の診断	a. 陣痛、腹圧
		b. 骨盤の大きさと形態
		c. 子宮頸管
		d. 膣・会陰の伸展性
		e. 胎児の大きさ
		f. 胎位、胎向、胎勢、回旋
		g. 胎児の下降度
		h. 胎児と骨盤の関係
		i. Friedman<フリードマン>の頸管開大曲線
		j. 児娩出時刻
		k. 分娩所要時間（第1期、第2期、第3期）
l. 胎盤剝離徴候		
m. 児娩出後の出血		
n. 胎盤・卵膜の娩出		
o. 軟産道の裂傷		
p. 出血量		

助産診断・技術学

大項目	中項目	小項目		
	E. 胎児の健康状態の診断	a. 胎児推定体重の算出 b. 胎児の発育評価 c. 胎児心拍数陣痛図 d. 羊水の量・性状 e. 胎盤・胎児の循環動態の評価 f. biophysical profile score<BPS>		
	F. 産婦の日常生活活動の診断	a. 食事と栄養、排泄 b. 休息と睡眠、活動		
	G. 産婦と家族の心理・社会的側面の診断	a. 産婦の情動 b. 産痛への対処行動 c. 家族の支援状況		
	9. 正常な経過にある産婦への支援	A. 分娩第1期の助産ケア	a. 基本的欲求の充足 b. 出産環境への配慮 c. 家族とのコミュニケーション d. 産痛緩和 e. 呼吸法、リラクゼーション f. 分娩進行の促進 g. 家族への支援	
		B. 分娩第2期・分娩第3期の助産ケア	a. 基本的欲求の充足 b. 呼吸法、リラクゼーション c. 必要時の努責の誘導 d. 出血量に応じた体位の調整	
		C. 分娩後2時間までの助産ケア	a. 出血・子宮復古状態の観察 b. 基本的欲求の充足 c. 早期母子接触と実施時の留意点 d. 母子と家族との対面	
		10. 分娩の介助	A. 分娩介助の原理と基本	a. 分娩時の姿勢による分娩介助 b. 分娩体位による特徴 c. 分娩機転 d. 呼吸法、リラクゼーション e. 努責の誘導 f. 産婦の主体性を尊重したケア
			B. 分娩介助時の技術	a. 肛門圧迫・保護 b. 会陰保護 c. 児頭娩出 d. 肩甲娩出 e. 軀幹娩出 f. 胎盤娩出 g. 臍帯切断、臍処置
			C. 胎盤・胎児付属物の検査	a. 観察項目と実施方法

助産診断・技術学

大項目	中項目	小項目			
	E. 胎児の健康状態の診断	a. 胎児推定体重の算出 b. 胎児の発育評価 c. 胎児心拍数陣痛図 d. 羊水の量・性状 e. 胎盤・胎児の循環動態の評価 f. biophysical profile score<BPS>			
	F. 産婦の日常生活活動の診断	a. 食事と栄養、排泄 b. 休息と睡眠、活動			
	G. 産婦と家族の心理・社会的側面の診断	a. 産婦の情動 b. 産痛への対処行動 c. 家族の支援状況			
	9. 正常な経過にある産婦への支援	A. 分娩第1期の助産ケア	a. 基本的欲求の充足 b. 出産環境への配慮 c. 家族とのコミュニケーション d. 産痛緩和 e. 呼吸法、リラクゼーション f. 分娩進行の促進 g. 家族への支援		
			B. 分娩第2期・分娩第3期の助産ケア	a. 基本的欲求の充足 b. 呼吸法、リラクゼーション c. 必要時の努責の誘導 d. 出血量に応じた体位の調整	
				C. 分娩後2時間までの助産ケア	a. 出血・子宮復古状態の観察 b. 基本的欲求の充足 c. 早期母子接触と実施時の留意点 d. 母子と家族との対面
		10. 分娩の介助			A. 分娩介助の原理と基本
			B. 分娩介助時の技術		
				C. 胎盤・胎児付属物の検査	

助産診断・技術学

目標V. 正常な分娩経過からの逸脱及びハイリスク状態にある産婦への支援について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
11. 正常な分娩経過からの逸脱、異常分娩時の産婦への支援	※ a～mの共通の中項目 A. 病態、診断と治療 B. 助産ケア（早期発見、予防を含む）	a. 娩出力の異常（分娩誘発・促進時の管理）
		b. 産道の異常
		c. 胎位・胎勢の異常
		d. 進入・回旋の異常
		e. 前期破水
		f. 遷延分娩
		g. 肩甲難産
		h. 弛緩出血
		i. 子宮破裂
		j. 子宮内反症、頸管・腔・会陰裂傷
		k. 子癇
		l. 羊水塞栓
		m. 播種性血管内凝固症候群<DIC>、産科DIC
12. 胎児及び胎児付属物異常がある産婦への支援	※ a～dの共通の中項目 A. 病態、診断と治療 B. 助産ケア（早期発見、予防を含む）	a. 胎児機能不全
		b. 胎児付属物の異常
		c. 多胎
		d. 形態異常
13. 産科手術および産科的医療処置が必要な産婦への支援	※ a～mの共通の中項目 A. 適応、準備と方法 B. 助産ケア	a. 会陰切開術
		b. 会陰縫合術
		c. 産科麻酔（硬膜外麻酔）
		d. 腹式帝王切開術
		e. 分娩誘発・促進
		f. 子宮底圧迫法
		g. 骨盤位牽出術
		h. 吸引遂娩術
		i. 鉗子遂娩術
		j. 胎盤圧出法、用手剥離
		k. 子宮摘出術
		l. 子宮腔内タンポナーデ
		m. 動脈塞栓術による止血<IVR：Interventional radiology>

助産診断・技術学

目標VI. 助産に必要な緊急時・搬送時の対応について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
14. 緊急時・搬送時の支援	A. 応急処置	a. 使用物品と薬剤
		b. 止血法
		c. 会陰裂傷縫合術
		d. 母体の蘇生法
		e. 出血性ショック時の処置
		f. 非出血性ショック時の処置
		g. 自動体外式除細動器<AED>
		h. 異常出血に対する処置（妊娠前半期、妊娠後半期、分娩時、播種性血管内凝固症候群<DIC>、産科DIC、産科危機的出血の診断）
	B. 緊急時の対応	a. 妊産褥婦への説明と同意
		b. 妊産褥婦の心理的支援
		c. 家族への心理的支援
	C. 搬送時の対応	a. 母体搬送の適応と対応
		b. 新生児搬送の適応と対応
c. 多職種・多機関の協働・連携		
d. 周産期医療体制		

助産診断・技術学

目標Ⅶ. 産褥期の助産診断及び支援についての基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
15. 産褥期の助産診断	A. 産褥経過の診断	a. 身体所見
		b. 子宮と付属器
		c. 膣、外陰、肛門
		d. 血液検査
		e. 尿検査
		f. 不快症状
		g. 妊娠・分娩歴、産科病歴、合併症
	B. 日常生活行動の診断	a. 栄養と食事
		b. 睡眠、休息
		c. 活動、運動
		d. 排泄
		e. 清潔行動
		f. 日常生活への適応
		g. 性生活
	C. 褥婦と家族の心理・社会的側面の診断	a. 年齢
		b. 経済状態
		c. 婚姻形態
		d. 家族関係
		e. 文化的背景
		f. 出産体験の受容
g. 母性、父性、親性の発達過程		
h. 親役割の獲得		
i. 家族機能の変化、家族の役割獲得		
j. 居住地域の育児環境		
k. マタニティーブルーズ		
l. 産後うつ病		
D. 育児能力の診断	a. 育児行動の文化的背景	
	b. 褥婦の心理に影響を及ぼす要因	
	c. 児の受容	
	d. 子への愛着形成	
	e. 育児技術の習得	
	f. 育児不安と対処行動	
E. 母乳育児に関する診断	a. 乳房の変化	
	b. 乳汁分泌量の変化	
	c. 児の哺乳行動、哺乳サイン、吸着、吸啜	
	d. 授乳技術とセルフケア能力	

助産診断・技術学

大項目	中項目	小項目
16. 正常経過にある褥婦と家族への支援	A. 産褥期の生活への適応および退行性変化促進への支援	a. 栄養と食生活
		b. 排泄
		c. 睡眠、休息、生活リズム
		d. 活動、運動、産褥体操、日常生活の行動拡大
		e. 身体の清潔、外陰部の清潔
		f. 子宮底輪状マッサージ法
		g. 性生活
	B. 母乳育児への支援	a. 母乳育児に関する意識
		b. 母乳分泌促進法・抑制法
		c. 哺乳の評価
		d. 乳房のセルフケア
		e. 乳房トラブルの予防と対処法
		f. 母乳育児のための社会資源
		g. 母乳代用品の安全性
	C. 育児行動獲得への支援	a. 母親・パートナー（配偶者）の役割獲得
		b. 愛着形成促進
		c. 育児技術の取得
		d. 育児環境の調整
		e. 子どもがいる生活への調整
		f. 家族関係の調整
D. 褥婦と家族への心理・社会的支援	a. 産婦・家族の分娩体験の想起	
	b. 出生に関わる届出の支援	
	c. 職場復帰への支援	

助産診断・技術学

目標Ⅷ. 正常な産褥経過からの逸脱及びハイリスク状態にある褥婦への支援について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
17. 不快症状の緩和への支援	※ a～dの共通の中項目 A. 病態、診断、治療 B. 助産ケア（早期発見、予防を含む）	a. 後陣痛 b. 会陰部疼痛 c. 脱肛・痔核 d. 排尿・排便障害
18. 正常な産褥経過からの逸脱・産科的異常のある褥婦への支援	※ a～iの共通の中項目 A. 病態、診断、治療 B. 助産ケア（早期発見、予防を含む）	a. 産褥早期出血 b. 産褥晚期出血 c. 子宮復古不全 d. 産褥熱 e. 恥骨結合離開 f. 静脈瘤、血栓性静脈炎 g. 深部静脈血栓症、肺塞栓症 h. 感染症 i. 妊娠高血圧症候群後遺症
19. 乳房の異常がある褥婦への支援	※ a～bの共通の中項目 A. 病態、診断、治療 B. 助産ケア（早期発見、予防を含む）	a. 乳頭損傷 b. 乳腺炎
20. 特別な母乳育児支援を必要とする褥婦への支援	※ a～cの共通の中項目 A. 対象の理解 B. 助産ケア	a. 医学的適応により人工乳の補足が必要な児 b. 乳癌の合併 c. 成人T細胞白血病ウイルス-1型<HTLV-1>キャリア
21. 特別な育児支援を必要とする褥婦への支援	※ a～fの共通の中項目 A. 対象の理解 B. 助産ケア	a. 多胎出産 b. 不妊治療後の出産 c. 障害児 d. 予後不良児 e. 在留外国人家庭 f. ひとり親家庭
22. 心理的リスクがある褥婦への支援	※ a～dの共通の中項目 A. 病態、診断、治療 B. 助産ケア（早期発見、予防を含む）	a. 産後うつ病 b. 産褥精神病 c. 帝王切開術後 d. 流産・早産・死産経験

助産診断・技術学

目標IX. 妊娠期から産褥期における合併症がある妊産褥婦への支援について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
23. 合併症がある妊産褥婦への支援	※ a～eの共通の中項目 A. 病態、診断、治療 B. 助産ケア（早期発見、予防を含む）	a. 心疾患
		b. 腎疾患
		c. 甲状腺疾患
		d. 糖尿病
		e. 子宮筋腫

目標X. 新生児期の助産診断及び支援について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目	
24. 出生後24時間以内の新生児の助産診断	A. 胎外環境への適応と成長・成熟	a. Apgar<アプガー>スコア	
		b. 出生直後の状態	
		c. 呼吸の確立	
		d. Silverman<シルバーマン>スコア	
		e. 全身の状態	
		f. パイタルサイン	
		g. 身体計測値	
		h. 成熟度の判定（Dubowitz法）	
		i. 睡眠・覚醒レベル	
		B. 正常からの逸脱の診断	a. 新生児仮死
			b. 黄疸
c. 胎内環境と新生児への影響の評価			
d. 外表奇形、特異な顔貌			
25. 出生後24時間以降の新生児の助産診断	A. 胎外環境への適応と成長・成熟	a. 胎外環境への適応状態	
		b. 分娩侵襲からの回復	
		c. 哺乳	
		d. 消化と排泄	
		e. 生理的体重減少	
	B. 正常からの逸脱の診断	a. 黄疸	
		b. 原始反射	
		c. 臍帯出血、臍帯の脱落	
		d. 新生児聴覚スクリーニング	
		e. 先天性代謝異常検査	
26. 出生後24時間以内の新生児への支援	A. 胎外環境への適応への支援	a. 胎外環境への適応の促進	
		b. 保温	
	B. 成長・発達への支援	a. 母子接触	
		b. 哺乳	
		c. 排泄	

助産診断・技術学

大項目	中項目	小項目
	C. 予防の支援	a. 感染予防 b. 点眼 c. 安全確保 d. 与薬（ビタミンK ₂ シロップ）
27. 出生後24時間以降の 新生児への支援	A. 成長・発達への支援	a. 栄養と授乳 b. 保温と環境温度の調整
	B. 清潔への支援	a. 保清、沐浴 b. 感染予防
	C. 成長・発達及び愛着形成 への支援	a. 母子同室中のケア b. 母子愛着形成促進のためのケア

目標XI. 新生児の正常からの逸脱及び異常な症状・状態・疾患がある新生児と家族への支援について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
28. 新生児の正常からの 逸脱、および異常な 症状・状態への支援	※ a～oの共通の中項目 A. 病態、診断、治療 B. 助産ケア（早期発見、 予防を含む）	a. 呼吸障害 b. 無呼吸発作 c. チアノーゼ d. 嘔吐 e. 腹部膨満 f. 吐血・下血 g. けいれん h. 麻痺 i. 発熱 j. 低体温 k. 黄疸 l. 頭血腫 m. 帽状腱膜下出血 n. 心雑音 o. なんとなく元気がない<not doing well>
		29. 治療を必要とする新 生児と家族への支援
		a. 呼吸障害（酸素療法、人工呼吸療法） b. 光線療法 c. 経管栄養 d. 輸液管理 e. 新生児蘇生法

助産診断・技術学

大項目	中項目	小項目
30. 疾患がある新生児と家族への支援	※ a～kの共通の中項目 A. 病態、診断、治療 B. 助産ケア	a. 新生児低血糖症
		b. 新生児一過性多呼吸<TTN>
		c. 胎便吸引症候群<MAS>
		d. 気胸、縦隔気腫
		e. 高ビリルビン血症
		f. 新生児ビタミンK欠乏症
		g. 新生児皮膚疾患（中毒疹、おむつ皮膚炎）
		h. 新生児眼疾患（鼻涙管狭窄）
		i. 外表奇形
		j. 分娩外傷（鎖骨骨折、上腕神経叢麻痺）
		k. 感染症

目標XII. 乳幼児の正常発達・発育経過を判断し、それらを促進する支援について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
31. 正常な経過にある乳幼児への支援	A. 乳幼児の助産診断	a. 身体所見、発育の評価
		b. 発達診断学的診察
		c. 視覚検査
	B. 乳幼児の発達を促進する支援	a. 栄養
		b. 遊び
		c. 生活習慣・生活リズムの確立
		d. 情緒の発達
	C. 乳幼児の社会性を促進する支援	a. 家庭環境との関連
		b. 社会生活のマナー
		c. 自立を促す支援
		d. 人間関係の形成
	D. 乳幼児に起こりやすい事故の予防と対策	a. 窒息
		b. 溺水
		c. 誤飲
		d. 交通事故
		e. 転落
	E. 乳幼児の疾病予防への支援	a. 予防接種
		b. 歯・口腔の衛生

助産診断・技術学

目標Ⅲ. 乳幼児に起こる主な疾患及び支援について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
32. 乳幼児の疾患と支援	A. 乳幼児によくみられる感染症の病態・診断・治療と支援	a. 突発性発疹
		b. 百日咳、水痘、流行性耳下腺炎
		c. RSウイルス感染症（細気管支炎）
		d. カンジダ症、鷺口瘡
		e. ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群<SSSS>
		f. 乳幼児下痢症（ロタウイルス、ノロウイルス）
	B. 乳幼児の発達上の問題	a. 染色体異常（21トリソミー）
		b. 甲状腺機能低下症（クレチン症）
		c. 被虐待児症候群
C. 乳幼児突然死症候群<SIDS>	a. リスク因子	
	b. 予防法と指導	

目標Ⅳ. 低出生体重児・早産児の特徴や疾患及び支援について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
33. 低出生体重児・早産児の特徴と疾患	A. 低出生体重児・早産児の分類	a. 出生体重による分類
		b. 在胎週数による分類
		c. 在胎週数と出生体重による分類
	B. 低出生体重児・早産児の特徴	a. 外観
		b. 循環器系
		c. 血液
		d. 免疫系
		e. 呼吸器系
		f. 消化器系、代謝系
		g. 泌尿器系
		h. ビリルビン代謝
		i. 体温調節

助産診断・技術学

大項目	中項目	小項目
	C. 低出生体重児・早産児の疾患の病態・診断	a. 呼吸窮迫症候群<RDS> b. 無呼吸発作 c. 未熟児動脈管開存症 d. 未熟児網膜症 e. 脳室内出血 f. 脳室周囲白質軟化症 g. 核黄疸 h. 壊死性腸炎 i. 敗血症、髄膜炎 j. 未熟児貧血 k. 未熟児腎減少症<未熟児くる病> l. 低血糖症 m. 低カルシウム血症 n. 低体温症
	D. 低出生体重児・早産児の予後・経過	a. 死亡率 b. 成長・発達 c. 後遺症
34. 低出生体重児・早産児への支援	A. 異常の早期発見、予防のための支援	a. 体温管理と体温調節のケア b. 呼吸管理 c. 皮膚のケア d. 水分・電解質・血糖管理 e. 栄養管理と授乳 f. 感染予防
	B. 発達のための支援（ディベロップメンタルケア）	a. ディベロップメンタルケアの目的と対象 b. ディベロップメンタルケアの内容（ポジショニング、ハンドリング、早期母子接触、タッチケア） c. 家族への支援（哺乳支援、ファミリーケア）

地域母子保健

目標Ⅰ. 母子保健の動向について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 地域母子保健の基本	A. 母子保健の概念	a. 母子保健の変遷 b. 地域の特性と母子保健
	B. 母子の健康に関わる因子	a. 社会環境、生活環境、住環境 b. 生活行動 c. 生活様式 d. 家族、地域
2. 母子保健の動向と課題	A. 統計にみる母子保健の動向	a. 出生数、出生率 b. 合計特殊出生率 c. 妊産婦死亡 d. 自然流産、人工流産、死産 e. 周産期死亡 f. 新生児死亡 g. 乳児死亡、幼児死亡 h. 女性の就業率 i. 人工妊娠中絶
	B. 母子保健に関する課題	a. 少子化 b. 育児支援の必要性 c. 経済格差、医療の地域格差 d. 家族形態の多様化 e. 在留外国人、グローバル化

目標Ⅱ. 母子保健活動及び助産業務を行う上で必要な母子保健行政と母子保健制度・施策について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
3. 母子保健行政の体系	A. 母子保健行政の仕組み	a. 母子保健行政の動向 b. 母子保健行政における国・都道府県・市町村の役割 c. 母子保健行政の財源
	B. 母子保健に関わる法律	a. 母子及び父子並びに寡婦福祉法 b. 児童虐待の防止等に関する法律 c. 雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律<男女雇用機会均等法> d. 育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律<育児・介護休業法>

地域母子保健

大項目	中項目	小項目
	C. 母子保健に関わる制度	a. 健康診査
		b. 保健指導
		c. 療養援護
		d. 医療対策
		e. 母子健康手帳
		f. 予防接種
	D. 主な母子保健施策	a. 健やか親子21（第2次）
		b. 次世代育成支援対策
		c. 少子化対策
		d. 妊産婦のための食生活指針
		e. 授乳・離乳の支援
		f. 母子感染予防（B型肝炎ウイルス、成人T細胞白血病ウイルス-1型<HTLV-1>）
		g. 子どもの事故
		h. 妊娠高血圧症候群等療養援護
	i. 特定不妊治療費助成事業	
	j. 母子自立支援、貧困対策、ひとり親家庭等日常生活支援事業	
	k. 産前・産後ケア事業	

目標Ⅲ. 助産師が行う地域母子保健活動の実際について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
4. 地域母子保健活動の実際	A. 地域の様々な場における助産師の役割	a. 助産所
		b. 診療所・病院
		c. 周産期医療センター
		d. 市町村保健センター
		e. 保健所
		f. 子育て世代（母子健康）包括支援センター
		g. 職能団体
	B. 地域における助産師の活動と留意点	a. 児童虐待予防
		b. 育児支援（電話相談、ベビーマッサージ）
		c. 産後ケア事業
		d. 妊産褥婦の訪問
		e. 新生児訪問指導
		f. 出産準備教育
		g. メンタルヘルスケア
		h. 性教育
C. 母子保健活動における連携・協働	a. 多職種連携	
	b. 民間組織・自助グループ<セルフヘルプグループ>との連携	
	c. 地域包括ケアシステム	

助産管理

目標 I. 助産管理の基本、助産業務管理、助産所の管理・運営、周産期医療とその安全について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 助産管理の基本と助産業務管理	A. 助産管理の基本	a. 助産業務管理の特性
		b. 組織における助産師の役割と助産管理体制
		c. 助産の質の管理と保証
	B. 助産業務管理の過程	a. 管理目標の設定
		b. 業務の分析
		c. 業務計画の策定
		d. 業務の評価
	C. 助産業務管理の実際	a. 人事・物品・経済・情報・時間の管理
		b. 人材育成（クリニカルラダー）
		c. 看護体制
		d. 文書・記録の管理と開示
		e. 診療情報提供
		f. 他部門・他機関との連携、協調
		g. 地域との連携、ネットワーク
		h. 業務の質の管理
D. 場に応じた助産業務管理の特徴	a. 周産期棟、混合病棟の管理	
	b. 外来の管理	
	c. 院内助産・助産外来の管理	
	d. 助産所の管理	
E. 助産業務管理と医療経済	a. 医療保険制度	
	b. 診療報酬	
	c. 分娩費用、健康診査に係わる費用	
	d. 出産育児一時金	
2. 助産師及び助産師の業務に関わる法と責任	A. 助産師の業務に関わる関係法規	a. 保健師助産師看護師法
		b. 医療法
		c. 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律<医薬品医療機器等法、旧薬事法>（処方せん医薬品等取り扱い）
		d. 母子保健法
		e. 母体保護法
		f. 児童福祉法
		g. 地域保健法
	B. 届出に関わる関係法規	a. 戸籍法（出生届、婚姻届）
		b. 刑法（秘密漏示の禁止、墮胎の禁止、虚偽私文書作成の禁止）
		c. 保健師助産師看護師法（出生証明書、死産証書、死胎検案書）

助産管理

大項目	中項目	小項目
	C. 女性の支援に関わる関係法規	a. 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律<DV防止法>
		b. 育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律<育児・介護休業法>
		c. 性同一性障害者の性別の取扱いの特例に関する法律
		d. 母子及び父子並びに寡婦福祉法
		e. 健康保険法、国民健康保険法（出産育児一時金の支給）
		f. 労働基準法
		g. 雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律<男女雇用機会均等法>
		h. 男女共同参画社会基本法
		i. 生活保護法（出産扶助）
	D. 子どもの支援に関わる関係法規	a. 児童虐待の防止等に関する法律
		b. 少子化社会対策基本法
		c. 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律<障害者総合支援法>
	E. 助産師の法的義務	a. 応召義務
		b. 出生証明書の交付
		c. 死産証書および死胎検案書の交付
d. 異常死産児の届出		
e. 助産録の記録と保存		
f. 就業（業務従事者届）の届出		
g. 守秘義務		
3. 助産所の管理・運営	A. 関係法規に基づく管理	a. 助産所の定義
		b. 助産所の開設者と管理者
		c. 助産所の管理者の義務
		d. 助産所の構造と設備
		e. 助産所の広告
	B. 助産所の管理・運営の基本	a. 嘱託医および嘱託医療機関との連携・協働
		b. 救急時の搬送と搬送基準
		c. 環境・設備・備品の整備
		d. 地域医療、行政との連携・協働
		e. 助産所での分娩の適応基準
		f. 自宅分娩の適応と可否の判断
4. 周産期医療における連携・協働	A. チーム医療における連携	a. 周産期医療体制
		b. 周産期医療におけるチーム医療、多職種との連携・協働
		c. 地域連携とオープンシステム

助産管理

大項目	中項目	小項目
5. 助産師が行う医療安全と危機管理	A. 安全対策	a. リスクマネジメント
		b. 感染予防・管理、院内感染、薬剤耐性<AMR>
		c. 傷害等の対応と損害賠償保険
		d. 産科医療補償制度
	B. 医療事故防止対策	a. 医療事故防止対策
		b. 医療事故の原因
		c. 救急体制
		d. 法的責務
	C. 災害対策・支援活動	a. 平時の災害への備えと訓練
		b. 発災時の初期対応
		c. 被災した妊産婦・母子・女性の特徴と支援
		d. 妊産婦・母子・女性への災害に対する教育

助産師国家試験出題基準・索引

2

21トリソミー……………24

A

AED……………17
 AIDS……………3
 AMR……………30
 Apgarスコア……………21

B

BMI……………11
 BPS……………15
 B型肝炎ウイルス…13, 27
 B群溶連菌……………13

C

C型肝炎ウイルス…13

D

DIC……………16, 17
 DOHaD……………5
 Doppler法……………10
 Dubowitz法……………21
 DV……………2
 DV防止法……………29

F

FGR……………13
 Family-centered care…1
 Friedman<フリードマン>の
 頸管開大曲線……………14

H

HIV……………3, 13
 HPV……………3, 13
 HTLV-1……………13, 20, 27

I

ICM……………1

Intrauterine Contraceptive
 System……………3
 IUD……………3
 IUS……………3
 IVR……………16

L

Leopold触診法……………10

M

MAS……………23

N

NIPT……………4
 not doing well……………22
 NST……………10

P

PCOS……………1
 PMDD……………1

R

RDS……………25
 RSウイルス感染症……………24

S

Seitz法……………10
 SIDS……………24
 Silvermanスコア……………21
 SSSS……………24
 STI……………3, 9

T

TTN……………23

W

WHO……………1
 Women-centered care…1, 8

あ

愛着形成…12, 14, 18, 19

愛着形成困難……………14
 愛着形成促進……………19
 アプガースコア……………21
 アルコール依存……………2
 安全確保……………22
 安全対策……………30

い

医学的適応……………20
 育児・介護休業法…26, 29
 育児環境……………19
 育児技術……………18, 19
 育児休業……………12
 育児休業、介護休業等育児又
 は家族介護を行う労働者の
 福祉に関する法律…26, 29
 育児支援……………27
 育児時間……………12
 育児能力……………18
 育児不安……………18
 育児文化的背景……………18
 維持機構……………5
 意思決定支援……………8
 萎縮性膣炎……………2
 異常死産児の届出……………29
 異常出血……………17
 異常分娩時……………16
 異所性妊娠……………13
 一過性多呼吸……………23
 遺伝……………2
 いのちの教育……………9
 衣服……………12
 頤部法……………10
 医薬品、医療機器等の品質、
 有効性及び安全性の確保等
 に関する法律…3, 28
 医薬品医療機器等法…3, 28
 医療経済……………28
 医療事故……………30
 医療事故防止対策……………30
 医療対策……………27
 医療の地域格差……………26

索引

医療法..... 1, 28
医療保険制度..... 28
医療面接..... 10, 11
イレウス..... 23
飲酒..... 2, 5
院内感染..... 30
院内助産の管理..... 28
インフォーム・ドコンセント
..... 10

う

運動..... 2, 11, 12, 19
運動器系..... 5, 6

え

エイジング..... 4
栄養.....
2, 6, 11, 12, 15, 18, 19,
22, 23
栄養過剰摂取..... 5
栄養状態の評価法..... 2
栄養所要量..... 2, 5
会陰切開術..... 16
会陰の伸展性..... 14
会陰部疼痛..... 20
会陰縫合術..... 16
会陰保護..... 15
会陰裂傷..... 16
会陰裂傷縫合術..... 17
壊死性腸炎..... 25
エチケット..... 23
エネルギー不足..... 2
エンパワメント..... 8

お

応急処置..... 17
応召義務..... 29
黄疸..... 21, 22
嘔吐..... 22
オープンシステム..... 29
おむつ皮膚炎..... 23
親子理論..... 10
親になる準備..... 12
親役割..... 12

親役割の獲得..... 18

か

外陰..... 18
外陰炎..... 3
外陰部..... 5
外観..... 24
外性器..... 2
回旋..... 14
疥癬..... 3
回旋の異常..... 16
外表奇形..... 21, 23
回復過程..... 3
解剖..... 2
外来の管理..... 28
カウンセリング..... 8
化学的環境..... 2
過活動..... 2
過活動膀胱..... 2
過期妊娠..... 13
核黄疸..... 25
覚醒レベル..... 21
鷲口瘡..... 24
家族..... 15, 17, 26
家族関係..... 12, 18, 19
家族計画..... 3, 9
家族形態の多様化..... 26
家族の役割獲得..... 18
家族への心理的支援..... 17
家族理論..... 10
家族歴..... 11
家族を中心としたケア..... 1
過多月経..... 1
活動..... 11, 12, 18, 19
合併症..... 11
家庭環境..... 23
家庭訪問..... 8, 9
カルシウム..... 5
感覚器系..... 5, 6, 7
環境..... 26
環境汚染物質..... 2
環境温度..... 22
環境ホルモン..... 2
関係法規..... 28, 29

間欠的胎児心拍数聴取... 11
看護体制..... 28
鉗子遂娩術..... 16
カンジダ..... 13
カンジダ症..... 3, 24
感染症..... 20, 23
感染予防..... 22
感染予防・管理..... 30
管理目標の設定..... 28

き

既往歴..... 11
器官形成期..... 6
気胸..... 23
奇形児分娩..... 16
基礎体温法..... 3
喫煙..... 2, 5
基本姿勢..... 1
基本的欲求..... 15
義務..... 1
吸引遂娩術..... 16
救急時の搬送..... 29
救急体制..... 30
吸収..... 6
休息... 11, 12, 15, 18, 19
吸着..... 18
吸啜..... 18
旧薬事法..... 3, 28
教材・媒体の工夫..... 8
行政との連携・協働..... 29
業務計画の策定..... 28
業務の質の管理..... 28
業務の評価..... 28
業務の分析..... 28
虚偽私文書作成の禁止... 28
虚血性心疾患..... 1
居住地域の育児環境..... 18
記録..... 10
緊急時の対応..... 17
緊急避妊薬..... 3

く

軀幹娩出..... 15
クラミジア..... 13

クラミジア感染症.....	3
クリニカルラダー.....	28
グループワーク.....	8
クレチン症.....	24
グローバル化.....	26

け

計画立案.....	8, 10
経管栄養.....	22
頸管無力症.....	13
頸管裂傷.....	16
経口避妊薬.....	3
経済格差.....	26
経済状態.....	18
計測診.....	10
刑法.....	28
けいれん.....	22
下血.....	22
血圧.....	11
血液.....	6, 24
血液型不適合妊娠.....	13
血液系.....	6
血液検査.....	11, 18
血管の構造.....	2
月経異常.....	9
月経教育.....	9
月経困難症.....	1
月経随伴症候群.....	9
月経周期.....	1
月経前症候群.....	1
血栓性静脈炎.....	20
健康.....	2
健康課題.....	1
健康状態.....	15
健康診査.....	27
健康診査に係わる費用.....	28
健康保険法.....	29
肩甲難産.....	16
肩甲娩出.....	15
検査法.....	3, 14
原始反射.....	21
原理.....	15

こ

コア・コンピテンシー.....	1
誤飲.....	23
後会陰触診法.....	10
口腔の衛生.....	23
合計特殊出生率.....	26
甲状腺機能低下症.....	24
甲状腺疾患.....	21
後陣痛.....	20
光線療法.....	22
交通事故.....	23
後天性免疫不全症候群.....	3
更年期障害.....	1, 9
更年期症状.....	9
更年期女性.....	1, 9
高年妊娠.....	14
高ビリルビン血症.....	23
硬膜外麻酔.....	16
肛門.....	18
肛門圧迫.....	15
肛門保護.....	15
抗リン脂質抗体症候群.....	4
呼吸.....	6
呼吸器系.....	5, 6, 7, 24
呼吸窮迫症候群.....	25
呼吸障害.....	22
呼吸の確立.....	21
呼吸法.....	15
国際助産師連盟.....	1
国民健康保険法.....	29
戸籍法.....	28
子育て支援.....	26
子育て世代包括支援センター.....	27
骨粗鬆症.....	2, 9
骨粗鬆症予防.....	9
骨盤.....	2
骨盤位.....	13
骨盤位牽出術.....	16
骨盤外計測.....	10
骨盤臓器脱.....	2, 9
骨盤内臓器.....	2
骨盤の大きさと形態.....	14
骨盤腹膜炎.....	3

子どもがいる生活.....	19
子どもの事故.....	27
個別相談.....	8
コミュニケーション ..	8, 15
雇用の分野における男女の均 等な機会及び待遇の確保等 に関する法律.....	26, 29
婚姻形態.....	18
婚姻届.....	28
混合病棟の管理.....	28
コンドーム.....	3

さ

災害対策・支援活動.....	30
細気管支炎.....	24
細菌性膣炎・膣症.....	3
細菌性膣症.....	3
催奇形性.....	7
財源.....	26
臍処置.....	15
臍帯.....	6
臍帯血.....	6
臍帯血管.....	6
在胎週数.....	24
臍帯出血.....	21
臍帯切断.....	15
臍帯の形状.....	6
臍帯の脱落.....	21
ザイツ法.....	10
サイトメガロウイルス ..	13
在留外国人.....	26
在留外国人家庭.....	20
鎖骨骨折.....	23
産科医療補償制度.....	30
産科学的定義.....	6
産科合併症.....	13
産科危機的出血.....	17
産科手術.....	16
産科DIC.....	16, 17
産科的異常.....	20
産科的医療処置.....	16
産科病歴.....	11, 18
産科麻酔.....	16
産後うつ病.....	18, 20

産後の生活と家族計画.....	9
産褥経過.....	20
産褥精神病.....	20
産褥早期出血.....	20
産褥体操.....	19
産褥熱.....	20
産褥晩期出血.....	20
産前産後休業.....	12
産前・産後ケア事業.....	27
酸素療法.....	22
産痛.....	15
産痛緩和.....	15
産痛への対処行動.....	15
産道.....	6
産道の異常.....	16

し

ジェンダー・アイデンティティ.....	2
痔核.....	20
視覚検査.....	23
自覚症状.....	14
子癩.....	16
弛緩出血.....	16
時間の管理.....	28
子宮.....	2, 4, 5
子宮筋腫.....	21
子宮腔内タンポナーデ.....	16
子宮頸管.....	14
子宮頸管炎.....	3
子宮頸がん検診.....	9
子宮頸管成熟度.....	14
子宮頸部細胞診.....	3
子宮口の開大.....	14
子宮収縮.....	14
子宮収縮薬.....	7
子宮収縮抑制薬.....	7
子宮腫瘍.....	2
子宮底圧迫法.....	15
子宮底長.....	10, 11
子宮底輪状マッサージ法.....	19
子宮摘出術.....	16
子宮内黄体ホルモン放出システム.....	3

子宮内胎児死亡.....	13
子宮内反症.....	16
子宮内避妊具.....	3
子宮内膜.....	5
子宮内膜炎・筋層炎.....	3
子宮内膜症.....	2
子宮破裂.....	16
子宮付属器.....	5
子宮復古状態の観察.....	15
子宮復古不全.....	20
止血法.....	17
嗜好.....	2
嗜好品.....	5, 12
事故の予防と対策.....	23
死産.....	26
死産証書.....	28
死産証書の交付.....	29
支持組織.....	2
脂質異常症.....	1
思春期.....	1
思春期女性.....	9
視診.....	10
次世代育成支援.....	27
自然流産.....	26
死胎検案書.....	28
死胎検案書の交付.....	29
自宅分娩の適応と可否の判断.....	29
市町村保健センター.....	27
実施評価.....	8
質の管理と保証.....	28
疾病予防.....	23
児童虐待の防止等に関する法律.....	26, 29
児童虐待予防.....	27
自動体外式除細動器.....	17
児童福祉法.....	28
児頭娩出.....	15
児娩出後の出血.....	14
児娩出時刻.....	14
社会資源.....	12
若年妊娠.....	14
射精.....	5
縦隔気腫.....	23

就業規則.....	12
就業（業務従事者届）の届出.....	29
就業女性.....	2
周産期医療センター.....	27
周産期医療体制.....	29
周産期医療におけるチーム医療.....	29
周産期死亡.....	26
周産期棟の管理.....	28
周産期にある女性.....	9
就職規則.....	12
集団教育.....	8
絨毛検査.....	4
絨毛膜.....	6
絨毛膜羊膜炎.....	13
就労女性.....	12
受精.....	5
受精卵調節法.....	3
出血性ショック時.....	17
出血量.....	14
出血量に応じた体位の調整.....	15
出産育児一時金.....	28, 29
出産・育児準備.....	12
出産環境.....	15
出産準備教育.....	9, 27
出産体験.....	12, 18
出産扶助.....	29
出生証明書.....	28
出生証明書の交付.....	29
出生数.....	26
出生前診断.....	4
出生体重.....	24
出生に関わる届出.....	19
出生届.....	28
出生率.....	26
授乳技術.....	18
授乳・離乳の支援.....	27
守秘義務.....	1, 29
受容.....	12, 18
循環.....	6, 24
循環器系.....	5, 6, 7
常位胎盤早期剥離.....	13
消化.....	21, 24

障害児.....	20
障害者総合支援法.....	29
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律.....	29
傷害等の対応と損害賠償保険.....	30
消化器系.....	5, 6, 7
少子化.....	26
少子化社会対策基本法.....	29
少子化対策.....	27
常染色体遺伝.....	2
情緒の発達.....	23
情緒の変化.....	12
情動.....	15
情報収集.....	10, 11
静脈瘤.....	20
上腕神経叢麻痺.....	23
食事.....	2, 11, 15
触診.....	10
食生活.....	19
食生活指針.....	2
食生活の習慣.....	2
嘱託医療機関との連携.....	29
職場復帰.....	19
助産外来の管理.....	28
助産管理.....	28
助産管理体制.....	28
助産業務管理.....	28
助産ケアの過程.....	10
助産師教育.....	1
助産師の業務範囲.....	1
助産師の声明.....	1
助産師の責務.....	1
助産師の定義.....	1
助産師の役割.....	1, 27
助産所での分娩の適応基準.....	29
助産所の管理.....	28
助産所の管理・運営.....	29
助産所の管理者の義務.....	29
助産所の広告.....	29
助産所の構造.....	29
助産所の定義.....	29
助産診断.....	10, 11, 18

助産の定義.....	1
助産の担い手.....	1
助産の場.....	1
助産録.....	29
女性生殖器の疾患.....	2
女性の就業率.....	26
女性のライフサイクル..	1, 9
女性を中心としたケア..	1, 8
処方せん医薬品等取り扱い	28
自立を促す支援.....	23
視力.....	7
耳涙管狭窄.....	23
腎盂腎炎.....	3
神経系.....	5
神経・血管支配.....	2
神経の構造.....	2
人工呼吸療法.....	22
人工乳.....	20
人工妊娠中絶.....	9, 26
人工流産.....	26
人材育成.....	28
心雑音.....	22
心疾患.....	21
腎疾患.....	21
新生児仮死.....	21
新生児眼疾患.....	23
新生児死亡.....	26
新生児蘇生法.....	22
新生児聴覚スクリーニング	21
新生児低血糖症.....	23
新生児の特徴.....	6
新生児搬送.....	17
新生児ビタミンK欠乏症..	23
新生児皮膚疾患.....	23
新生児訪問.....	9, 27
身体計測.....	10, 21
身体所見.....	11, 23
身体的特徴.....	6, 7
身体的発育.....	6
陣痛.....	14
陣痛発来.....	14
深部静脈血栓症.....	20
心理・社会的支援.....	12
心理・社会的側面	12, 15, 18

心理的支援.....	17
心理的特徴.....	7
心理的リスク.....	20
診療情報提供.....	28
診療報酬.....	28

す

水痘.....	24
水痘ウイルス.....	13
髄膜炎.....	25
睡眠.....	7, 11, 12, 15, 18, 19, 21
健やか親子21 (第2次)	27

せ

性.....	2
生活.....	15
生活行動.....	26
生活習慣の確立.....	23
生活状況.....	3
生活のマナー.....	23
生活保護法.....	29
生活様式.....	26
生活リズム.....	19
生活リズムの確立.....	23
性感染症.....	3, 9
精管通過障害.....	4
性器.....	11
性器外.....	11
性器の異常.....	1
性器の奇形.....	1
性器ヘルペス.....	3
性教育.....	9, 27
清潔.....	11, 12, 19
性交障害.....	4
性行動.....	2
精子形成障害.....	4
成熟期女性.....	1
成熟徴候.....	6
成熟度の判定.....	21
生殖.....	2
生殖器.....	2, 5
生殖器系.....	6
生殖補助医療.....	4

成人期女性..... 9
 成人教育..... 8
 成人T細胞白血病ウイルスー
 1型..... 13, 20, 27
 成人病胎児期発症説..... 5
 性生活..... 9, 11, 12, 18
 生成過程..... 6
 性染色体遺伝..... 2
 性同一性障害の性別の取扱い
 の特例に関する法律..... 29
 性の機能..... 2
 性の行動..... 2
 性の分化..... 2
 性反応..... 2
 性分化..... 2
 性暴力..... 2
 生命誕生..... 9
 生命倫理..... 1
 生理..... 2
 生理的体重減少..... 21
 生理的特徴..... 6
 世界保健機関..... 1
 セクシュアリティ..... 2
 セクシュアル・ハラスメント
 2
 切迫早産..... 13
 切迫流産..... 13
 説明と同意..... 17
 セルフケア..... 8
 セルフケア能力..... 18
 セルフヘルプグループ..... 27
 前期破水..... 13, 16
 前駆陣痛..... 14
 尖圭コンジローマ..... 3
 染色体異常..... 4, 24
 前置胎盤..... 13
 先天性代謝異常検査..... 21

そ

早期母子接触..... 15
 臓器の成熟..... 6
 早期発見..... 13, 16
 造血管系..... 6
 双合診..... 10

早産児..... 24, 25
 喪失体験..... 14
 増殖期..... 5
 造精機能..... 5
 相談・教育活動..... 8
 早発月経..... 1
 双方向教育..... 8
 ソーシャルサポート..... 12
 祖父母向け教育..... 9

た

胎位..... 11, 14
 胎位の異常..... 16
 体温..... 6, 24
 胎芽..... 6
 胎外環境..... 21
 体格指数..... 11
 大気汚染..... 2
 胎向..... 11, 14
 胎児..... 6
 胎児異常..... 16
 胎児機能不全..... 16
 体重減少性無月経..... 1
 胎児心拍数陣痛図..... 15
 胎児心拍数の評価..... 11
 胎児推定体重..... 11, 15
 胎児胎盤機能検査..... 11
 胎児一胎盤系循環..... 6
 胎児と骨盤の関係..... 14
 胎児の大きさ..... 14
 胎児の下降度..... 14
 胎児の形態..... 6
 胎児の発育..... 6, 11
 胎児の発育評価..... 15
 胎児発育不全..... 13
 胎児付属物..... 6
 胎児付属物の異常..... 16
 胎児付属物の検査..... 15
 代謝系..... 5, 6, 7, 24
 体重増加量..... 11
 胎児由来..... 6
 対象理解..... 8
 対処行動..... 12, 15, 18
 胎勢..... 11, 14

胎勢の異常..... 16
 胎内環境..... 21
 胎内死亡..... 14
 胎盤..... 6
 胎盤圧出法..... 16
 胎盤・胎児の循環動態の評価
 15
 胎盤通過性..... 6, 7
 胎盤剝離徴候..... 14
 胎盤付着部位..... 11
 胎盤娩出..... 15
 胎盤用手剝離..... 16
 胎便吸引症候群..... 23
 多職種・多機関の協働・連携
 17
 多職種の連携・協働..... 29
 多職種連携..... 27
 多胎..... 16
 多胎出産..... 20
 多胎妊娠..... 4, 13
 墮胎の禁止..... 28
 脱肛..... 20
 脱落膜..... 6
 多嚢胞性卵巣症候群..... 1
 他部門・他機関との協調..... 28
 他部門・他機関との連携..... 28
 単純ヘルペスウイルス... 13
 男女共同参画社会基本法..... 29
 男女雇用機会均等法..... 26, 29

ち

チアノーゼ..... 22
 地域医療との連携・協働..... 29
 地域との連携..... 28
 地域包括ケアシステム... 27
 地域保健法..... 28
 地域母子保健..... 26
 地域母子保健活動..... 27
 地域連携..... 29
 恥骨結合離開..... 20
 腔..... 5, 18
 腔鏡診..... 14
 腔周囲炎..... 3
 窒息..... 23

腔の伸展性..... 14
 腔分泌物..... 3
 腔裂傷..... 16
 遅発月経..... 1
 着床..... 5
 中毒疹..... 23
 超音波検査..... 4, 11
 超音波断層法..... 3, 10
 聴診..... 10

て

帝王切開既往妊婦..... 14
 帝王切開術後..... 20
 低カルシウム血症..... 25
 定期健康診査..... 12
 低血糖症..... 25
 低出生体重児..... 24, 25
 低体温..... 22
 低体温症..... 25
 ディバロップメンタルケア..... 25
 適応理論..... 10
 溺水..... 23
 鉄..... 5
 点眼..... 22
 電磁波..... 2
 転落..... 23
 電話相談..... 8, 27

と

討議法..... 8
 頭血腫..... 22
 凍結保存..... 4
 糖尿病..... 1, 21
 糖尿病合併妊娠..... 5
 動脈塞栓術..... 16
 トキソプラズマ..... 13
 特異な顔貌..... 21
 特定不妊治療費助成事業..... 27
 吐血..... 22
 努責..... 15
 突発性発疹..... 24
 ドブラ法..... 10
 ドメスティック・バイオレンス..... 2

トリコモナス腔炎..... 3

な

内診..... 3, 10, 11, 14
 内性器..... 2
 内分泌系..... 5, 6, 7
 仲間づくり..... 8
 軟産道の裂傷..... 14
 なんとなく元気がない..... 22

に

日常生活..... 18, 19
 日常生活行動..... 11, 12, 18
 乳癌..... 2
 乳癌の合併..... 20
 乳児死亡..... 26
 乳汁分泌..... 7, 18
 乳腺炎..... 20
 乳腺症..... 2
 乳頭損傷..... 20
 乳房..... 5, 10, 18
 乳房疾患..... 2
 乳房トラブル..... 19
 乳房のセルフケア..... 19
 乳幼児下痢症..... 24
 乳幼児突然死症候群..... 24
 乳幼児に起こりやすい事故..... 23
 乳幼児の社会性..... 23
 乳幼児の発達..... 23
 尿検査..... 11, 18
 尿失禁..... 2, 9
 尿道炎..... 3
 人間関係の形成..... 23
 妊産褥婦の訪問..... 27
 妊産婦死亡..... 26
 妊産婦のための食生活指針..... 27
 妊娠..... 5
 妊娠悪阻..... 13
 妊娠合併症..... 5
 妊娠期間..... 6
 妊娠経過..... 10, 11
 妊娠高血圧症候群..... 5, 13
 妊娠高血圧症候群後遺症..... 20

妊娠高血圧症候群等療養援護..... 27
 妊娠後半期..... 17
 妊娠前半期..... 17
 妊娠中の栄養..... 5
 妊娠徴候..... 11
 妊娠糖尿病..... 5, 13
 妊娠の受容..... 12, 14
 妊娠の診断..... 11
 妊娠の成立..... 5
 妊娠貧血..... 13
 妊娠・分娩歴..... 11, 18
 認知症..... 2
 妊婦健康診査..... 10
 妊婦訪問..... 9
 妊卵..... 6

ね

ネットワーク..... 28
 年齢..... 12, 18

の

脳室周囲白質軟化症..... 25
 脳室内出血..... 25
 ノロウイルス..... 24
 ノンストレステスト..... 10

は

歯..... 23
 パートナー..... 3, 12
 パートナー（配偶者）の役割獲得..... 19
 胚..... 6
 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律..... 29
 敗血症..... 25
 排泄..... 11, 12, 15, 18, 19, 21
 肺塞栓症..... 20
 バイタルサイン..... 18, 21
 梅毒..... 3
 梅毒トレポネーマ..... 13
 排尿障害..... 2, 20
 排便障害..... 20

排卵	5
排卵障害	4
ハイリスク妊娠	14
播種性血管内凝固症候群	16, 17
破水の診断	14
発達診断学的診察	23
発達理論	10
発熱	22
パップスメアテスト	3
母親の役割獲得	19
母親役割	12
搬送基準	29
搬送時の支援	17

ひ

ピアサポート	8
被虐待経験者	14
被虐待児症候群	24
被災した妊産婦	30
非出血性ショック時	17
ビタミン	5
ビタミンK ₂ シロップ	22
ヒトパピローマウイルス3	13
ヒトバルボウイルスB19	13
ヒト免疫不全ウイルス	3, 13
ひとり親家庭	20, 27
泌尿器系	5, 6, 7, 24
非妊時	5
肥満	1, 5
秘密漏示の禁止	28
百日咳	24
評価	10
ビリルビン代謝	24
貧困対策	27

ふ

不安	12
不育症	4, 9
不快症状	18, 20
腹圧	14
腹囲	10, 11
腹式帝王切開術	16
腹部膨満	22

婦人科の炎症性疾患	3
付属器	2, 18
物品の管理	28
物理的環境	2
ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群	24
不妊手術	3
不妊症	4, 9
不妊治療	4
不妊治療後	20
フレイル	2
文化的背景	12, 18
文書・記録の管理と開示	28
分泌期	5
分娩	6
分娩開始の定義	6
分娩開始の予知	14
分娩介助	15
分娩外傷	23
分娩監視装置	10
分娩機転	15
分娩経過	14
分娩後2時間	15
分娩時の姿勢	15
分娩所要時間	14
分娩進行	15
分娩侵襲	21
分娩促進	6
分娩体位	6, 15
分娩第1期	6, 15
分娩体験の想起	19
分娩第3期	15
分娩第2期	15
分娩第4期	6
分娩の基礎	6
分娩の三要素	6
分娩に関する定義	6
分娩の法的定義	6
分娩費用	28
分娩誘発・促進	6, 16
分娩誘発・促進時の管理	16
分娩様式	6
分娩予定日	11
分娩歴	18

へ

閉経	1
平時の災害への備えと訓練	30
ペッサリー	3
ベビーマッサージ	27
娩出力	6
娩出力の異常	16
変遷	1

ほ

膀胱炎	3
放射線	2
帽状腱膜下出血	22
法的義務	29
法的責務	30
暴力	2
保温	21
保健師助産師看護師法	1, 28
保健指導	27
保健所	27
母子愛着形成促進	22
母子及び父子並びに寡婦福祉法	26, 29
母子感染予防	27
母子健康手帳	1, 27
母子健康包括支援センター	27
母子自立支援	27
母子接触	21
母子同室中のケア	22
母子保健	26
母子保健行政	26
母子保健施策	27
母子保健法	28
保清	22
母性意識	12
母性健康管理指導事項連絡カード	12
母体栄養	11
母体血清マーカー検査	4
母体—胎児間の免疫	5
母体低栄養	5
母体の蘇生法	17
母体の変化	5
母体搬送	17

母体保護法	3, 28
母体由来	6
ボディイメージの変化	12
哺乳	7, 19, 21
母乳育児	12, 18
母乳育児支援	20
母乳移行	7
哺乳行動	18
哺乳サイン	18
母乳代用品の安全性	19
母乳分泌促進法	19
母乳分泌抑制法	19
ホルモン	2, 5

ま

マイナートラブル	11, 12
孫育て教室	9
麻酔薬	7
マタニティーブルーズ	18
麻痺	22
マンモグラフィー	3

み

未熟児骨減少症	25
未熟児動脈管開存症	25
未熟児貧血	25
未熟児網膜症	25
未受診妊婦	14
民間組織・自助グループとの 連携	27

む

無呼吸発作	22, 25
無痛分娩	6

め

メタボリックシンドローム	1
免疫	5, 24
免疫学的機能	5
免疫学的妊娠反応検査	11
免疫機能	5

免疫系	6, 7
免疫能	5
メンタルヘルスケア	27

も

沐浴	22
問題解決プロセス	8

や

薬剤耐性	30
薬事法	3
薬物	2, 7
薬物依存	2
薬物乱用	2
やせ	1, 5

ゆ

有害物質	2
輸液管理	22

よ

葉酸	5
養子縁組	4
幼児死亡	26
用手剥離	16
羊水	6
羊水検査	4
羊水塞栓	16
羊水の機能	6
羊水の性状	14, 15
羊水の生成過程	6
羊水の量	15
羊水量の異常	13
羊水量の測定	11
羊水量の変化	11
羊膜	6
抑うつ	2
予後不良児	20
予防	22
予防接種	7, 23, 27
与薬	22

ら

ライフプラン	2, 9
卵管	4
卵子	4
卵子形成	5
卵巣腫瘍	2
卵胞発育	5
卵膜	6
卵膜の娩出	14

り

リスク因子	24
リスクマネジメント	30
リプロダクティブ・ヘルス/ ライツ	1
留意点	15
流行性耳下腺炎	24
流産	14
両親学級	9
療養援護	27
リラクセーションケア	15
淋菌感染症	3
臨時応急の手当て	1
倫理綱領	1

れ

レオポルド触診法	10
連携・協働	27
連続的胎児心拍数モニタリン グ	11

ろ

労働基準法	29
労働時間	12
老年期女性	2, 9
ロタウイルス	24

わ

ワーク・ライフ・バランス	2
--------------	---

看護師国家試験出題基準

看護師国家試験出題基準 目次

必修問題	1
人体の構造と機能	9
疾病の成り立ちと回復の促進	14
健康支援と社会保障制度	19
基礎看護学	25
成人看護学	29
老年看護学	39
小児看護学	44
母性看護学	49
精神看護学	55
在宅看護論	60
看護の統合と実践	64

必修問題

目標 I. 看護の社会的側面および倫理的側面について基本的な知識を問う。

大項目	中項目	小項目	
1. 健康の定義と理解	A. 健康の定義	a. 世界保健機関<WHO>の定義	
		b. ウェルネスの概念	
	B. 健康に関する指標	a. 総人口	
		b. 年齢別人口	
		c. 労働人口	
		d. 将来推計人口	
		e. 世帯数	
		f. 婚姻、家族形態	
		g. 出生と死亡の動向	
		h. 死因の概要	
		i. 平均余命、平均寿命	
	C. 受療状況	a. 有訴者の状況	
b. 有病率、罹患率			
c. 受療行動、受療率			
d. 入院期間			
e. 外来受診の状況			
2. 健康に影響する要因	A. 生活行動・習慣	a. 食事と栄養	
		b. 排泄	
		c. 活動と運動、レクリエーション	
		d. 休息と睡眠	
		e. 清潔と衣生活	
		f. 喫煙、嗜好品	
		g. ストレス	
		h. メンタルヘルス	
		i. ライフスタイル	
		j. 性行動	
		B. 生活環境	a. 水質、大気、土壌
			b. 食品衛生
	c. 住環境		
	C. 社会環境	a. 職業と疾病	
		b. 労働環境、雇用形態	
		c. ワーク・ライフ・バランス	
		d. 母性保護	
	3. 看護で活用する社会保障	A. 医療保険制度の基本保障	a. 医療保険の種類
			b. 国民皆保険
			c. 国民医療費
			d. 高齢者医療制度
			e. 給付の内容

必修問題

大項目	中項目	小項目
	B. 介護保険制度の基本	a. 保険者 b. 被保険者 c. 給付の内容 d. 要介護・要支援の認定 e. 地域支援事業
4. 看護における倫理	A. 基本的人権の擁護	a. 個人の尊厳 b. 患者の権利 c. 自己決定権と患者の意思 d. インフォームド・コンセント e. ノーマライゼーション f. 情報管理（個人情報の保護）
	B. 倫理原則	a. 自律尊重 b. 善行 c. 公正、正義 d. 誠実、忠誠 e. 無危害
	C. 看護師等の役割	a. 説明責任 b. 倫理的配慮 c. 権利擁護〈アドボカシー〉 d. エンパワメント
5. 看護に関わる基本的法律	A. 保健師助産師看護師法	a. 保健師助産師看護師の定義 b. 保健師助産師看護師の業務 c. 保健師助産師看護師の義務（守秘義務、業務従事者届出の義務、臨床研修等を受ける努力義務） d. 養成制度
	B. 看護師等の人材確保の促進に関する法律	a. 基本方針 b. ナースセンター

目標Ⅱ. 看護の対象および看護活動の場と看護の機能について基本的な知識を問う。

大項目	中項目	小項目
6. 人間の特性	A. 人間と欲求	a. 基本的欲求 b. 社会的欲求
	B. 対象の特性	a. QOL b. ニーズ c. 健康や疾病に対する意識 d. 疾病・障害の受容

必修問題

大項目	中項目	小項目
7. 人間のライフサイクル各期の特徴と生活	A. 胎児期	a. 形態的発達と異常
	B. 新生児・乳児期	a. 発達の原則
		b. 身体の発育
		c. 運動能力の発達
		d. 栄養
		e. 親子関係
	C. 幼児期	a. 身体の発育
b. 運動能力の発達		
c. 言語の発達		
d. 社会性の発達		
e. 基本的生活習慣の確立		
D. 学童期	a. 運動能力の発達、体力の特徴	
	b. 社会性の発達	
	c. 学習に基づく行動	
E. 思春期	a. 第二次性徴	
	b. アイデンティティの確立	
	c. 親からの自立	
	d. 異性への関心	
F. 成人期	a. 社会的責任と役割	
	b. 生殖機能の成熟と衰退	
	c. 基礎代謝の変化	
G. 老年期	a. 身体的機能の変化	
	b. 認知能力の変化	
	c. 心理社会的変化	
8. 看護の対象としての患者と家族	A. 家族の機能	a. 家族関係
		b. 家族構成員
c. 疾病が患者・家族に与える心理・社会的影響		
B. 家族形態の変化	a. 家族の多様性	
	b. 構成員の変化	
9. 主な看護活動の場と看護の機能	A. 看護活動の場と機能	a. 病院
		b. 診療所
		c. 助産所
		d. 訪問看護ステーション
		e. 介護保険施設
		f. 地域包括支援センター
		g. 市町村
		h. 保健所
		i. 学校
		j. 企業

必修問題

大項目	中項目	小項目
	B. 看護の機能と役割	a. 訪問看護 b. チーム医療 c. 退院調整 d. 入院のオリエンテーション（入院相談） e. 地域医療連携 f. 家族との調整

目標Ⅲ. 看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復について基本的な知識を問う。

大項目	中項目	小項目
10. 人体の構造と機能	A. 人体の基本的な構造と正常な機能	a. 内部環境の恒常性 b. 神経系 c. 運動系 d. 感覚器系 e. 循環器系 f. 血液、体液 g. 免疫系 h. 呼吸器系 i. 消化器系 j. 栄養と代謝系 k. 泌尿器系 l. 体温調節 m. 内分泌系 n. 性と生殖器官系 o. 妊娠・分娩・産褥の経過 p. 遺伝
	B. 人間の死	a. 死の三徴候 b. 死亡判定 c. 脳死 d. 死の受容

必修問題

大項目	中項目	小項目
11. 疾患と徴候	A. 主要な症状と徴候	a. 意識障害
		b. ショック
		c. 高体温、低体温
		d. 脱水
		e. 黄疸
		f. 頭痛
		g. 咳嗽、喀痰
		h. 吐血、喀血
		i. チアノーゼ
		j. 呼吸困難
		k. 胸痛
		l. 不整脈
		m. 腹痛、腹部膨満
		n. 悪心、嘔吐
		o. 下痢
		p. 便秘
		q. 下血
		r. 乏尿、無尿、頻尿、多尿
		s. 浮腫
		t. 貧血
		u. 睡眠障害
	v. 感覚過敏・鈍麻	
	w. 運動麻痺	
	x. けいれん	
	y. 気分<感情>障害	
	B. 主要な疾患による健康障害と基本的な回復過程	a. 生活習慣病
		b. がん
		c. 感染症
		d. 精神疾患
		e. 小児の疾患
		f. 高齢者の疾患
C. 基本的な臨床検査値の評価	a. 血液学検査	
	b. 血液生化学検査	
	c. 免疫血清学検査	
	d. 尿検査	

必修問題

大項目	中項目	小項目
12. 薬物の作用とその管理	A. 主な薬物の作用と副作用 (有害事象)	a. 抗感染症薬 b. 抗癌薬 c. 強心薬、抗不整脈薬 d. 狭心症治療薬 e. 抗血栓薬 f. 降圧薬、昇圧薬 g. 利尿薬 h. 消化性潰瘍治療薬 i. 下剤 j. 抗アレルギー薬 k. 副腎皮質ステロイド薬 l. 糖尿病治療薬 m. 中枢神経作用薬 n. 麻薬 o. 消炎鎮痛薬
	B. 薬物の管理	a. 禁忌 b. 保存方法 c. 薬理効果に影響する要因

目標Ⅳ. 看護技術に関する基本的な知識を問う。

大項目	中項目	小項目
13. 看護における基本技術	A. コミュニケーション	a. 言語的コミュニケーション b. 非言語的コミュニケーション c. 面接技法
	B. 看護過程	a. 情報収集、アセスメント b. 計画立案 c. 実施 d. 評価 e. 記録方式
	C. フィジカルアセスメント	a. バイタルサインの測定 b. 意識レベルの評価 c. 呼吸音聴取 d. 腸蠕動音聴取 e. 運動機能の観察
14. 日常生活援助技術	A. 食事	a. 食事の環境整備、食事介助 b. 誤嚥の予防
	B. 排泄	a. 床上排泄 b. 導尿 c. 浣腸 d. 摘便 e. 失禁のケア

必修問題

大項目	中項目	小項目	
	C. 活動と休息	a. 体位、体位変換	
		b. 運動	
		c. 移動、移送	
		d. ボディメカニクス	
		e. 廃用症候群の予防	
		f. 睡眠	
	D. 清潔	a. 入浴	
		b. 清拭	
		c. 口腔ケア	
		d. 洗髪	
		e. 部分浴	
		f. 陰部洗浄	
		g. 整容	
		h. 寝衣交換	
15. 患者の安全・安楽を守る看護技術	A. 療養環境	a. 病室環境	
		b. 共有スペース	
		c. 居住スペース	
	B. 医療安全対策	a. 転倒・転落の防止	
		b. 誤薬の防止	
		c. 患者誤認の防止	
		d. 誤嚥・窒息の防止	
		e. 情報伝達と共有・管理	
	C. 感染防止対策	a. 標準予防策<スタンダードプリコーション>	
		b. 手洗い	
		c. 無菌操作	
		d. 滅菌と消毒	
		e. 針刺し・切創の防止	
		f. 感染性廃棄物の取り扱い	
	16. 診療に伴う看護技術	A. 栄養補給	a. 経管・経腸栄養法
			b. 経静脈栄養法
		B. 薬物療法	a. 与薬方法
			b. 薬効・副作用（有害事象）の観察
C. 輸液・輸血管理		a. 刺入部位の観察	
		b. 輸液ポンプ、シリンジポンプ	
		c. 点滴静脈内注射	
		d. 輸血	
D. 採血		a. 穿刺部位	
		b. 採血方法	
E. 電法		a. 電法の種類と適応	
		b. 温電法	
		c. 冷電法	

必修問題

必修問題

大項目	中項目	小項目
	F. 呼吸管理	a. 酸素療法の原則
		b. 酸素ポンプ
		c. 酸素流量計
		d. 鼻腔カニューラ
		e. 酸素マスク
		f. ネブライザー
		g. 口腔内・鼻腔内吸引
		h. 気管内吸引
		i. 体位ドレナージ
	G. 救命救急処置	a. 気道の確保
		b. 人工呼吸
		c. 胸骨圧迫
d. 直流除細動器		
e. 自動体外式除細動器<AED>		
f. 止血法		
g. 体温管理		
h. トリアージ		
H. 皮膚・創傷の管理	a. 包帯法	
	b. 創傷管理	
	c. 褥瘡の予防・処置	

人体の構造と機能

目標Ⅰ. 正常な人体の構造と機能について基本的な理解を問う。

目標Ⅱ. フィジカルアセスメントおよび日常生活の営みを支える看護に必要な人体の構造と機能について基本的な理解を問う。

目標Ⅲ. 疾病の成り立ちを知る前提となる人体の構造と機能について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 細胞と組織	A. 細胞の構造	a. 細胞膜と細胞質
		b. 核
		c. 細胞小器官と細胞骨格
	B. 遺伝子と遺伝情報	a. ゲノムと遺伝子
		b. タンパク合成
	C. 細胞分裂	a. 染色体の複製と有糸分裂
		b. 減数分裂
	D. 組織	a. 上皮組織
		b. 支持組織
		c. 筋組織
d. 神経組織		
E. 細胞内情報伝達	a. イオンチャネル型受容体	
	b. 代謝調節型受容体	
2. 生体リズムと内部環境の恒常性	A. 生体リズム	a. 概日リズム<サーカディアンリズム>
		b. 体内時計
	B. 内部環境の恒常性	a. 細胞外液
		b. 恒常性維持機構
3. 神経系	A. 神経細胞と神経組織	a. 神経細胞と情報伝達
		b. 神経膠細胞
	B. 中枢神経系の構造と機能	a. 大脳
		b. 視床、視床下部
		c. 中脳、橋、延髄
		d. 小脳
		e. 脊髄
		f. 姿勢反射
		g. 髄膜と脳室
		h. 脳脊髄液の循環
		i. 感覚と運動の伝導路
		j. 覚醒と睡眠
	C. 末梢神経系の構造と機能	a. 脳神経
b. 脊髄神経		
c. 体性神経		
d. 自律神経		

人体の構造と機能

大項目	中項目	小項目
4. 運動器系	A. 骨格の構造と機能	a. 骨
		b. 軟骨
		c. 全身の骨の種類
	B. 関節の構造	a. 関節の構造と種類
	C. 骨格筋の構造と機能	a. 骨格筋
		b. 筋収縮の機構
c. 全身の筋の種類		
5. 感覚器系	A. 体性感覚	a. 刺激と感覚受容
		b. 表在感覚
		c. 深部感覚
	B. 視覚	a. 眼球と眼球付属器の構造
		b. 視力と視野
		c. 明暗覚、色覚
		d. 視覚の伝導路
		e. 眼球運動
		f. 眼に関する反射
	C. 聴覚	a. 外耳・中耳・内耳の構造
		b. 聴力
	D. 平衡感覚	a. 平衡器官の構造
		b. 平衡覚
	E. 味覚	a. 味蕾
F. 嗅覚	a. 嗅上皮	
G. 内臓感覚	a. 内臓感覚の受容器と機能	
6. 循環器系	A. 心臓の構造と機能	a. 心臓
		b. 刺激伝導系
		c. 心機能の調節
	B. 血管系の構造と機能	a. 動脈、静脈、毛細血管
		b. 血圧と血圧調節
		c. 門脈系
		d. 肺循環と体循環
		e. 冠循環
		f. 脳循環
		g. 胎児・胎盤の血液循環
		h. 末梢循環の調節
	C. リンパ系の構造と機能	a. リンパ液、リンパ管、リンパ節
		b. 胸管

人体の構造と機能

大項目	中項目	小項目
7. 血液	A. 血液の成分と機能	a. 血液の成分 (血球、血漿、血清)
		b. 血液の働き
		c. 血液の物理化学的特性
		d. 造血と造血因子
	B. 止血機構	a. 血液凝固
		b. 線維素溶解
C. 血液型	a. ABO式	
	b. Rh式	
	c. 不規則抗体	
8. 体液	A. 体液の構成	a. 体液の区分
		b. 体液の組成
	B. 体液の調節	a. 電解質バランス
		b. 酸塩基平衡
		c. 浸透圧調節
9. 生体の防御機構	A. 非特異的生体防御機構	a. 皮膚の構造と防御機構
		b. 粘膜の構造と防御機構
		c. 食細胞とサイトカイン
		d. 胸腺、脾臓、リンパ組織
	B. 特異的生体防御反応 (免疫系)	a. 免疫系の細胞
		b. 抗原と抗体
		c. 補体
		d. 液性免疫
		e. 細胞性免疫
		f. アレルギー反応
		g. 組織適合性抗原<HLA>
10. 呼吸器系	A. 気道の構造と機能	a. 鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支
		b. 発声
	B. 肺の構造	a. 肺
		b. 胸膜腔と縦隔
	C. 呼吸	a. 呼吸筋
		b. 換気
		c. ガス交換
		d. 呼吸運動
		e. 呼吸調節
11. 消化器系	A. 咀嚼・嚥下	a. 歯・口腔・唾液腺の構造と機能
		b. 咽頭・喉頭の構造と機能
		c. 食道の構造と機能
		d. 咀嚼
		e. 嚥下

人体の構造と機能

大項目	中項目	小項目
	B. 消化と吸収	a. 胃の構造と機能 b. 十二指腸の構造と機能 c. 空腸・回腸の構造と機能 d. 結腸・虫垂の構造と機能 e. 直腸・肛門の構造と機能 f. 肝臓・胆道の構造と機能 g. 膵臓の構造と機能 h. 三大栄養素の消化と吸収 i. 消化管運動と反射 j. 消化管ホルモン
12. 代謝系	A. 栄養とエネルギー代謝	a. 栄養所要量 b. 基礎代謝
	B. 物質代謝	a. 同化作用と異化作用 b. 酵素 c. 炭水化物の代謝 d. 脂肪の代謝 e. 蛋白質の代謝 f. ビリルビンの代謝 g. 核酸の代謝 h. ビタミン・ミネラルの代謝
13. 泌尿器系	A. 尿の生成	a. 腎臓の構造 b. 糸球体濾過 c. 再吸収と分泌
	B. 体液量の調節	a. 抗利尿ホルモンの作用 b. レニン-アンジオテンシン-アルドステロン系
	C. 排尿	a. 尿管の構造と機能 b. 膀胱の構造と機能 c. 尿道の構造と機能 d. 排尿反射
14. 体温調節	A. 体温	a. 核心温度と外殻温度
	B. 体温の調節	a. 熱放散と熱産生 b. 体温調節中枢
15. 内分泌系	A. ホルモンの種類	a. ホルモンの化学的性質 b. ホルモンの受容体
	B. ホルモン分泌の調節	a. 調節ホルモン、拮抗ホルモン b. フィードバック機構

人体の構造と機能

大項目	中項目	小項目
	C. 内分泌器官の構造とホルモンの機能	a. 視床下部 b. 下垂体 c. 松果体 d. 甲状腺 e. 副甲状腺<上皮小体> f. 膵島 g. 副腎皮質 h. 副腎髄質 i. 腎臓 j. 性腺
16. 生殖器系	A. 女性の生殖器系の構造と機能	a. 卵巣
		b. 卵管、子宮、膣
		c. 外陰部・会陰の構造
		d. 性周期
		e. 妊娠、分娩、産褥
		f. 妊娠・分娩に伴う変化
		g. 乳房
	B. 男性の生殖器系の構造と機能	a. 精巣と精路
		b. 精子の形成
c. 精巣上体、精管、精嚢、前立腺、陰茎		
C. 受精と発生	a. 受精	
	b. 着床	
	c. 胎児の発生	
17. 成長と老化	A. 成長による変化	a. 成長による組織・臓器の形態的变化
		b. 成長による臓器の機能的変化
	B. 老化による変化	a. 老化による組織・臓器の形態的变化
		b. 老化による臓器の機能的変化

疾病の成り立ちと回復の促進

目標Ⅰ. 健康から疾病を経て回復に至る過程について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 健康の維持増進	A. 疾病の予防・早期発見	a. 健康診断、健康診査
		b. 予防接種
		c. 健康教育
2. 疾病の成立と疾病からの回復	A. 疾病の要因	a. 内因、外因
		b. 生活習慣
		c. ストレス
	B. 生体の回復	a. 回復過程
		b. 回復に影響する身体的／心理・社会的要因

目標Ⅱ. 疾病の要因と生体反応について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
3. 基本的な病因とその成り立ち	A. 細胞の障害	a. 萎縮、変性、肥大
		b. 壊死<ネクローシス>とアポトーシス
		c. 創傷と治癒
	B. 生体の障害	a. 循環障害、臓器不全
		b. 炎症、損傷
		c. 免疫異常、アレルギー
		d. 内分泌・代謝異常
		e. 廃用症候群
		f. 老年症候群
		g. 遺伝子異常、先天異常
		h. 腫瘍
		i. 中毒、放射性障害
	C. 感染	a. 人と病原体の関わり
		b. ウイルス
		c. 細菌
d. 真菌		
e. 薬剤耐性<AMR> (多剤耐性菌)		

疾病の成り立ちと回復の促進

目標Ⅲ. 疾病に対する診断・治療について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
4. 疾病に対する医療	A. 疾病の診断の基本と方法	a. 医療面接（問診）、身体診察（視診・触診・聴診・打診）
		b. 検体検査
		c. 生体機能検査
		d. 画像検査
		e. 内視鏡検査
		f. 心理・精神機能検査
	B. 疾病に対する薬物療法	a. 与薬方法
		b. 薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）
		c. 薬効
		d. 薬理作用と副作用（有害事象）
	C. 疾病に対する薬物療法以外の治療	a. 手術、麻酔
		b. 放射線治療
		c. 輸血
		d. リハビリテーション、運動療法
		e. 食事療法
		f. 臓器移植、再生医療
g. 人工臓器・透析		
h. 精神療法		
D. 医療による健康被害	a. 薬害（化学物質）	
	b. ウイルス性肝炎	
	c. 院内感染	
	d. 針刺し事故	

回復の成り立ちと促進

目標Ⅳ. 各疾患の病態と診断・治療について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
5. 呼吸機能	A. 呼吸器系の疾患の病態と診断・治療	a. 炎症性疾患（気管支炎、肺炎、間質性肺炎、胸膜炎）
		b. 気管支喘息
		c. 慢性閉塞性肺疾患＜COPD＞
		d. 肺循環障害（肺高血圧、肺塞栓症）
		e. 肺結核
		f. 気胸
		g. 腫瘍（肺癌、中皮腫）

疾病の成り立ちと回復の促進

大項目	中項目	小項目
6. 循環機能	A. 心臓の疾患の病態と診断・治療	a. 先天性心疾患（心房中隔欠損症、心室中隔欠損症、動脈管開存症、Fallot＜ファロー＞四徴症）
		b. 虚血性心疾患（狭心症、急性冠症候群）
		c. 心筋症（肥大型心筋症、拡張型心筋症）
		d. 心不全（急性心不全、慢性心不全）
		e. 心タンポナーデ
		f. 不整脈（上室性頻脈性不整脈、心室性頻脈性不整脈、徐脈性不整脈）
		g. 炎症性疾患（感染性心内膜炎、心筋炎、収縮性心膜炎）
		h. 弁膜症（大動脈弁疾患、僧帽弁疾患）
	B. 血管系の疾患の病態と診断・治療	a. 大動脈瘤、大動脈解離
		b. 閉塞性動脈硬化症
		c. 挫滅症候群
		d. 下肢静脈瘤、深部静脈血栓症
	C. 血圧異常の病態と診断・治療	a. 動脈硬化症
		b. 本態性高血圧
		c. 二次性高血圧
		d. 起立性低血圧
D. ショックの病態と診断・治療	a. 心原性ショック	
	b. 出血性ショック	
	c. 血流分布異常性ショック	
7. 栄養の摂取・消化・吸収・代謝機能	A. 口腔、咽頭の疾患の病態と診断・治療	a. 炎症性疾患（咽頭炎、扁桃炎）
		b. う歯、歯周病
		c. 腫瘍（舌癌、咽頭癌）
	B. 上部消化管の疾患の病態と診断・治療	a. 炎症性疾患（逆流性食道炎、急性胃炎、慢性胃炎、ヘリコバクターピロリ感染症）
		b. 潰瘍性疾患（胃潰瘍、十二指腸潰瘍）
		c. 腫瘍（食道癌、胃癌）
	C. 下部消化管の疾患の病態と診断・治療	a. 炎症性疾患（潰瘍性大腸炎、Crohn＜クローン＞病、虫垂炎、痔瘻）
		b. イレウス
		c. 腫瘍（大腸ポリープ、結腸癌、直腸癌）
		d. 排便障害（便秘、下痢）
	D. 肝臓・胆嚢・膵臓の疾患の病態と診断・治療	a. 炎症性疾患（肝炎、胆管炎、膵炎）
		b. 肝硬変
		c. 腫瘍（肝癌、胆嚢癌、胆管癌、膵癌）
		d. 脂肪肝、アルコール性肝炎
		e. 胆石症
	E. 腹壁・腹膜・横隔膜の疾患の病態と診断・治療	a. 鼠径ヘルニア
		b. 腹膜炎
		c. 横隔膜ヘルニア、吃逆

疾病の成り立ちと回復の促進

大項目	中項目	小項目
8. 内部環境調節機能	A. 内分泌系の疾患の病態と診断・治療	a. 間脳・下垂体疾患
		b. 甲状腺疾患（甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、甲状腺炎）
		c. 副甲状腺＜上皮小体＞疾患
		d. 副腎皮質・髄質疾患
		e. 腫瘍（下垂体腫瘍、甲状腺癌）
	B. 代謝異常の疾患の病態と診断・治療	a. メタボリックシンドローム、肥満症
		b. 糖尿病
		c. 脂質異常症
		d. 高尿酸血症、痛風
e. ビタミン欠乏症		
C. 体液調節の疾患の病態と診断・治療	a. 水・電解質の異常（脱水、浮腫、低ナトリウム血症、高カリウム血症）	
	b. 酸塩基平衡の異常（アシドーシス、アルカローシス）	
9. 造血機能	A. 血液・造血器の疾患の病態と診断・治療	a. 貧血（鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、溶血性貧血、骨髄異形成症候群、二次性貧血）
		b. 白血球減少症
		c. 出血性疾患（血栓性血小板減少性紫斑病＜TTP＞、免疫性血小板減少性紫斑病＜ITP＞、播種性血管内凝固＜DIC＞）
		d. 腫瘍（白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫）
10. 免疫機能	A. 自己免疫疾患の病態と診断・治療	a. 全身性エリテマトーデス＜SLE＞
		b. 関節リウマチ
		c. Sjögren＜シェーグレン＞症候群
	B. アレルギー性疾患の病態と診断・治療	a. 花粉症（アレルギー性鼻炎）
		b. 蕁麻疹
		c. 接触皮膚炎
		d. アナフィラキシーショック
	C. 免疫低下に関連する疾患の病態と診断・治療	a. 敗血症
		b. ヒト免疫不全ウイルス＜HIV＞感染症
11. 神経機能	A. 中枢神経系の疾患の病態と診断・治療	a. 脳血管障害（脳内出血、くも膜下出血、脳梗塞、もやもや病）
		b. 頭蓋内圧亢進症
		c. 変性疾患（Parkinson＜パーキンソン＞病、筋萎縮性側索硬化症＜ALS＞）
		d. 脱髄疾患（多発性硬化症）
		e. 認知症（Alzheimer＜アルツハイマー＞病、血管性認知症、Lewy＜レビー＞小体型認知症）
		f. 感染症（脳炎、髄膜炎）
		g. 頭部外傷
		h. 脊髄損傷
		i. 機能性疾患（てんかん）
		j. 腫瘍（脳腫瘍）

疾病の成り立ちと回復の促進

大項目	中項目	小項目
	B. 末梢神経系の疾患の病態と診断・治療	a. Guillain-Barré<ギラン・バレー>症候群 b. 圧迫性神経障害 c. 顔面神経麻痺 (Bell<ベル>麻痺) d. 自律神経失調症
	C. 感覚器系の疾患の病態と診断・治療	a. 視覚障害 (白内障、緑内障、網膜剥離、網膜症) b. 聴覚障害 (難聴、Ménière<メニエール>病) c. 嗅覚・味覚障害 d. 皮膚障害 (湿疹、アトピー性皮膚炎、帯状疱疹、疥癬、蜂窩織炎)
12. 運動機能	A. 骨・関節の疾患の病態と診断・治療	a. 骨折、脱臼、捻挫 b. 骨粗鬆症 c. 腫瘍 (骨肉腫) d. 変形性関節症 e. 腰痛症 (椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症) f. 炎症性疾患 (骨・骨髄炎、関節炎)
	B. 筋肉・神経筋接合部の疾患の病態と診断・治療	a. 筋ジストロフィー b. 重症筋無力症
13. 排泄機能	A. 泌尿器系の疾患の病態と診断・治療	a. 腎炎、慢性腎臓病 b. 炎症性疾患 (腎盂腎炎、膀胱炎) c. 腫瘍 (腎癌、尿管癌、膀胱癌) d. 腎・尿路結石 e. 排尿障害 (過活動膀胱、腹圧性尿失禁、夜尿症) f. 腎不全
14. 生殖機能	A. 生殖器系の疾患の病態と診断・治療	a. 女性生殖器の疾患 (子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣嚢腫) b. 乳腺の疾患 (乳腺炎、乳腺症) c. 男性生殖器の疾患 (前立腺炎、前立腺肥大) d. 腫瘍 (乳癌、子宮体癌、子宮頸癌、卵巣癌、前立腺癌) e. 生殖機能障害 (月経異常、更年期障害)
15. 精神機能	A. 精神・心身の疾患の病態と診断・治療	a. 症状性を含む器質性精神障害 (Alzheimer<アルツハイマー>病、血管性認知症、Lewy<レビー>小体型認知症)、せん妄 b. 精神作用物質使用による精神・行動の異常 (アルコール依存症、覚醒剤・大麻精神病) c. 統合失調症 d. 気分<感情>障害 (うつ病、双極性障害) e. 神経症性障害、ストレス関連障害 (パニック障害、心的外傷後ストレス障害<PTSD>、適応障害) f. 生理的障害、身体的要因に関連した精神障害または行動症候群 (摂食障害、不眠症、ナルコレプシー、睡眠時無呼吸症候群) g. 小児・青年期の精神・心身医学的疾患、成人の人格・行動障害

健康支援と社会保障制度

目標 I. 社会生活を視点とした個人・家族・集団の機能や変化について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 社会・生活基盤と健康	A. 生活単位の機能と変化	a. 人口構造（少子高齢化、総人口の減少）
		b. 家族、世帯
		c. 住居
	B. ライフサイクル	a. 出生
		b. 教育、養育
		c. 婚姻、離婚
	C. 労働と健康	a. 就業構造
		b. 労働時間
		c. 余暇
d. 健康診断と受療状況		
e. 労働基準法		
f. 育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律〈育児・介護休業法〉		
2. 家族の機能やライフスタイルの変化	A. 家族の機能	a. 夫婦、親子
		b. 育児、介護
		c. 家事
	B. ライフスタイルの変化	a. 雇用形態
		b. 女性の労働
		c. 少子化、晩婚化、晩産化
		d. 地域活動への参加
		e. 家族観の多様化
3. 社会の中の集団	A. 集団の機能と変化	a. 地域集団〈コミュニティ・グループ〉
		b. 集団心理
		c. グループダイナミクス
	B. 地域や職場における人間関係	a. ソーシャルサポートネットワーク
		b. フォーマルサポート、インフォーマルサポート

健康支援と社会保障制度

目標Ⅱ. 社会保障の理念、社会保険制度および社会福祉に関する法や施策について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
4. 社会保障制度の基本	A. 社会保障の理念と変遷	a. 目的、機能
		b. 日本国憲法第25条
		c. 人権、倫理
		d. ノーマライゼーション
	B. 社会保障制度	e. 情報公開、地方分権、参加
		a. 社会保障給付費
		b. 社会保障制度改革
		c. 地域包括ケアシステム
5. 社会保険制度の基本	A. 社会保険の理念と変遷	d. 社会保障・税番号制度（マイナンバー制度）
		a. 目的、機能
	B. 医療保険制度	b. 国民皆保険・皆年金
		a. 被用者保険
		b. 国民健康保険
		c. 高齢者医療制度（高齢者の医療の確保に関する法律〈高齢者医療確保法〉）
		d. 国民医療費の動向
		e. 公費医療制度
	C. 介護保険制度	f. 診療報酬制度
		a. 基本理念
		b. 保険者、被保険者
		c. 要介護・要支援の認定
		d. 保険給付と利用者負担
D. 年金制度	e. ケアマネジメント	
	f. 介護サービス	
E. B～D以外の社会保険制度	g. 介護予防	
	a. 制度の体系	
6. 社会福祉に関する法や施策	A. 社会福祉の理念と変遷	b. 給付と費用負担
		a. 措置制度と利用契約制度
	B. 社会福祉に関わる機関と機能	b. 利用者保護の制度
		a. 福祉事務所
		b. 児童相談所
c. 更生相談所		
d. 社会福祉施設		
e. 在宅サービスの実施機関		

健康支援と社会保障制度

大項目	中項目	小項目
	C. 社会福祉における民間活動	a. 民生委員、児童委員 b. 社会福祉協議会 c. ボランティア活動
	D. 生活保護に関する法や施策	a. 基本理念と原則 b. 扶助の種類と内容
	E. 障害者（児）に関する法や施策	a. 障害者基本法 b. 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律<障害者総合支援法> c. 身体障害者福祉法 d. 知的障害者福祉法 e. 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律<精神保健福祉法> f. 発達障害者支援法 g. 障害者の雇用の促進等に関する法律<障害者雇用促進法> h. 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律<障害者差別解消法> i. 障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律<障害者虐待防止法> j. 障害者基本計画
	F. 児童に関する法や施策	a. 児童福祉法 b. 児童虐待の防止等に関する法律<児童虐待防止法> c. 母子及び父子並びに寡婦福祉法
	G. 高齢者に関する法や施策	a. 老人福祉法 b. 高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律<高齢者虐待防止法> c. 老人福祉計画
	H. D～G以外の法や施策	a. 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律<DV防止法> b. 次世代育成支援、少子化対策 c. 依存症対策（アルコール依存、薬物依存、病的賭博）

健康支援と社会保障制度

目標Ⅲ. 公衆衛生の基本、保健活動の基盤となる法や施策および生活者の健康増進について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
7. 健康と公衆衛生	A. 公衆衛生の基本	a. 公衆衛生の領域、活動の特徴
		b. 健康の概念に基づく公衆衛生
		c. プライマリヘルスケア
		d. ヘルスプロモーション
		e. ポピュレーションアプローチ、ハイリスクアプローチ
	B. 疫学的方法に基づく公衆衛生	a. 健康被害と母集団
		b. 疫学的因果関係の推定
		c. 臨床疫学とエビデンス
	C. 健康に関する指標に基づく公衆衛生	a. 国勢調査
		b. 人口静態
		c. 出生
		d. 死亡、死因
e. 死産、周産期死亡、乳児死亡		
f. 平均余命、平均寿命		
g. 健康寿命		
h. 受療状況、有病率、罹患率		
8. 公衆衛生における感染症と対策	A. 感染症の基本	a. 感染症の成立要因
		b. 感染症の流行
		c. 感染症の予防
		d. 予防接種
		e. 院内感染と予防、感染防御
		f. 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律<感染症法>
	B. 主要な感染症と動向	a. 結核
		b. ヒト免疫不全ウイルス<HIV>感染症、後天性免疫不全症候群<AIDS>
		c. 新型インフルエンザ
		d. 薬剤耐性菌感染症
9. 公衆衛生における生活環境と問題への対策	A. 地球環境	a. 地球温暖化
		b. オゾン層の破壊
		c. アスベスト、放射性物質
		d. 水質汚染
		e. 大気汚染
		f. 土壌汚染

健康支援と社会保障制度

大項目	中項目	小項目
	B. 食品および家庭用品	a. 食品安全確保対策
		b. 食品衛生管理制度
		c. 食中毒の予防
		d. 家庭用品の管理安全対策
	C. ごみ・廃棄物	a. 一般廃棄物と産業廃棄物
		b. 市町村と企業の責任
D. 住環境	a. バリアフリー	
	b. 室内環境と健康問題	
10. 保健活動の基盤となる法や施策	A. 地域保健	a. 地域保健法と施策
		b. 健康日本21
		c. 健康増進法
	B. 母子保健	a. 母子保健法と施策
		b. 母子健康手帳
		c. 保健指導、訪問指導
		d. 健康診査、健康教育
		e. 母体保護法
	C. 精神保健	a. 精神保健医療福祉の施策
		b. 精神障害者（児）の医療と福祉
		c. こころの健康対策、自殺対策
		d. 発達障害に関する医療と福祉
	D. 学校保健	a. 学校保健安全法
		b. 健康診断、健康相談
		c. 感染症対応
		d. 学校環境衛生
	E. A～D以外の保健活動の基盤となる法や施策	a. がん対策基本法
		b. 難病の患者に対する医療等に関する法律〈難病法〉
11. 生活者の健康増進	A. 生活習慣病の予防	a. 主な生活習慣病の現状
		b. 栄養、運動、休息
		c. 喫煙・飲酒対策
		d. 健康教育と早期発見
		e. 循環器疾患の予防
		f. 糖尿病の予防
		g. 特定健康診査、特定保健指導
	B. 職場の健康管理	a. 労働安全衛生法
		b. 職業病の予防
		c. トータル・ヘルスプロモーション
		d. 作業環境管理
		e. ワーク・ライフ・バランス

健康支援と社会保障制度

目標Ⅳ. 人々の健康を守るための従事者に関する法や施策およびサービス提供体制について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
12. 人々の健康を守る従事者や機関に関する法や施策	A. 看護職に関する法	a. 保健師助産師看護師法
		b. 看護師等の人材確保の促進に関する法律
	B. 医療や社会福祉関連職に関する法	a. 医療法
		b. 医師法
		c. 歯科医師法
		d. 薬剤師法
		e. 診療放射線技師法
		f. 臨床検査技師等に関する法律
		g. 理学療法士及び作業療法士法、言語聴覚士法
		h. 社会福祉士及び介護福祉士法、精神保健福祉士法
		i. 栄養士法
	C. サービスの提供体制	a. 医療計画
		b. 医療提供施設（病院、診療所、介護老人保健施設等）の機能
		c. 助産所
		d. 訪問看護ステーション
e. 地域包括支援センター		
f. 救急医療		
g. 在宅医療		
h. 診療記録と情報公開		
i. 安全管理<セーフティマネジメント>		
j. 医薬品と医療機器の取り扱い		
k. 毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤等の取り扱い		

基礎看護学

目標 I. 看護の基本となる概念について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 看護の基本となる概念	A. 看護の本質	a. 看護の定義
		b. 役割と機能
		c. 職業としての看護
		d. 学問としての看護
		e. 看護の変遷
	B. 看護の対象	a. 全体<whole>としての人間
		b. 成長・発達する存在
		c. ニーズをもつ存在
		d. 生活を営む存在
		e. 適応する存在
		f. 社会・文化的存在
		g. ライフサイクルと発達課題
	C. 健康と生活	a. 健康のとらえ方
		b. 健康の諸相
		c. 健康への影響要因
		d. 生活習慣とセルフケア
e. QOLの維持と向上		
D. 看護における倫理	a. 基本的人権、世界人権宣言、個人の尊厳	
	b. 医療の倫理原則	
	c. 患者の権利と擁護	
	d. 倫理綱領	
	e. 倫理的葛藤と対応	
2. 看護の展開	A. 対象との関係の形成	a. 信頼関係
		b. 援助関係
		c. 協働関係
	B. 基盤となる思考過程	a. 根拠に基づいた看護<EBN>
		b. クリティカル・シンキング
		c. 問題解決過程
	C. 看護における連携と協働	a. 看護の継続性
		b. 看護職間の連携と協働
		c. 多職種間の連携と協働
		d. チームでの活動

基礎看護学

目標Ⅱ. 基礎的な看護技術と適用のための判断プロセスについて基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
3. 看護における基本技術	A. コミュニケーション	a. コミュニケーションの構造とプロセス
		b. コミュニケーション技法
		c. コミュニケーションに障害のある人々への対応
	B. 学習支援	a. 学習に関わる諸理論
		b. 対象者に合わせた目標設定
		c. 対象者に合わせた支援方法と媒体の工夫
		d. 個別指導・集団指導の特性と適用
	C. 看護過程	a. 情報の種類・収集方法、情報の分析・統合
		b. 看護問題の明確化と優先順位決定
		c. 看護目標の設定と計画
		d. 実施
		e. 評価
	D. 看護情報管理	a. 医療情報と看護情報
		b. 看護における情報管理
		c. 看護情報の記録・報告と共有
	E. フィジカルアセスメント	a. 看護におけるフィジカルアセスメントの意義
		b. 医療面接（インタビュー、問診）
		c. 身体診察（視診、触診、聴診、打診）の基本
		d. 全身の診察（全身の観察、バイタルサイン）
		e. 系統別のフィジカルアセスメント
	F. 感染防止対策	a. 感染の成立と予防
		b. 標準予防策<スタンダードプリコーション>と感染経路別予防策
		c. 手洗い、消毒、滅菌法、無菌操作
		d. 感染性廃棄物の取り扱い
e. 感染拡大の防止の対応		
G. 安全管理<セーフティマネジメント>	a. 医療安全の概念と安全管理<セーフティマネジメント>	
	b. 誤薬の起こりやすい状況と対策	
	c. 転倒・転落の起こりやすい状況と対策	
	d. チューブ・ライントラブルの起こりやすい状況と対策	
	e. 針刺しの起こりやすい状況と対策	

基礎看護学

大項目	中項目	小項目
	H. 安楽の確保	a. 安楽の概念 b. ボディメカニクスの原理と看護実践への活用 c. 安楽な姿勢・体位の保持 d. 安楽を提供するためのケア（マッサージ、痛みの軽減、罨法） e. 安楽を保つための療養環境の調整
	I. 終末期のケア	a. グリーフケア b. 死亡後のケア
4. 基本的日常生活援助技術	A. 環境の調整	a. 環境調整の意義 b. 療養環境のアセスメント c. 療養環境の調整と整備
	B. 食事と栄養	a. 食事と栄養の意義 b. 健康な食生活と食事摂取基準 c. 治療食、療養食 d. 食事と栄養に影響する要因 e. 食事と栄養のアセスメント f. 食事摂取の自立困難な人への援助 g. 嚥下障害のある人への援助 h. 経管・経腸栄養法 i. 経静脈栄養法
	C. 排泄	a. 排泄の意義 b. 排泄に影響する要因 c. 排泄のアセスメント d. 自然な排泄を促す援助 e. トイレ・ポータブルトイレでの排泄の援助 f. 床上での排泄の援助 g. 自然な排泄が困難な人への援助 h. 尿失禁・便失禁のある人への援助
	D. 活動と運動	a. 活動と運動の意義 b. 活動と運動に影響する要因 c. 活動と運動のアセスメント d. 活動と運動を促す援助 e. 療養生活におけるレクリエーション
	E. 休息と睡眠	a. 休息と睡眠の意義 b. 休息と睡眠に影響する要因 c. 休息と睡眠のアセスメント d. 休息と睡眠を促す援助
	F. 清潔と衣生活	a. 清潔と衣生活の意義 b. 清潔と衣生活に影響する要因 c. 清潔と衣生活のアセスメント d. 清潔行動・衣生活の自立困難な人への援助

基礎看護学

大項目	中項目	小項目
5. 診療に伴う看護技術	A. 呼吸、循環、体温調整	a. 呼吸・循環・体温調整のアセスメント
		b. 呼吸を楽にする姿勢と呼吸法
		c. 血圧・血流を保持する姿勢
		d. 酸素吸入の適応と方法
		e. 口腔内・鼻腔内・気管内吸引の適応と方法
		f. 排痰法の適応と方法
		g. 体温調整のための方法
	B. 皮膚・創傷管理	a. 創傷の治癒過程
		b. 創傷のアセスメント
		c. 洗浄、保護、包帯法
		d. 褥瘡の予防と治癒の促進
	C. 与薬	a. 与薬における看護師の役割
		b. 薬剤の種類と取り扱い方法
		c. 与薬方法と効果の観察
	D. 輸液・輸血管理	a. 輸液・輸血の種類と取り扱い方法
		b. 輸液・輸血の管理方法
		c. 輸液・輸血の副作用（有害事象）の観察
	E. 救命救急処置	a. 生命の危機的状況のアセスメント
		b. 一次救命処置<BLS>
		c. 止血法
	F. 生体機能のモニタリング	a. 診察・検査時の看護師の役割
		b. 検体検査（血液、尿、便、喀痰、胸水、腹水、骨髄液）
		c. 生体検査（エックス線撮影、超音波、CT、MRI、心電図、内視鏡、核医学）
		d. 経皮的動脈血酸素飽和度<SpO ₂ >の測定、血糖測定
e. モニタリング機器の取り扱い		

目標Ⅲ. 保健・医療・福祉の中で看護の果たす役割について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
6. 看護の役割と機能	A. 看護の場に応じた活動	a. 在宅における看護活動
		b. 医療施設における看護活動
		c. 保健施設と福祉施設における看護活動
	B. 保健・医療・福祉の連携と継続看護	a. 保健・医療・福祉のチームにおける看護職の役割と機能
		b. 保健・医療・福祉の連携を支える仕組み
		c. 施設内・施設間における継続看護

成人看護学

目標Ⅰ. 成人各期の健康保持・増進や疾病の予防について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 成人の特徴と生活	A. 成人期の発達課題の特徴	a. 青年期・壮年期・向老期の身体的特徴 b. 青年期・壮年期・向老期の心理・社会的特徴
	B. 成人の生活	a. 家族形態と機能 b. 生活様式
	C. 成人を取り巻く環境	a. 社会状況の変化
2. 成人における健康の保持・増進や疾病の予防	A. 生活習慣に関連する健康課題	a. 生活習慣病の要因 b. 健康問題の現状と推移 c. 生活習慣の是正
	B. 職業に関連する健康課題	a. 就労条件・環境と疾病との関係 b. 職業性疾患の要因と健康診断の受診行動
	C. ストレスに関連する健康課題	a. ストレス関連疾患の要因 b. ストレス対処方法

目標Ⅱ. 急性期にある患者と家族の特徴を理解し看護を展開するための基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
3. 急性期にある患者と家族の特徴と看護	A. 患者の特徴	a. 身体的特徴 b. 心理的特徴 c. 社会的特徴
	B. 家族の特徴	a. 心理的特徴 b. 社会的特徴
	C. 急性期における看護の基本	a. 危機的状態への精神的支援 b. 治療の緊急性と優先度、治療選択・意思決定への支援 c. 代理意思決定支援
4. 救急看護、クリティカルケア	A. 緊急度と重症度のアセスメント	a. 意識レベル、神経学的所見 b. バイタルサイン
	B. 救急看護・クリティカルケアの基本	a. 心肺停止状態への処置 b. ショックへの処置 c. 急性症状の応急処置 d. 外傷・熱傷・中毒の応急処置 e. 環境要因による障害の応急処置 f. 感染症への処置

成人看護学

大項目	中項目	小項目
5. 周術期にある患者と家族への看護	A. 術前からの看護	a. 手術療法の理解を促す援助
		b. 手術の意思決定への援助
		c. 術後合併症のリスクアセスメントと援助
		d. 術前オリエンテーション
		e. 不安のアセスメントと援助
		f. ボディイメージ<身体像>の変容への援助
	B. 術中の看護	a. 開腹・開胸・開頭・鏡視（内視鏡）下の手術方法による影響と援助
		b. 手術体位による影響と援助
		c. 麻酔による影響と援助
		d. 安全管理<セーフティマネジメント>（患者確認、ガーゼ遺存の防止）
	C. 術後の看護	a. 生体反応
		b. 術後の疼痛管理
		c. 創傷管理
		d. ドレーン管理
	D. 術後合併症と予防	a. 術後出血
		b. 下肢静脈血栓、肺塞栓症
		c. 呼吸器合併症
		d. 感染症
		e. 廃用症候群
	E. 術後の機能障害や生活制限への看護	a. ボディイメージの受容への支援
b. 退院調整		
c. 機能訓練		
d. セルフケア能力の獲得		

目標Ⅲ. 慢性疾患がある患者と家族の特徴を理解し看護を展開するための基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
6. 慢性疾患がある患者と家族の看護	A. 慢性疾患がある患者と家族の特徴	a. 慢性疾患の特徴
		b. 主な慢性疾患の疫学
		c. 慢性疾患とともにある生活
	B. 慢性疾患の治療と看護の基本	a. 治療選択・意思決定への支援
		b. 継続的な支援体制と連携
	C. セルフケア・自己管理への看護	a. セルフケア能力と行動のアセスメント
		b. セルフケアに影響する要因
		c. セルフケアの工夫への支援
		d. アドヒアランスや主体性の尊重
		e. 疾病認識と自己モニタリング
		f. 生活と自己管理の調整

成人看護学

大項目	中項目	小項目
	D. 社会的支援の獲得への看護	a. 患者と家族の相互作用と関係性 b. 患者と家族の抱える問題 c. 退院調整と多職種連携 d. 患者会・家族会の活用と支援 e. 医療費助成制度の活用

目標Ⅳ. リハビリテーションの特徴を理解し看護を展開するための基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
7. リハビリテーションの特徴と看護	A. リハビリテーションの特徴	a. リハビリテーションの定義 b. リハビリテーションにおける看護の役割 c. 機能障害と分類
	B. 機能障害のアセスメント	a. 生活機能障害と日常生活動作<ADL> b. 居住環境
	C. 障害に対する受容と適応への看護	a. 廃用症候群の予防 b. 日常生活動作<ADL>・活動範囲の拡大に向けた援助 c. 補助具・自助具の活用 d. 心理的葛藤への援助
	D. チームアプローチと社会資源の活用	a. 多職種連携 b. 身体障害者福祉法に基づく社会資源の活用
	E. 患者の社会参加への支援	a. 就労条件・環境の調整 b. 社会参加を促す要素と阻害要因

目標Ⅴ. がん患者と家族の特徴を理解し看護を展開するための基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
8. がん患者と家族への看護	A. がん患者の抱える苦痛	a. 転移・浸潤による身体的・心理的苦痛 b. 再発や経過の不確かさに伴う心理的苦痛 c. 社会的偏見や制約に伴う苦痛 d. スピリチュアルな苦痛
	B. がん患者の生活上の困難	a. 全身消耗、倦怠感、疼痛等に伴う活動制限
	C. がん患者の治療と看護	a. 広範囲で侵襲性の高い手術療法 b. 化学療法 c. 放射線療法 d. 集学的治療
	D. がん患者の社会参加への支援	a. 就労条件・環境の調整 b. 社会参加を促す要素と阻害要因

成人看護学

目標VI. 終末期にある患者、および緩和ケアを必要とする患者と家族の特徴を理解し看護を展開するための基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
9. 終末期にある患者および緩和ケアを必要とする患者と家族への看護	A. 緩和ケアを必要とする患者と家族への看護	a. がん患者
		b. 心不全患者
		c. 慢性呼吸不全患者
		d. 慢性疼痛のある患者
	B. エンド・オブ・ライフ・ケア<end-of-life care>	a. 症状アセスメントとマネジメント
		b. 全人的苦痛のアセスメントとマネジメント
		c. 苦痛緩和と意思決定支援
		d. 予期的悲嘆に対するアセスメントとケア
		e. アドバンスケアプランニング
		f. 家族ケア
C. 臨死期の看護	a. 身体的ケア	
	b. 精神的ケア	
	c. 家族の悲嘆へのケア、代理意思決定支援	
	d. 脳死状態への対応	

目標VII. 各機能障害のある患者の特徴および病期や障害に応じた看護について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
10. 呼吸機能障害のある患者の看護	A. 原因と障害の程度のアセスメントと看護	a. 酸素化障害
		b. 換気障害
		c. 呼吸運動障害
		d. 生命・生活への影響
	B. 検査・処置を受ける患者への看護	a. 動脈血液ガス分析
		b. 呼吸機能検査
		c. 気管支鏡検査
		d. 胸腔穿刺
		e. 肺生検
	C. 治療を受ける患者の看護	a. 酸素療法
		b. 非侵襲的陽圧換気
		c. 侵襲的陽圧換気
		d. 肺切除術
		e. 胸腔ドレナージ
		f. 吸入による薬物療法
g. 薬物療法		

成人看護学

大項目	中項目	小項目	
	D. 病期や機能障害に応じた看護	a. 腫瘍（肺癌、中皮腫） b. 炎症性疾患（肺炎、気管支炎、胸膜炎） c. 慢性閉塞性肺疾患＜COPD＞ d. 気管支喘息	
11. 循環機能障害のある患者の看護	A. 原因と障害の程度のアセスメントと看護	a. ポンプ機能障害 b. 刺激伝導障害 c. 血管・リンパ管障害 d. 生命・生活への影響	
	B. 検査・処置を受ける患者への看護	a. 心電図 b. 心血管超音波 c. 血管造影 d. 心臓カテーテル	
	C. 治療を受ける患者への看護	a. 経皮的冠動脈形成術＜PCI＞ b. 冠動脈バイパス術＜CABG＞ c. 弁置換術・弁形成術 d. 大動脈内バルーンパンピング＜IABP＞ e. ペースメーカー f. 植込み型除細動器 g. 血栓溶解療法・血栓除去術	
	D. 病期や機能障害に応じた看護	a. 心不全 b. 虚血性心疾患 c. 弁膜症 d. 不整脈 e. 閉塞性動脈硬化症（下肢動脈閉塞症）	
	12. 消化・吸収機能障害のある患者への看護	A. 原因と障害の程度のアセスメントと看護	a. 咀嚼・嚥下障害 b. 消化管機能障害 c. 膵液分泌障害 d. 胆汁分泌障害 e. 生命・生活への影響
		B. 検査・処置を受ける患者への看護	a. 上部消化管内視鏡 b. 大腸内視鏡 c. 内視鏡的逆行性胆管膵管造影＜ERCP＞ d. 消化管造影 e. 造影CT・MRI f. 直腸診

成人看護学

大項目	中項目	小項目
	C. 治療を受ける患者への看護	a. 咽頭・喉頭摘出術 b. 食道切除術 c. 胃切除術 d. 大腸切除術 e. 膵切除術 f. 腹腔鏡視下手術 g. 人工肛門造設術 h. 手術後ドレナージ i. 胆道・胆嚢ドレナージ j. 経腸栄養法 k. 経静脈栄養法
	D. 病期や機能障害に応じた看護	a. 口腔・咽頭腫瘍（舌癌、咽頭癌、喉頭癌） b. 上部消化管腫瘍（食道癌、胃癌） c. 下部消化管腫瘍（大腸癌、結腸癌） d. 人工肛門造設後 e. 炎症性疾患（潰瘍性大腸炎・Crohn<クローン>病） f. 潰瘍性疾患（胃・十二指腸潰瘍） g. 胆石症 h. 膵炎
13. 栄養代謝機能障害のある患者の看護	A. 原因と障害の程度のアセスメントと看護	a. 肝機能障害 b. 代謝機能障害 c. 生命・生活への影響
	B. 検査・処置を受ける患者への看護	a. 腹部超音波 b. 肝生検 c. 腹腔鏡
	C. 治療を受ける患者への看護	a. 肝庇護療法 b. インターフェロン療法 c. 食道静脈瘤内視鏡治療 d. 肝動脈塞栓術 e. 肝切除術
	D. 病期や機能障害に応じた看護	a. 肝炎 b. 肝硬変 c. 肝癌 d. 高尿酸血症、脂質異常症、肥満
14. 内部環境（体温、血糖、体液量、電解質、酸塩基平衡）調節機能障害のある患者の看護	A. 原因と障害の程度のアセスメントと看護	a. 体温調節機能障害
		b. 血糖調節機能障害
		c. 体液量調節機能障害
		d. 電解質調節機能障害
		e. 酸塩基平衡調節機能障害
		f. 生命・生活への影響

成人看護学

大項目	中項目	小項目	
	B. 検査・処置を受ける患者への看護	a. 糖負荷試験<OGTT> b. 血糖自己測定<SMBG> c. 静脈性尿路造影 d. 腎生検	
	C. 治療を受ける患者への看護	a. インスリン補充療法 b. 糖尿病経口薬による治療 c. 食事・運動療法 d. 急性期持続血液濾過透析 e. 血液透析 f. 腹膜透析<CAPD> g. 腎移植	
	D. 病期や機能障害に応じた看護	a. 低体温症 b. 1型糖尿病 c. 2型糖尿病 d. 急性腎不全 e. 慢性腎不全 f. 慢性腎臓病 g. 腎移植術後	
	15. 内分泌機能障害のある患者の看護	A. 原因と障害の程度のアセスメントと看護	a. 甲状腺機能障害 b. 副腎機能障害 c. 下垂体機能障害 d. 生命・生活への影響
		B. 検査・処置を受ける患者への看護	a. ホルモン血中・尿中濃度測定 b. ホルモン負荷試験
		C. 治療を受ける患者への看護	a. 甲状腺ホルモン療法 b. 甲状腺切除術
		D. 病期や機能障害に応じた看護	a. 甲状腺疾患（甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症） b. 腫瘍（甲状腺癌、下垂体腫瘍）
	16. 身体防御機能の障害のある患者の看護	A. 原因と障害の程度のアセスメントと看護	a. 皮膚粘膜障害 b. 免疫機能障害 c. 骨髄機能障害 d. 生命・生活への影響
		B. 検査・処置を受ける患者への看護	a. スキンテスト b. 粘膜・皮膚生検 c. 骨髄穿刺
		C. 治療を受ける患者への看護	a. 減感作療法 b. 免疫抑制薬 c. ステロイド療法 d. 造血幹細胞移植 e. 抗ヒト免疫不全ウイルス<HIV>療法

成人看護学

大項目	中項目	小項目
	D. 病期や機能障害に応じた看護	a. アレルギー性疾患 b. 自己免疫疾患 c. 血液悪性疾患 d. ヒト免疫不全ウイルス<HIV>感染症
17. 脳・神経機能障害のある患者の看護	A. 原因と障害の程度のアセスメントと看護	a. 生命維持活動調節機能障害
		b. 運動・感覚機能障害
		c. 言語機能障害
		d. 高次脳機能障害
		e. 生命・生活への影響
	B. 検査・処置を受ける患者への看護	a. 脳波検査
		b. 髄液検査
		c. 脳血管造影
	C. 治療を受ける患者への看護	a. 開頭術
		b. 穿頭術
		c. 血管バイパス術
		d. 血管内治療
e. 脳室ドレナージ術		
f. 脳室-腹腔<V-P>シャント術		
g. 低体温療法		
D. 病期や機能障害に応じた看護	a. 脳血管障害 (大脳、小脳)	
	b. 脳腫瘍 (大脳、小脳)	
	c. 感染症 (脳炎、髄膜炎)	
	d. 頭部外傷	
	e. 脊髄損傷	
	f. 重症筋無力症	
	g. Guillain-Barré<ギラン・バレー>症候群	
	h. 筋萎縮性側索硬化症<ALS>	
18. 感覚機能障害のある患者の看護	A. 原因と障害の程度のアセスメントと看護	a. 視覚障害
		b. 聴覚障害
		c. 嗅覚障害
		d. 味覚障害
		e. 触覚障害
		f. 生命・生活への影響
	B. 検査・処置を受ける患者への看護	a. 眼底検査
		b. 聴力検査
		c. 経鼻内視鏡検査
		d. 味覚検査
	C. 治療を受ける患者への看護	a. 眼底光凝固療法
		b. 網膜剥離治療
		c. 眼内レンズ挿入術
		d. 鼓室形成術
		e. 小線源治療

成人看護学

大項目	中項目	小項目
	D. 病期や機能障害に応じた看護	a. 中途視覚障害者 b. 突発性難聴 c. Ménière<メニエール>病 d. 副鼻腔炎 e. 末梢神経障害
19. 運動機能障害のある患者の看護	A. 原因と障害の程度のアセスメントと看護	a. 姿勢機能障害 b. 移動機能障害 c. 作業機能障害 d. 生命・生活への影響
	B. 検査・処置を受ける患者への看護	a. 関節可動域<ROM>検査、徒手筋力テスト<MMT> b. 脊椎造影、椎間板造影 c. 膝関節鏡 d. 筋生検
	C. 治療を受ける患者への看護	a. ギプス固定 b. 牽引法 c. 人工関節置換術
	D. 病期や機能障害に応じた看護	a. 関節リウマチ b. 椎間板ヘルニア c. 四肢切断後
20. 排尿機能障害のある患者の看護	A. 原因と障害の程度のアセスメントと看護	a. 蓄尿・排尿障害 b. 生命・生活への影響
	B. 検査・処置を受ける患者への看護	a. 尿流動態検査 b. 残尿測定 c. 膀胱鏡
	C. 治療を受ける患者への看護	a. 膀胱切除術 b. 前立腺切除術 c. ホルモン療法
	D. 病期や機能障害に応じた看護	a. 腎・尿路結石 b. 腫瘍（腎癌、膀胱癌） c. 前立腺肥大
21. 性・生殖・乳腺機能障害のある患者の看護	A. 原因と障害の程度のアセスメントと看護	a. 性・生殖機能障害 b. ホルモン欠落症状
	B. 検査・処置を受ける患者への看護	a. ヒトパピローマウイルス<HPV>検査 b. 腹部超音波、経膈超音波検査 c. 乳房超音波検査 d. マンモグラフィー
	C. 治療を受ける患者への看護	a. 勃起障害治療 b. 性交障害治療 c. 乳癌手術 d. 女性生殖器手術 e. 男性生殖器手術 f. ホルモン療法

成人看護学

大項目	中項目	小項目
	D. 病期や機能障害に応じた看護	a. 女性生殖器の疾患（子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣嚢腫）
		b. 男性生殖器の疾患（前立腺炎、前立腺肥大）
		c. 腫瘍（乳癌、子宮体癌、子宮頸癌、卵巣癌、前立腺癌）
		d. 生殖機能障害（月経異常、更年期障害）

老年看護学

目標 I. 加齢に伴う高齢者の生活と健康状態の変化について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 高齢者の理解の基本となる概念	A. 老年期と発達・変化	a. ライフサイクルからみた高齢者
		b. 加齢と老化
		c. 発達課題
	B. 高齢者の生活の質の保障	a. ノーマライゼーション
		b. 自立支援
		c. 多様な価値観
	C. 加齢への適応	a. 喪失体験と獲得体験
		b. サクセスフルエイジング
		c. リハビリテーションの意味
		d. 終末期のとらえ方
		e. スピリチュアリティ
	D. 高齢者のいる家族の変化	a. 家族構成とニーズの変化
		b. 高齢者のいる家族の発達課題
c. 家族の機能の変化		
2. 高齢者の生活	A. 高齢者の機能と評価	a. 国際生活機能分類<ICF>
		b. 高齢者総合機能評価<CGA>
		c. 日常生活動作<ADL>
		d. 手段的日常生活動作<IADL>
		e. 障害高齢者の日常生活自立度<寝たきり度>判定基準
		f. 認知症高齢者の日常生活自立度<寝たきり度>判定基準
		g. 要介護・要支援の認定と区分
		h. 心理・情緒機能
	B. 高齢者の生活に関連する保健医療福祉制度	a. 医療保険制度
		b. 介護保険制度
		c. 高齢者の人権に関する制度
	C. その人らしい生活の継続	a. 時代背景に関連する人生と経験の多様性、生活史
		b. 生活習慣、生活様式
		c. 生活リズム
		d. 治療・介護の必要度と生活の場
e. 多様な生活の場とリロケーション		
3. 高齢者の健康	A. 高齢者の健康と疾病	a. 高齢者の健康の特徴
		b. 生理的老化と病的老化
		c. 高齢者の疾病の特徴

老年看護学

大項目	中項目	小項目
	B. 加齢に伴う身体機能の変化	a. 神経系
		b. 運動器系
		c. 感覚器系
		d. 循環器系
		e. 血液・造血器系
		f. 免疫系
		g. 呼吸器系
		h. 消化器系
		i. 代謝系
		j. 泌尿器
		k. 内分泌
		l. 生殖器系
b. 記憶力、判断力、計算力、遂行力		
	D. 加齢に伴う心理・社会的変化	a. 役割と社会活動の変化
		b. 余暇活動と生きがい
		c. 住宅環境
		d. 就労、雇用
		e. 収入、生計
4. 老年看護の基本	A. 老年看護の変遷	a. 高齢者に関する保健医療福祉の変遷
		b. 概念（エンパワメント、ストレングスモデル、ライフレビュー、コンフォート理論）の活用
	B. 老年看護の倫理	a. 高齢者差別の防止
		b. 高齢者虐待の防止
		c. 安全確保と身体拘束
		d. 高齢者の権利擁護<アドボカシー>
		e. 認知症高齢者の権利擁護<アドボカシー>
		f. 高齢者の意思決定への支援
		g. 終末期における生き方や死の迎え方の意向
	C. 老年看護の特徴	a. 安全・安楽な生活の援助
		b. 健康の保持増進と廃用症候群の予防
		c. 疾患の治癒・回復の特徴に応じた援助
		d. 個別の日常生活能力、目標に合わせた援助
e. 人生の統合をはかる支援		
f. 家族との協働		
g. 安全管理<セーフティマネジメント>		
h. チームアプローチ（多職種連携）		
i. 地域包括ケアシステム		

老年看護学

目標Ⅱ. さまざまな健康状態にある高齢者と家族の生活および健康を支える看護についての基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
5. 高齢者の生活を支える看護	A. コミュニケーション	a. コミュニケーション能力
		b. コミュニケーションを促す要素と阻害要因
		c. 高齢者とのコミュニケーションの方法
	B. 寛ぎ、安心、安全	a. 寛ぎ、安心、安全
		b. 寛ぎ・安心・安全の確保のための援助
	C. 歩行、移動、姿勢保持	a. 歩行、移動動作、姿勢保持
		b. 歩行・移動動作・姿勢保持のための援助
		c. 転倒・転落の発生の要因
		d. 転倒・転落の防止
		e. 転倒の影響
	D. 食生活	a. 食生活の状況
b. 嚥下能力・嗜好性・環境に応じた食生活の援助		
E. 排泄	a. 排泄の状況	
	b. 排泄能力の変化に応じた援助	
F. 清潔、身だしなみ、衣生活	a. 清潔・身だしなみの行為	
	b. 更衣動作	
	c. 入浴行動に伴う危険性、負担に応じた清潔・衣生活の援助	
G. 活動と休息	a. 活動と休息	
	b. 生活リズムの調整	
H. 性<セクシュアリティ>	a. 性<セクシュアリティ>	
	b. 性<セクシュアリティ>への援助	
I. 社会参加	a. 社会参加の状況	
	b. 生きがいを持てる身近な場所への参加の援助	
6. さまざまな健康状態や受療状況に応じた高齢者の看護	A. 健康の維持と介護予防	a. 健康の維持・増進の状況
		b. 受療状況
		c. 介護予防の促進と評価
		d. フレイル
	B. 急性期の高齢者への看護	a. 急性期の高齢者の特徴
		b. 手術療法を受ける高齢者の援助
		c. 手術療法以外の急性期の高齢者の援助
	C. 慢性期の高齢者への看護	a. 慢性期の高齢者の特徴
		b. 慢性期の高齢者の援助
	D. 回復期の高齢者への看護	a. 回復期の高齢者の特徴
		b. 生活機能の維持と向上
		c. リハビリテーションを受ける高齢者の援助

老年看護学

大項目	中項目	小項目
	E. エンド・オブ・ライフ・ケア<end-of-life care>	a. 身体徴候のアセスメントと援助 b. 苦痛の緩和と安楽への援助 c. 精神的苦痛や混乱に対する援助 d. 臨死期の評価と援助 e. 家族の参加と家族への援助 f. グリーフケア
	F. 外来を受診する高齢者の看護	a. 外来受診時の高齢者の特徴 b. 診察時の援助 c. 疾患・治療の理解と治療継続への援助
	G. 検査を受ける高齢者の看護	a. 安全・安楽な検査の実施 b. 加齢による検査結果への影響
	H. 薬物治療を受ける高齢者の看護	a. 加齢に伴う薬物動態の変化 b. 服薬管理とリスクマネジメント
7. 高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護	A. 廃用症候群	※ A～Jの共通の小項目 a. 加齢による病態と要因 b. アセスメント c. 予防と援助
	B. 脱水症	
	C. 摂食・嚥下障害	
	D. 低栄養	
	E. 尿失禁	
	F. 便秘・下痢	
	G. 睡眠障害	
	H. 視覚障害	
	I. 聴覚障害	
	J. 皮膚の障害	
	K. 認知症	a. 加齢による病態と要因 b. 環境と行動・心理症状 c. 認知機能の評価 d. 予防治療、療法的アプローチ e. コミュニケーション方法、療養環境の調整 f. 急性期一般病床での援助 g. 家族への支援とサポートシステム
	L. せん妄	※ L～Rの共通の小項目 a. 加齢による疾患の特徴と要因 b. 症状と生活への影響のアセスメント c. 予防、治療と援助
	M. うつ病	
	N. Parkinson<パーキンソン>症候群	
O. 骨粗鬆症		
P. 骨折		
Q. 感染症		
R. L～Q以外の高齢者に特有な疾患		

老年看護学

大項目	中項目	小項目
8. 治療・介護を必要とする高齢者の家族の看護	A. 高齢者の家族の健康と生活への影響	a. 看護の対象としての家族
		b. 介護者の健康
		c. 介護者の社会生活
	B. 家族全体への影響と介護への適応	a. 家族システムのアセスメント
		b. 家族の発達課題とニーズの競合
		c. 介護状況と介護力の評価
		d. 介護への適応のための援助

目標Ⅲ. 多様な生活の場で高齢者の健康を支える看護について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
9. 多様な生活の場で展開する高齢者への看護	A. 医療施設に入院する高齢者の暮らしと看護	a. 医療施設の種類と特徴
		b. 入院する高齢者の暮らしの特徴と看護の役割
	B. 介護保険施設等に入所する高齢者の暮らしと看護	a. 介護保険施設等の種類と特徴
		b. 入所者の暮らしの特徴と看護の役割
	C. 地域密着型サービス、居宅サービスを利用する高齢者の暮らしと看護	a. 地域密着型サービス、居宅サービスの種類と特徴
		b. サービスを利用する高齢者の暮らしの特徴と看護の役割
	D. 生活の場の移動と看護の継続	a. 入院時・入所時・サービス利用開始時の援助
		b. 退院支援、退所支援
		c. 看護職間の情報提供、目標の共有と評価
	E. 長期入院・入所高齢者の看護	a. 長期入院・入所高齢者のアセスメント
		b. 長期入院・入所高齢者の生活上の課題と援助
F. 福祉用具・介護用品の活用	a. 適応・活用状況に関するアセスメント	
	b. 安全で有効な活用の支援	
G. 看護と介護の協働と連携	a. 介護職員の専門性と役割の共有	
	b. 介護職員による医療行為	
H. 多職種連携、チームアプローチ	a. 多職種の中での専門性の発揮	
	b. 目標達成に向けた連携の方法	
I. 高齢者に特徴的な災害時の看護	a. 避難・誘導方法	
	b. 避難所での生活と健康の維持	
	c. 福祉避難所における援助	

小児看護学

目標 I. 子どもの成長・発達と健康増進のための子どもと家族への看護について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目	
1. 子どもと家族を取り巻く環境	A. 小児医療・小児看護の変遷と課題	a. 小児医療の変遷と課題	
		b. 小児看護の変遷と課題	
		c. 諸統計からみた子どもと家族の健康課題	
	B. 子どもの権利	a. 小児医療における子どもの権利の変遷	
		b. 小児医療・小児看護における倫理的配慮	
		c. 子どもの虐待防止	
	C. 子どもと家族を取り巻く社会資源の活用	a. 母子保健施策の活用	
		b. 小児保健医療福祉施策の活用	
	2. 子どもの成長・発達	A. 子どもの成長・発達の原則と影響因子	a. 成長・発達の概念
b. 成長・発達の原則			
c. 成長・発達に影響する因子			
d. 発達課題と発達理論			
B. 子どもの成長・発達のアセスメント		a. 形態的成長と機能的発達の評価	
		b. 身体発育の評価	
		c. 発達検査	
		d. 心理・社会的発達の評価	
		e. 養育環境	
C. 小児期における成長・発達の特徴と看護		a. 神経系	
		b. 運動器系	
		c. 感覚器系	
		d. 循環器系	
		e. 免疫系	
		f. 呼吸器系	
		g. 消化器系	
		h. 代謝系	
		i. 泌尿器系	
		j. 体温調節	
		k. 大泉門、小泉門	
		l. 生歯	
		m. 認知、思考	
		n. 社会性、道徳性	
		o. コミュニケーション、言語	
		p. 情緒	
q. アタッチメント、分離不安			
3. 小児各期における健康増進のための子どもと家族への看護		A. 新生児期の成長・発達に応じた生活への支援	a. 栄養と授乳
			b. 事故防止
			c. 親子関係の確立
			d. 家族の育児技術の獲得

小児看護学

大項目	中項目	小項目
	B. 乳児期の成長・発達に応じた生活への支援	a. 栄養と離乳
		b. 運動と遊び
		c. 感染予防と予防接種
		d. 事故防止
		e. 親子関係の確立
		f. 家族の育児技術の獲得
	C. 幼児期の成長・発達に応じた生活への支援	a. 食生活と食育
		b. 運動と遊び
		c. 生活リズムの確立
		d. 基本的な生活習慣の確立
		e. 感染予防と予防接種
		f. 事故防止と安全教育
		g. 親子関係の確立
		h. 社会化
		i. 育児技術の獲得
D. 学童期の成長・発達に応じた生活への支援	a. 肥満や食生活の乱れ	
	b. う歯の予防	
	c. 近視の予防	
	d. スポーツ外傷の予防	
	e. 学校感染症の予防	
	f. 生活習慣病の予防	
	g. 学習と遊び	
	h. 事故防止と安全教育	
	i. セルフケアと保健教育	
	j. 食生活と食育	
	k. 仲間との関係や学校への適応	
E. 思春期の成長・発達に応じた生活への支援	a. 体格と体力	
	b. 第二性徴	
	c. アイデンティティの確立	
	d. 情緒的变化と家族関係	
	e. 仲間との関係	
	f. 性<セクシュアリティ>意識の変化と逸脱行動	
	g. 異性への関心	
	h. ライフスタイルと生活リズムの変化	
	i. 喫煙・飲酒の防止	
	j. 不登校の実態と支援	
	k. いじめ・校内暴力の防止	
	l. 自殺の防止	

小児看護学

目標Ⅱ. 病気や診療・入院が子どもと家族へ与える影響と看護について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
4. 病気や診療・入院が子どもと家族に与える影響と看護	A. 病気に対する子どもの理解と説明	a. 病気に対する子どもの理解の特徴 b. 子どもの理解に関係する要因 c. 発達に応じた病気の説明 d. インフォームド・アセント
	B. プレパレーション	a. 子どもへの説明と同意 b. 家族の準備状態の把握 c. 検査・処置を受ける子どもと家族への支援
	C. 病気や診療・入院が子どもに与える影響と看護	a. 成長・発達に及ぼす影響 b. 病気や診療・入院に伴うストレスと影響要因 c. 子どもの反応とストレス対処行動
	D. 子どもの病気や診療・入院がきょうだい・家族に及ぼす影響と看護	a. 子どもの病気や診療・入院に伴うきょうだい・家族のストレス b. きょうだい・家族のストレスへの支援
	E. 痛みを表現している子どもと家族への看護	a. 子どもの痛みの受け止め方 b. 痛みの表現方法 c. 痛みの客観的評価 d. 痛みの緩和に向けた援助
	F. 活動制限が必要な子どもと家族への看護	a. 活動制限の目的 b. 活動制限の身体的・心理社会的影響 c. 子どもの発達に応じた日常生活への援助
	G. 感染対策上隔離が必要な子どもと家族への看護	a. 隔離の目的・方法 b. 隔離の身体的・心理社会的影響 c. 子どもの発達に応じた日常生活への援助 d. 家族の面会や付き添いにおける援助
	H. 外来における子どもと家族への看護	a. 外来における緊急度の把握・トリアージ b. 外来における感染症対策 c. 受診時の子どもと家族の緊張と不安の軽減 d. 健康診査・育児相談

小児看護学

大項目	中項目	小項目
5. 検査や処置を受ける子どもと家族への看護	※ a～l に共通する中項目 A. 診療（検査、処置）に伴う技術と看護 B. プレパレーションと看護	a. バイタルサインの測定
		b. 身体計測
		c. 採血
		d. 採尿
		e. 骨髄穿刺
		f. 腰椎穿刺
		g. 与薬
		h. 注射
		i. 輸液療法
		j. 吸引
		k. 酸素療法
		l. 経管栄養

目標Ⅲ. 特別な状況にある子どもと家族への看護について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
6. 特別な状況にある子どもと家族への看護	A. 虐待を受けている子どもと家族への看護	a. 子どもへの虐待の特徴
		b. 虐待のリスク要因と虐待の早期発見
		c. 虐待の未然防止に向けての支援
		d. 多機関・多職種連携の連携・協働
	B. 災害を受けた子どもと家族への看護	a. 災害による子どもへの影響とストレス
		b. 災害を受けた子どもと家族への援助
		c. 災害時における緊急度の把握・トリアージ

目標Ⅳ. 健康課題をもつ子どもと家族への看護について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
7. 急性期にある子どもと家族への看護	A. 急性症状のある子どもと家族への看護	a. 急性的な経過をたどる疾患の特徴と治療
		b. 発熱
		c. 脱水
		d. 下痢・嘔吐
		e. 呼吸困難
		f. けいれん
	B. 救急救命処置が必要な子どもと家族への看護	a. 子どもの救急におけるトリアージと対応
		b. 子どもの意識レベル
		c. 主な誤飲物質と処置
		d. 子どもの熱傷の特徴・重症度および処置
		e. 溺水と処置
		f. 子どもの一次救命処置
		g. 生命が危険な状況にある子どもと家族への援助

小児看護学

大項目	中項目	小項目
	C. 周手術期における子どもと家族への看護	a. 子どもの手術の特徴 b. 手術を要する健康障害と手術の時期 c. 計画手術、緊急手術 d. 日帰り手術 e. 子どもと家族の術前準備 f. 子どもの安全・安楽への援助 g. 手術中・手術直後の家族への援助 h. 手術後の身体状態のアセスメントと援助 i. 退院に向けての援助
	D. 出生直後から集中治療が必要な子どもと家族への看護	a. ハイリスク新生児の特徴 b. 集中治療における援助 c. 親子・家族関係確立への支援
8. 慢性的な疾患・障害がある子どもと家族への看護	A. 慢性疾患をもつ子どもと家族への看護	a. 慢性的な経過をたどる疾患の特徴と治療 b. 小児慢性特定疾患治療研究事業 c. 疾患による子どもと家族の生活の変化 d. 学習支援、復学支援 e. 発達に応じたセルフケア能力の獲得 f. セルフケア能力の獲得のための養育と家族への支援 g. 地域との連携・調整
	B. 先天性疾患のある子どもと家族への看護	a. 先天異常の種類と特徴 b. 子どもの発達段階に応じた援助 c. 子どもの疾患に対する家族の理解と受容 d. 養育とケア技術獲得に関する家族への援助
	C. 心身障害のある子どもと家族への看護	a. 心身障害の定義と種類 b. 家族と子どもの障害の受容 c. 重症心身障害児と家族 d. 医療的ケアの必要な超重症児と家族 e. 発達障害児と家族
	D. 医療的ケアを必要として退院する子どもと家族への看護	a. 入院生活から在宅への移行に向けた支援 b. 多職種との連携と社会資源の活用 c. 在宅療養中の子どもと家族 d. 子どものセルフケア行動の促進
9. 終末期にある子どもと家族への看護	A. 子どもの死の理解と看護	a. 子どもの死の概念 b. 死に対する子どもの反応
	B. 終末期にある子どもと家族への緩和ケア	a. 終末期にある子どもの心身の状態と緩和ケア b. 子どもの死を看取る家族の反応

母性看護学

目標Ⅰ. リプロダクティブ・ヘルスの基礎（概念、生理、倫理、法・制度）や動向および看護の基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. リプロダクティブ・ヘルスに関する看護	A. リプロダクティブ・ヘルスに関する概念	a. リプロダクティブ・ヘルス／ライツ
		b. 性<セクシュアリティ>
		c. セックス、ジェンダー
		d. 性の多様性（性同一性障害、性分化疾患、LGBT）
	B. 生殖に関する生理	a. ヒトの発生・性分化のメカニズム
		b. 性周期（初経、月経）
		c. 性行動、性反応
		d. 受精、着床
	C. リプロダクティブ・ヘルスに関する世界・日本の動向	a. 出生に関する統計
		b. 新生児・乳児・周産期死亡に関する統計
		c. 妊産婦死亡に関する統計
		d. 死産、流産、人工妊娠中絶に関する統計
	D. リプロダクティブ・ヘルスに関する倫理	a. プライバシーの保護
		b. 自己決定の尊重
		c. 人工妊娠中絶と倫理的課題
		d. 生殖補助医療と倫理的課題
		e. 出生前診断と倫理的課題
	E. リプロダクティブ・ヘルスに関する法や施策と支援	a. 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律<DV防止法>
		b. 性暴力被害者支援
		c. 虐待防止に関する法律
d. 母体保護法		
e. 女性の就労に関する法律		

目標Ⅱ. ウィメンズヘルスに関する看護の基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
2. 女性のライフサイクル各期における看護	A. 思春期・成熟期女性の健康課題	a. 第二性徴
		b. 性意識・性行動の発達
		c. 家族計画、受胎調節
		d. 月経異常、月経随伴症状
		e. 性感染症<STI>
		f. 不妊症（男性不妊症、女性不妊症）
		g. 女性生殖器の疾患（子宮筋腫、子宮内膜症）

母性看護学

大項目	中項目	小項目
	B. 更年期・老年期女性の健康課題	a. ホルモンの変化と検査・治療 b. 更年期症状 c. 骨粗鬆症 d. 閉経 e. 骨盤臓器脱、尿失禁 f. 萎縮性膀胱炎、外陰炎

目標Ⅲ. 妊娠・分娩・産褥期および早期新生児期における看護について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
3. 妊娠・分娩・産褥期および早期新生児期における看護の対象と基盤となる概念	A. 対象理解の基盤となる概念	a. 母性、父性、親性 b. 母親役割、父親役割 c. 母子相互作用、愛着形成 d. 早期の母子接触 e. 家族の発達・機能
	B. 看護の基盤となる概念	a. 女性を中心としたケア<Women-centered care> b. 家族を中心としたケア<Family-centered care> c. ウェルネス d. エンパワメント e. ヘルスプロモーション f. セルフケア
4. 妊娠期の看護	A. 正常な妊娠の経過	a. 妊娠期の定義 b. 妊娠の成立 c. 妊娠の経過と胎児の発育 d. 母体の生理的变化 e. 妊婦と家族の心理・社会的変化 f. 妊娠による不快症状
	B. 妊婦・胎児の健康と生活のアセスメント	a. 妊娠週数 b. 妊婦の健康状態と胎児の発育 c. 食事と栄養 d. 排泄 e. 活動と休息 f. 清潔 g. 性生活 h. 嗜好品（喫煙、アルコール、カフェイン） i. 妊婦健康診査 j. Leopold<レオポルド>触診法 k. 子宮底・腹囲の測定 l. 間欠的胎児心拍数聴取 m. 胎児心拍数陣痛図、ノンストレステスト<NST> n. 胎児の超音波断層法

母性看護学

大項目	中項目	小項目		
	C. 妊婦と家族への看護	a. 食生活の教育 b. 健康維持・増進、セルフケアに関する教育 c. マイナートラブルへの対処 d. 家族の再調整 e. 出産の準備 f. 育児の準備		
	D. 妊娠期の健康問題に対する看護	a. 不育症、流産、早産 b. 感染症 c. 常位胎盤早期剥離 d. 前置胎盤 e. 妊娠高血圧症候群 f. 妊娠糖尿病 g. 出生前診断 h. 妊娠貧血 i. 妊娠悪阻 j. 高年妊娠、若年妊娠 k. 胎児機能不全		
	5. 分娩期の看護	A. 正常な分娩の経過	a. 分娩期の定義 b. 分娩の3要素 c. 分娩の経過	
		B. 産婦・胎児の健康のアセスメント	a. 産婦の健康状態 b. 分娩経過と進行 c. 陣痛、産痛 d. 産道 e. 破水 f. 胎児の健康状態 g. 産婦と家族の心理・社会的状態 h. 連続的胎児心拍数モニタリング	
		C. 産婦と家族への看護	a. 産婦の基本的ニーズへの支援 b. 産痛の緩和と分娩進行に対応した看護 c. 産婦と家族の心理への看護	
		D. 分娩期の健康問題に対する看護	a. 前期破水 b. 帝王切開術 c. 分娩時異常出血 d. 胎児機能不全 e. 陣痛異常（微弱陣痛、過強陣痛）	
		6. 産褥期の看護	A. 正常な産褥の経過	a. 産褥期の定義 b. 産褥期の身体的特徴 c. 全身の変化 d. 生殖器の変化 e. 乳房の変化 f. 褥婦と家族の心理・社会的変化

母性看護学

大項目	中項目	小項目
	B. 褥婦の健康と生活のアセスメント	a. 全身状態
		b. 子宮復古
		c. 分娩による損傷の状態
		d. 母乳育児の状況、栄養法
		e. 食事と栄養
		f. 排泄
		g. 活動と休息
		h. 清潔
		i. 褥婦と家族の心理・社会的状態
		j. 育児準備
		C. 褥婦と家族への看護
	b. 母乳育児への支援	
	c. パースレビュー	
	d. 褥婦の日常生活とセルフケア	
	e. 食生活の教育	
	f. 親子の愛着形成の支援	
	g. 育児技術獲得への支援	
	h. 家族の再調整	
	D. 産褥期の健康問題に対する看護	a. 帝王切開術後
		b. 子宮復古不全
		c. 産褥熱
		d. 乳腺炎
		e. 産後精神障害
		f. 尿路感染、排尿障害
g. 死産、障害がある新生児を出産した親		
7. 早期新生児期の看護	A. 早期新生児の特徴と生理的変化	a. 新生児期の定義と特徴
b. 神経系		
c. 運動器系		
d. 感覚器系		
e. 循環器系		
f. 生体の防御機能		
g. 呼吸器系		
h. 消化器系		
i. 代謝系		
j. 泌尿器系		
k. 体温調節		

母性看護学

大項目	中項目	小項目
	B. 早期新生児の健康と発育のアセスメント	a. Apgar<アプガー>スコア
		b. 成熟度の評価
		c. 外観
		d. バイタルサイン
		e. 皮膚、皮膚色
		f. 頭部、顔面
		g. 体幹、四肢
		h. 外性器
		i. 神経学的状態
		j. 生理的体重減少
		k. 生理的黄疸
		l. 哺乳力
		m. 排尿、排便
		n. 新生児マススクリーニング
	C. 早期新生児と家族への看護	a. 気道の開通
		b. 保温
		c. 全身計測
		d. 全身の観察
		e. 清潔
		f. 哺乳
		g. 感染予防
		h. 事故防止
		i. 保育環境
	D. 早期新生児の健康問題に対する看護	a. 先天異常の新生児
		b. 早産児、低出生体重児
		c. 新生児一過性多呼吸<TTN>
		d. 呼吸窮迫症候群<RDS>
e. 胎便吸引症候群<MAS>		
f. 高ビリルビン血症		
g. 新生児ビタミンK欠乏症		
h. 低血糖症		

母性看護学

目標Ⅳ. 周産期医療のシステムと母子保健施策の活用についての基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
8. 周産期医療のシステムと母子保健施策	A. 周産期医療のシステム	a. 母体搬送
		b. 新生児搬送
		c. チーム医療
		d. 周産期医療ネットワーク
	B. 母子保健法に関する施策の活用	a. 妊婦健康診査
		b. 新生児訪問指導
		c. 乳幼児健診
		d. 未熟児養育医療と未熟児訪問指導
	C. 子育て支援に関する施策の活用	a. 産前・産後休業、育児休業
		b. 妊娠・出産包括支援
		c. 子ども・子育て支援事業
		d. 在留外国人の母子支援
		e. 災害時の母子支援

精神看護学

目標 I. 精神保健の基本と保持・増進に向けた看護について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 精神保健の基本	A. 精神の健康の概念	a. 精神の健康の定義
		b. 精神障害の一次予防・二次予防・三次予防
	B. 心の機能と発達	a. 精神と情緒の発達
		b. 自我の機能
		c. 防衛機制
		d. 精神力動
		e. 転移感情
	C. 精神の健康に関する普及啓発	a. 偏見、差別、スティグマ
		b. 精神保健医療福祉の改革ビジョン
	D. 危機〈クライシス〉	a. 危機〈クライシス〉の概念
		b. 危機〈クライシス〉の予防
		c. 危機介入
		d. ストレスと対処
		e. 適応理論
	E. 災害時の地域における精神保健医療活動	a. 災害時の精神保健医療活動
		b. 災害時の精神保健に関する初期対応
		c. 災害時の精神障害者への治療継続
	F. 精神の健康とマネジメント	a. 心身相関と健康
		b. 身体疾患がある者の精神の健康
		c. 精神疾患がある者の身体の健康
		d. 患者と家族の精神の健康
e. 保健医療福祉に従事する者の精神の健康		
f. 心身相関の考え方に基づくホリスティックケア		
g. リエゾン精神看護		
h. 患者、家族、保健医療福祉の専門職間の連携促進		

精神看護学

目標Ⅱ. 主な精神疾患・障害の特徴と看護について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
2. 主な精神疾患・障害の特徴と看護	A. 症状性を含む器質性精神障害	※ A～Lの共通の小項目 a. 症状と看護 b. 臨床検査および心理検査と看護 c. 薬物療法と看護
	B. 精神作用物質使用による精神・行動の障害	
	C. 統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害	
	D. 気分＜感情＞障害	
	E. 神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害	
	F. 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	
	G. パーソナリティ障害	
	H. 習慣および衝動の障害	
	I. 性同一性障害	
	J. 知的障害＜精神遅滞＞	
	K. 心理的発達の障害	
	L. 小児期・青年期に発症する行動・情緒の障害	

目標Ⅲ. 精神看護の対象の理解と支援のための概念について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
3. 精神看護の対象の理解と支援のための概念	A. 援助関係の構築	a. 信頼関係の基礎づくり
		b. 患者－看護師関係の発展と終結
		c. プロセスレコードの活用
	B. セルフケアへの援助	a. 食物・水分の摂取
		b. 呼吸
		c. 排泄
		d. 清潔と身だしなみ
		e. 活動と休息
		f. 対人関係
g. 安全		
C. 生きる力と強さに着目した援助	a. レジリエンス	
	b. リカバリ＜回復＞	
	c. ストレングス＜強み、力＞	
	d. エンパワメント	

精神看護学

目標Ⅳ. 精神疾患・障害がある者の生物・心理・社会的側面に注目した、多角的なアセスメントに基づく看護について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
4. 精神疾患・障害がある者への看護	A. 脳の仕組みと精神機能	a. 脳の部位と精神機能
		b. 神経伝達物質と精神機能・薬理作用
		c. ストレス脆弱性仮説
		d. 脳と免疫機能
		e. 睡眠障害と概日リズム<サーカディアンリズム>
	B. 心理・社会的療法	a. 個人精神療法
		b. 集団精神療法、集団力動
		c. 心理教育的アプローチ
		d. 認知行動療法
		e. 生活技能訓練<SST>
	C. B以外の治療法	a. 電気けいれん療法
	D. 家族への看護	a. 家族のストレスと健康状態のアセスメント
		b. 家族の対処力とソーシャルサポートのアセスメント
		c. 家族システムのアセスメント
		d. 家族への教育的介入と支援
		e. 患者-家族関係
	E. 社会復帰・社会参加への支援	a. リハビリテーションの概念
		b. 国際生活機能分類<ICF>
		c. 長期入院患者の退院支援
	F. 精神保健医療福祉に関する社会資源の活用と調整	a. 精神科デイケア、精神科ナイトケア
		b. 精神科訪問看護、訪問看護
		c. 困難事例に関する行政との連携（保健所、市町村、精神保健福祉センター）

精神看護学

大項目	中項目	小項目
	G. 社会資源の活用とケアマネジメント	a. 精神疾患・障害者ケアマネジメントの基本的考え方 b. 社会資源の活用とソーシャルサポート c. セルフヘルプグループ d. 自立支援医療 e. 居宅介護<ホームヘルプ>、同行援護および行動援護 f. 重度訪問介護 g. 生活介護 h. 短期入所<ショートステイ> i. 共同生活介護<ケアホーム> j. 生活訓練 k. 就労移行支援 l. 就労継続支援A型・B型 m. 共同生活援助<グループホーム> n. 地域生活支援事業 o. 精神障害者保健福祉手帳

目標V. 精神疾患・障害がある者の人権と安全を守り、回復を支援する看護について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
5. 安全な治療環境の提供	A. 安全管理<セーフティマネジメント>	a. 病棟環境の整備と行動制限 b. 自殺、自殺企図、自傷行為 c. 攻撃的行動、暴力、暴力予防プログラム d. 災害時の精神科病棟の安全の確保
6. 精神保健医療福祉の変遷と法や施策	A. 患者の権利擁護<アドボカシー>	a. 当事者の自己決定の尊重 b. 入院患者の基本的な処遇 c. 精神医療審査会 d. 隔離、身体拘束
	B. 精神保健医療福祉の変遷と看護	a. 諸外国における精神医療の変遷 b. 日本における精神医療の変遷 c. 精神保健医療福祉における看護師の役割
	C. 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律<精神保健福祉法>の運用	a. 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律<精神保健福祉法>の基本的な考え方 b. 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律<精神保健福祉法>による入院の形態 c. 精神保健指定医

精神看護学

大項目	中項目	小項目
7. 精神保健医療福祉における多職種連携	A. 多職種連携と看護の役割	a. 医師、歯科医師
		b. 保健師
		c. 精神保健福祉士
		d. 作業療法士
		e. 精神保健福祉相談員
		f. ピアサポーター
		g. 薬剤師
		h. 栄養士
		i. 臨床心理技術者（臨床心理士、公認心理師等）

在宅看護論

目標 I. 在宅看護における対象と基盤となる概念、安全と健康危機管理について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 在宅看護の対象と基盤となる概念	A. 在宅看護の対象と背景	a. 国民の価値観
		b. 疾病がある者と家族
		c. 障害がある者と家族
		d. 疾病や障害がある者の社会参加
	B. 在宅療養を支援する仕組み	a. 在宅医療・介護に関する仕組み
		b. 地域包括ケアシステム
	C. 在宅看護における権利の保障	a. 在宅療養者の権利擁護<アドボカシー> (成年後見制度)
b. 虐待の防止		
c. 個人情報の保護と管理		
d. サービス提供者の権利の保護		
D. 在宅療養者の自立・自律支援	a. 価値観の尊重と意思決定支援	
	b. QOLの維持・向上	
	c. セルフケア	
	d. 社会参加への援助	
E. 在宅における病状・病態の経過の予測と予防	a. 病状・病態の経過の予測	
	b. 予測に基づく予防	
	c. 在宅での感染予防対策	
F. 生活の場に応じた看護の特徴と看護の役割	a. 外来看護	
	b. 訪問看護	
	c. 入所施設での看護	
	d. 通所施設での看護	
G. 在宅療養者の家族への看護	a. 家族の介護力のアセスメントと調整	
	b. 家族関係の調整	
	c. ケア方法の指導	
	d. 介護者の健康	
	e. レスパイトケア	
2. 在宅看護における安全と健康危機管理	A. 日常生活における安全管理	a. 家屋環境の整備
		b. 転倒・転落の防止
		c. 誤嚥・窒息の防止
		d. 熱傷・凍傷の防止
		e. 熱中症の予防
		f. 閉じこもりの予防
		g. 独居高齢者の防災
	B. 災害時における在宅療養者と家族の健康危機管理	a. 在宅療養者・家族への防災対策の指導
		b. 医療機関との連携による医療上の健康危機管理
		c. 福祉機関との連携による生活上の健康危機管理
		d. 行政 (市町村・消防署・警察等) との連携

在宅看護論

大項目	中項目	小項目
3. 訪問看護の概要	A. 訪問看護制度の理解	a. 訪問看護の変遷
		b. 訪問看護の提供方法と種類
		c. 訪問看護制度の課題
	B. 訪問看護制度の法的枠組み	a. 介護保険法
		b. 健康保険法
		c. 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律<障害者総合支援法>
	C. 訪問看護サービスの仕組みと提供	a. 訪問看護ステーションの開設基準
		b. 訪問看護サービス開始までの流れ
		c. 訪問看護サービスの展開
d. 訪問看護サービスの質保証		
e. 訪問看護サービスの管理・運営		

目標Ⅱ. 在宅療養者の特徴を理解し、病期や状況に応じて展開する在宅看護について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
4. 在宅療養生活を支える看護	A. 食事・栄養	a. 食事摂取能力（嚥下・消化・吸収能力）
		b. 食事内容の選択、食材の調達の方法に関する援助
		c. 栄養を補う食品の種類と選択方法に関する援助
		d. 食事摂取能力低下時の援助
		e. 口腔ケア
	B. 排泄	a. 排泄の状況と障害
		b. 排泄補助用具の種類と選択方法
		c. 尿失禁の予防と援助
		d. 便失禁の予防と援助
		e. 便秘の予防と援助
		f. ストーマケア
	C. 清潔	a. 清潔の保持の状況
		b. 清潔の援助方法と自立支援
	D. 移動	a. 日常生活動作<ADL>・手段的日常生活動作<IADL>のアセスメント
		b. 日常生活動作<ADL>・手段的日常生活動作<IADL>の維持および向上のための援助
		c. 移動時の安全確保
d. 移動補助用具の種類と選択方法		
5. 在宅療養者の病期に応じた看護	A. 日常生活動作<ADL>の低下および疾病の再発の予防が必要な療養者	a. 日常生活のアセスメントと環境整備
		b. 在宅療養者と家族のセルフマネジメント力の維持・向上のための支援
		c. 異常の早期発見と対応
		d. 社会資源の活用・調整

在宅看護論

大項目	中項目	小項目	
	B. 急性期にある療養者	a. 緊急性と重症度のアセスメント b. 状態に合わせた対応・調整 c. 急性症状への対応 d. 感染症（肺炎等）への対応	
	C. 慢性期にある療養者	a. 慢性期の特徴を踏まえた状態のアセスメント b. 状態に合わせた対応・調整 c. 急性増悪の早期発見と対応 d. 社会資源の活用・調整	
	D. 回復期（リハビリテーション期）にある療養者	a. 在宅におけるリハビリテーション b. 生活機能・日常生活動作<ADL>のアセスメント c. 状態に合わせた対応・調整 d. 合併症の予防と対応 e. 居住環境のアセスメントと対応・調整 f. 社会資源の活用・調整	
	E. 終末期にある療養者	a. 症状マネジメント b. 終末期緩和ケアの実際 c. 看取りの援助 d. 家族へのグリーフケア	
	6. 在宅療養において特徴的な疾病がある療養者への看護	A. 小児の在宅療養者への看護	※ A～Dの共通の小項目 a. 在宅療養継続のための療養者の健康危機管理 b. 療養者の自立支援とQOLの維持・向上（尊厳保持、成長、権利擁護<アドボカシー>を含む）のための在宅療養支援 c. 在宅療養継続のための家族支援
		B. 認知症の在宅療養者への看護	
		C. 精神疾患がある在宅療養者への看護	
		D. 難病がある在宅療養者への看護	
	7. 在宅における医療管理を必要とする人と看護	A. 薬物療法	a. 服薬状況の把握と管理 b. 医師および薬剤師との連携 c. 糖尿病の管理
		B. 化学療法、放射線療法	a. 外来通院中の在宅療養者に対する援助
		C. 酸素療法	a. 対象の特徴
			b. 機器の種類と原理
c. 合併症の予防			
d. 安全管理と援助			
D. 人工呼吸療法（非侵襲的換気療法）		a. 対象の特徴	
		b. 人工呼吸器の原理・構造	
		c. 気道浄化のケア	
		d. 合併症の予防	
	e. 在宅における安全管理と援助		
E. 膀胱留置カテーテル法	a. 対象の特徴		
	b. 合併症の予防		
	c. 在宅における安全管理と援助		

在宅看護論

大項目	中項目	小項目
	F. 胃瘻、経管・経腸栄養法	a. 対象の特徴
		b. 栄養剤の種類と特徴
		c. 栄養評価
		d. 合併症の予防
		e. 在宅における安全管理と援助
	G. 中心静脈栄養法	a. 対象の特徴
		b. 栄養剤の注入方法
		c. 栄養評価
		d. 合併症の予防
		e. 在宅における安全管理と援助
	H. 褥瘡管理	a. 褥瘡発生のリスクアセスメントと予防
		b. 褥瘡のアセスメントと処置
		c. 除圧・体位変換に関する器具の種類と選択

目標Ⅲ. 地域包括ケアシステムにおける在宅看護の位置付けと看護の役割について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
8. 療養の場の移行に伴う看護	A. 医療機関との入退院時の連携	a. 地域連携クリニカルパス
		b. 外来との連携
		c. 病棟との連携
		d. 退院支援部門との連携
		e. 診療所との連携
	B. 施設との入退所時の連携	a. 介護保険施設等の公的施設との連携
		b. サービス付き高齢者向け住宅等の民間施設との連携
9. 地域包括ケアシステムにおける多職種連携	A. 行政との連携	※ A～Dの共通の小項目 a. 機関・職種の役割 b. 双方向で行う連携の目的と看護の役割
	B. 地域包括支援センターとの連携	
	C. 居宅介護支援事業所との連携	
	D. 介護サービス事業所との連携	
	E. 住民との連携	
10. 在宅看護におけるケースマネジメント／ケアマネジメント	A. 看護が担うケースマネジメント／ケアマネジメントの概念	a. サービスの統合、ケアの継続性
		b. 残存機能の維持・向上
		c. 多様化したニーズへの対応
		d. 意思決定支援
	B. ケースマネジメント／ケアマネジメントの過程	a. ニーズのアセスメント
		b. ニーズに合わせたサービスの選択・計画
		c. サービスを結びつける調整
		d. 実施、モニタリング、評価、フィードバック
C. 社会資源の理解と活用	a. フォーマルサービスとインフォーマルサービス	

看護の統合と実践

目標 I. 看護におけるマネジメントの基本について理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 看護におけるマネジメント	A. 看護マネジメントの概念	a. 看護マネジメントの定義
		b. 看護組織と職務
		c. 組織経営と看護
	B. 医療・看護の質保証	a. 医療・看護の質と指標
		b. 病院機能評価
		c. 医療・看護の標準化とクリニカルパス
		d. 看護業務管理、看護の交代勤務
		e. 看護業務基準、看護手順
		f. 看護制度、看護提供システム
		g. 診療報酬制度
		h. 重症度、医療・看護必要度
	C. 保健医療の機能分化と連携	a. 看護の専門性と多職種連携
		b. 病床機能報告
		c. 医療計画
		d. 継続看護、入・退院調整
		e. 地域包括ケアシステム
	D. 情報のマネジメント	a. 医療情報の利活用
		b. 情報の公開
		c. 個人情報の保護と管理、診療情報等の開示
		d. 診療記録等の電子化と医療情報システム
	E. 医療安全のマネジメント	a. 安全管理体制整備と医療安全文化の醸成
		b. 医療事故・インシデントレポートの分析と活用
		c. 多重課題の特徴と対応
F. 人材育成・活用	a. 継続教育、キャリア開発	
	b. 認定・専門看護師の資格と活動	
	c. 特定行為に係る看護師の研修制度	
	d. 看護師等の確保、就業継続、看護師等の届出制度	
	e. 看護師等の労働安全衛生	
G. 看護政策と行政	a. 看護政策立案の過程	
	b. 看護行政の組織と役割	

看護の統合と実践

目標Ⅱ. 災害看護について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
2. 災害と看護	A. 災害医療	a. 災害の特徴
		b. 災害と法制度
		c. 災害時の支援体制と医療体制
	B. 災害の種類と特徴	a. 自然災害
		b. 人為的災害
		c. 特殊災害
		d. 複合災害
	C. 災害各期の看護	a. 災害看護の特徴
		b. 災害各期（超急性期・急性期・慢性期・静穏期）の特徴
		c. 各期における保健医療の役割と看護
		d. 各期における要援護者への看護

目標Ⅲ. グローバル化を視野に入れた国際社会における看護について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
3. 国際化と看護	A. 看護における国際化の視点	a. グローバル化と世界共通の健康目標
		b. グローバル化と人間の安全保障
		c. 国家・地域間の健康格差
		d. 国際保健における日本の役割
		e. 諸外国の看護制度
	B. 国際社会における看護の対象	a. 在留外国人
		b. 在外日本人
		c. 帰国日本人
		d. 国際協力活動を必要とする人々・地域・組織
	C. 多様な文化と看護	a. 文化を考慮した看護
		b. 在留外国人の保健医療課題と看護
	D. 国際協力活動と看護	a. 国際機関の役割
		b. 国際協力活動において看護が果たす役割
		c. 政府開発援助<ODA>を通じた開発途上国援助

看護の統合と実践

目標Ⅳ. 複合的な事象において看護の知識を統合し活用できる判断能力を問う。

大項目	中項目	
4. 各領域（A～J）の看護の統合	A. 基礎看護学	※A～Jの中項目を2項目以上含む、臨地の状況に近い複合的な事象における統合的な問題として出題する。
	B. 成人看護学	
	C. 老年看護学	
	D. 母性看護学	
	E. 小児看護学	
	F. 精神看護学	
	G. 在宅看護論	
	H. 看護におけるマネジメントの基本	
	I. 災害と看護	
	J. 国際化と看護	

看護師国家試験出題基準・索引

1	G	R
1型糖尿病..... 35	Guillain-Barré症候群 18, 36	RDS 53
2	H	Rh式 11
2型糖尿病..... 35	HIV 17	ROM検査 37
A	HIV感染症 22, 36	S
ABO式 11	HIV療法 35	Sjögren症候群 17
ADL 31, 39, 61, 62	HLA 11	SLE 17
AED 8	HPV検査 37	SMBG 35
AIDS 22	I	SpO ₂ の測定..... 28
ALS 36	IABP 33	SST 57
Alzheimer病..... 17, 18	IADL 39, 61	STI 49
AMR 14	ICF 39, 57	T
Apgarスコア..... 53	ITP 17	TTN 53
B	L	TTP 17
Bell麻痺 18	Leopold触診法 50	V
C	Lewy小体型認知症 ... 17, 18	V-Pシャント術 36
CABG 33	LGBT 49	W
CAPD 35	M	WHO 1
CGA 39	MAS 53	Women-centered care 50
COPD 15, 33	Ménière病 18, 37	あ
Crohn病 16, 34	MRI 28	愛着形成 50, 52
CT 28	O	アイデンティティ 3, 45
D	ODA 65	悪性リンパ腫 17
DIC 17	OGTT 35	アシドーシス 17
DV防止法 21, 49	P	アスベスト 22
end-of-life care.... 32, 42	Parkinson症候群 42	遊び 45
E	Parkinson病 17	アタッチメント 44
EBN 25	PCI 33	圧迫性神経障害 18
F	PTSD 18	アドバンスケアプランニング 32
Fallot四徴症..... 16	Q	アドヒアランス 30
Family-centered care.... 50	QOL 2, 25, 60, 62	アトピー性皮膚炎 18
		アドボカシー2, 40, 58, 60, 62
		アナフィラキシーショック 17

アプガースコア..... 53
 アポトーシス..... 14
 アルコール..... 50
 アルカローシス..... 17
 アルコール依存症..... 18
 アルコール性肝炎..... 16
 アルツハイマー病... 17, 18
 アレルギー..... 14
 アレルギー性疾患... 17, 36
 アレルギー反応..... 11
 安全・安楽... 7, 40, 42, 48
 安全確保 40, 61
 安全管理24, 26, 30, 40, 58,
 62, 63, 64
 安全教育 45
 安全保障 65
 電法 7, 27

い

胃 12
 イオンチャネル型受容体... 9
 胃潰瘍 16, 34
 異化作用 12
 胃癌 16, 34
 生きがい 40
 育児 19, 51
 育児技術 44, 45, 52
 育児休業 54
 育児休業、介護休業等育児又
 は家族介護を行う労働者の
 福祉に関する法律<育児・
 介護休業法>..... 19
 育児準備 51, 52
 育児相談 46
 意識障害 5
 意識レベル..... 6, 29, 47
 意思決定 30, 40
 意思決定支援... 32, 60, 63
 医師法 24
 いじめの防止..... 45
 萎縮 14
 萎縮性膀胱..... 50
 衣生活 1, 27, 41
 異性への関心..... 3, 45

胃切除術 34
 移送 7
 依存症対策 21
 痛み 27, 46
 一次救命処置 28, 47
 逸脱行動 45
 一般廃棄物 23
 遺伝 4
 遺伝子 9
 遺伝子異常 14
 遺伝情報 9
 移動 7, 41, 61
 移動機能障害 37
 移動補助用具 61
 医薬品の取り扱い 24
 医療安全 26, 64
 医療安全対策 7
 医療安全文化の醸成 64
 医療・看護の質 64
 医療・看護の標準化 64
 医療・看護必要度 64
 医療機器の取り扱い 24
 医療計画 24, 64
 医療事故・インシデントレポー
 ト 64
 医療情報 26, 64
 医療情報システム 64
 医療体制 65
 医療提供施設の機能 24
 医療的ケア 48
 医療の倫理原則 25
 医療費助成制度 31
 医療法 24
 医療保険制度 1, 20, 39
 医療面接 15, 26
 イレウス 16
 胃瘻 63
 陰茎 13
 飲酒対策 23
 飲酒の防止 45
 インスリン補充療法 35
 インターフェロン療法 ... 34
 インタビュー 26
 咽頭 11

咽頭炎..... 16
 咽頭癌..... 16, 34
 咽頭腫瘍 34
 咽頭摘出術 34
 院内感染 15, 22
 インフォーマルサービス . 63
 インフォーマルサポート . 19
 インフォームド・アセント 46
 インフォームド・コンセント
 2
 陰部洗浄 7

う

ウイルス 14
 ウイルス性肝炎 15
 植込み型除細動器 33
 ウェルネス 1, 50
 う歯 16, 45
 うつ病 18, 42
 運動 1, 7, 23, 45
 運動器系 4, 10, 40, 44, 52
 運動機能 6, 18
 運動機能障害 36, 37
 運動系 4
 運動能力の発達 3
 運動麻痺 5
 運動療法 15, 35

え

栄養1, 3, 12, 16, 23, 42, 44,
 45, 50, 61
 栄養剤 63
 栄養士 59
 栄養士法 24
 栄養所要量 12
 栄養代謝機能障害 34
 栄養と代謝 4
 栄養評価 63
 栄養法 52
 栄養補給 7
 栄養を補う食品 61
 会陰 13
 疫学的因果関係の推定 ... 22
 液性免疫 11

- 壊死 14
 エックス線撮影 28
 エネルギー代謝 12
 嚥下 11, 61
 嚥下障害 27, 33, 42
 嚥下能力 41
 炎症 14
 炎症性疾患
 15, 16, 18, 33, 34
 援助関係 25, 56
 延髄 9
 エンド・オブ・ライフ・ケア
 32, 42
 エンパワメント2, 40, 50, 56
- お**
- 横隔膜の疾患 16
 横隔膜ヘルニア 16
 嘔吐 5, 47
 黄疸 5
 悪心 5
 オゾン層 22
 親からの自立 3
 親子 19
 親子関係 3, 44, 45
 親性 50
 温電法 7
- か**
- 外陰炎 50
 外陰部 13
 外殻温度 12
 外観 53
 開胸手術 30
 介護サービス 20
 介護サービス事業所 63
 介護者 43, 60
 介護の必要度と生活の場 39
 介護への適応のための援助 43
 介護保険施設 3, 43, 63
 介護保険制度 2, 41
 介護保険法 61
 介護用品 43
 介護予防 20, 41
- 外耳 10
 概日リズム 9, 57
 外傷の応急処置 29
 外性器 53
 疥癬 18
 咳嗽 5
 回腸 12
 開頭手術 30
 開頭術 36
 開発途上国援助 65
 回復過程 14
 回復期 41, 62
 開腹手術 30
 潰瘍性疾患 16, 34
 潰瘍性大腸炎 16, 34
 外来看護 60
 外来通院中の在宅療養者 62
 家屋環境 60
 化学療法 31, 62
 過活動膀胱 18
 過強陣痛 51
 核 9
 核医学 28
 核酸の代謝 12
 学習 3, 45
 学習支援 26, 48
 核心温度 12
 覚醒剤 18
 喀痰 5, 28
 拡張型心筋症 16
 学童期 3, 45
 獲得体験 39
 学問としての看護 25
 隔離 46, 58
 下肢静脈血栓 30
 下肢静脈瘤 16
 下肢動脈閉塞症 33
 下垂体 13
 下垂体機能障害 35
 下垂体疾患 17
 下垂体腫瘍 17, 35
 ガス交換 11
 画像検査 15
 家族 ... 19, 46, 51, 52, 60
- 家族関係 3, 45, 48, 60
 家族観の多様化 19
 家族ケア 32
 家族計画 49
 家族形態 1, 3, 29
 家族構成員 3
 家族構成とニーズの変化 39
 家族システム 43, 57
 家族との調整 4
 家族の介護力 60
 家族の機能 3, 19
 家族の対処力 57
 家族の多様性 3
 家族の発達・機能 50
 家族の悲嘆へのケア 32
 家族への教育的介入と支援 57
 家族への支援とサポートシス
 テム 42
 家族を中心としたケア ... 50
 価値観の尊重 60
 咯血 5
 学校 3, 45
 学校環境衛生 23
 学校感染症 45
 学校保健 23
 学校保健安全法 23
 活動 50, 52, 56
 活動制限 46
 活動と運動 1, 27
 活動と休息7, 41, 50, 52, 56
 合併症 62, 63
 家庭用品 23
 カフェイン 50
 下部消化管腫瘍 34
 下部消化管の疾患 16
 花粉症 17
 加齢 39, 40, 42
 加齢と老化 39
 加齢に伴う身体機能の変化 40
 加齢に伴う心理・社会的変化
 40
 加齢に伴う認知機能の変化 40
 加齢に伴う薬物動態の変化 42

加齢による検査結果への影響 42
 加齢への適応 39
 がん 5
 肝炎 16, 34
 感覚過敏 5
 感覚器系 4, 10, 40, 44, 52
 感覚機能障害 36
 感覚器系の疾患 18
 感覚受容 10
 感覚と運動の伝導路 9
 感覚鈍麻 5
 肝癌 16, 34
 がん患者の抱える苦痛 31
 がん患者の生活上の困難 31
 換気 11
 換気障害 32
 肝機能障害 34
 眼球 10
 眼球運動 10
 環境整備 61
 肝硬変 16, 34
 看護活動の場 3
 看護過程 6, 26
 看護行政 64
 看護業務管理 64
 看護業務基準 64
 看護師等の人材確保の促進に
 関する法律 2, 24
 看護師等の届出制度 64
 看護情報管理 26
 看護師等の確保 64
 看護師等の役割 2
 看護政策 64
 看護制度 64
 看護組織 64
 看護提供システム 64
 看護手順 64
 看護における倫理 2, 25
 看護に関わる基本的法律 2
 看護の機能 4
 看護の継続性 25
 看護の交代勤務 64
 看護の専門性 64

看護の対象 25
 看護の変遷 25
 看護の本質 25
 看護マネジメント 64
 間質性肺炎 15
 患者－家族関係 57
 患者－看護師関係 56
 患者誤認の防止 7
 患者と家族 3
 患者の意思 2
 患者の権利 2
 患者の権利と擁護 25
 冠循環 10
 肝生検 34
 関節 10
 関節炎 18
 関節可動域検査 37
 肝切除術 34
 関節の疾患 18
 関節リウマチ 17, 37
 感染拡大の防止の対応 26
 感染経路別予防策 26
 感染症5, 17, 22, 30, 36, 42,
 51, 62
 感染症対策 46
 感染性心内膜炎 16
 感染性廃棄物の取り扱い 7,
 26
 感染防御 22
 感染防止対策 7, 26
 感染予防 45, 53
 感染予防対策 60
 肝臓 12
 肝臓の疾患 16
 がん対策基本法 23
 浣腸 6
 眼底検査 36
 眼底光凝固療法 36
 肝動脈塞栓術 34
 冠動脈バイパス術 33
 眼内レンズ挿入術 36
 間脳疾患 17
 肝底療法 34
 顔面 53

顔面神経麻痺 18
 緩和ケア 32, 48

き

記憶力 40
 気管 11
 気管支 11
 気管支炎 15, 33
 気管支鏡検査 32
 気管支喘息 15, 33
 気管内吸引 8, 28
 危機 55
 危機介入 55
 危機的状態への精神的支援 29
 気胸 15
 企業 3
 帰国日本人 65
 器質性精神障害 18, 56
 基礎代謝 3, 12
 喫煙 1, 50
 喫煙対策 23
 喫煙の防止 45
 吃逆 16
 拮抗ホルモン 12
 気道 11
 気道浄化 62
 気道の開通 53
 気道の確保 8
 機能訓練 30
 機能性疾患 17
 ギプス固定 37
 気分＜感情＞障害 5, 18, 56
 基本技術 6, 26
 基本的人権 2, 25
 基本的生活習慣の確立 3, 45
 基本的欲求 2
 虐待 47
 虐待の防止 60
 虐待防止に関する法律 49
 逆流性食道炎 16
 キャリア開発 64
 吸引 47
 嗅覚 10
 嗅覚障害 18, 36

- 救急救命処置..... 47
 吸収 12, 15
 吸収機能障害..... 33
 吸収能力 61
 嗅上皮 10
 急性胃炎 16
 急性冠症候群..... 16
 急性期 . 29, 41, 42, 47, 62
 急性期持続血液濾過透析.. 35
 急性症状の応急処置..... 29
 急性心不全..... 16
 急性腎不全..... 35
 急性増悪 62
 休息 1, 23, 27, 50, 52, 56
 休息と睡眠..... 1, 27
 吸入による薬物療法..... 32
 給付 1, 2
 救命救急処置..... 8, 28
 橋 9
 教育 19
 胸管 10
 胸腔穿刺 32
 胸腔ドレナージ..... 32
 胸骨圧迫 8
 鏡視（内視鏡）下の手術.. 30
 狭心症 16
 狭心症治療薬..... 6
 強心薬 6
 行政との連携..... 57, 63
 胸腺 11
 きょうだい..... 46
 胸痛 5
 協働関係 25
 共同生活援助..... 58
 共同生活介護..... 58
 胸膜炎 15, 33
 胸膜腔 11
 業務従事者届..... 2
 共有スペース..... 7
 虚血性心疾患..... 16, 33
 居住環境 31, 62
 居住スペース..... 7
 巨赤芽球性貧血..... 17
 居宅介護 58
 居宅介護支援事業所 63
 居宅サービス 43
 ギラン・バレー症候群 18, 36
 起立性低血圧 16
 記録方式 6
 筋萎縮性側索硬化症 . 17, 36
 緊急手術 48
 緊急性 62
 緊急度 29
 緊急度の把握 46
 近視 45
 筋ジストロフィー 18
 筋収縮 10
 筋生検 37
 筋組織 9
 緊張 46
 筋肉の疾患 18
- く
- 空腸 12
 苦痛緩和 32, 42
 寛ぎ・安心・安全 41
 くも膜下出血 17
 クライシス 55
 グリーフケア ... 27, 42, 62
 クリティカル・シンキング 25
 クリニカルパス 63, 64
 グループダイナミクス ... 19
 グループホーム 58
 グローバル化 65
 クロウン病 16, 34
- け
- ケアの継続性 63
 ケアホーム 58
 ケアマネジメント 20, 58, 63
 計画手術 48
 計画立案 6
 経管栄養 47
 経管・経腸栄養法 7, 27, 63
 警察との連携 60
 計算力 40
 経静脈栄養法 ... 7, 27, 34
 継続看護 28, 64
 継続教育 64
 継続的な支援体制 30
 形態の成長 44
 形態の発達 3
 経膈超音波検査 37
 経腸栄養法 7, 34
 経皮的冠動脈形成術 33
 経皮的動脈血酸素飽和度の測定 28
 経鼻内視鏡検査 36
 けいれん 5, 47
 ケースマネジメント 63
 下血 5
 下剤 6
 血圧 10
 血圧異常 16
 血圧調節 10
 血液 4, 11, 28
 血液悪性疾患 36
 血液学検査 5
 血液型 11
 血液凝固 11
 血液循環 10
 血液生化学検査 5
 血液製剤 24
 血液・造血系 40
 血液透析 35
 血液の疾患 17
 結核 22
 血管系 10, 16
 血管性認知症 17, 18
 血管造影 33
 血管内治療 36
 血管バイパス術 36
 月経 49
 月経異常 18, 38, 49
 月経随伴症状 49
 血栓除去術 33
 血栓性血小板減少性紫斑病 17
 血栓溶解療法 33
 結腸 12
 結腸癌 16, 34
 血糖自己測定 35
 血糖測定 28

- 血糖調節機能障害..... 34
 血流分布異常性ショック.. 16
 ゲノム 9
 下痢 5, 16, 42, 47
 牽引法 37
 減感作療法..... 35
 言語 44
 健康格差 65
 健康課題 ... 29, 44, 49, 50
 健康管理 23
 健康教育 14, 23
 健康寿命 22
 健康診査 14, 23, 46
 健康診断 14, 19, 23
 健康増進法..... 23
 健康相談 23
 健康に影響する要因..... 1
 健康日本21..... 23
 健康の維持..... 41
 健康の諸相..... 25
 健康のとらえ方..... 25
 健康の保持増進..... 40
 健康被害 15
 健康被害と母集団..... 22
 健康への影響要因..... 25
 健康保険法..... 61
 健康目標 65
 健康問題 23, 29
 言語機能障害..... 36
 言語聴覚士法..... 24
 言語的コミュニケーション. 6
 言語の発達..... 3
 減数分裂 9
 検体検査 15, 28
 権利擁護 2, 40, 58, 60, 62
- こ
- 誤飲物質 47
 降圧薬 6
 抗アレルギー薬..... 6
 高カリウム血症..... 17
 抗感染症薬..... 6
 抗癌薬 6
 口腔 11
 口腔、咽頭の疾患 16
 口腔ケア 7, 61
 口腔腫瘍 34
 口腔内吸引 8, 28
 攻撃的行動 58
 抗血栓薬 6
 抗原 11
 高次脳機能障害 36
 公衆衛生 22
 恒常性維持機構 9
 甲状腺 13
 甲状腺炎 17
 甲状腺癌 17, 35
 甲状腺機能亢進症 ... 17, 35
 甲状腺機能障害 35
 甲状腺機能低下症 ... 17, 35
 甲状腺疾患 17, 35
 甲状腺切除術 35
 甲状腺ホルモン療法 35
 公正 2
 更生相談所 20
 酵素 12
 抗体 11
 高体温 5
 後天性免疫不全症候群 ... 22
 喉頭 11
 喉頭癌 34
 行動症候群 18, 56
 行動制限 58
 喉頭摘出術 34
 行動の異常 18
 校内暴力の防止 45
 高尿酸血症 17, 34
 公認心理師 59
 更年期障害 18, 38
 更年期症状 50
 更年期女性 50
 高年妊娠 51
 公費医療制度 20
 抗ヒト免疫不全ウイルス療法
 35
 高ビリルビン血症 53
 抗不整脈薬 6
 肛門 12
 抗利尿ホルモン 12
 高齢者医療確保法 20
 高齢者医療制度 1, 20
 高齢者虐待の防止 40
 高齢者虐待の防止、高齢者の
 養護者に対する支援等に関
 する法律<高齢者虐待防止
 法> 21
 高齢者差別の防止 40
 高齢者総合機能評価 39
 高齢者の医療の確保に関する
 法律 20
 高齢者のいる家族の変化 . 39
 高齢者の疾患 5
 高齢者の人権に関する制度 39
 高齢者の生活の質の保障 . 39
 向老期の身体的特徴 29
 向老期の心理及び社会的特徴
 29
 誤嚥 6, 7, 60
 呼吸 11, 28, 56
 呼吸運動 11
 呼吸運動障害 32
 呼吸音聴取 6
 呼吸管理 8
 呼吸器合併症 30
 呼吸器系 4, 11, 15, 40, 44,
 52
 呼吸機能 15
 呼吸機能検査 32
 呼吸機能障害 32
 呼吸器の疾患 15
 呼吸窮迫症候群 53
 呼吸筋 11
 呼吸困難 5, 47
 国際化 66
 国際機関 65
 国際協力活動 65
 国際社会 65
 国際生活機能分類 ... 39, 57
 国際保健 65
 国勢調査 22
 国民医療費 1, 20
 国民皆年金 20

国民皆保険..... 1, 20
 国民健康保険..... 20
 国民の価値観..... 60
 こころの健康対策..... 23
 鼓室形成術..... 36
 個人情報の保護..... 2
 個人情報の保護と管理 60, 64
 個人精神療法..... 57
 個人の尊厳..... 2, 25
 子育て支援..... 54
 骨..... 10
 骨・骨髄炎..... 18
 骨格..... 10
 骨格筋..... 10
 骨髄異形成症候群..... 17
 骨髄機能障害..... 35
 骨髄穿刺..... 35, 47
 骨折..... 18, 42
 骨粗鬆症..... 18, 42, 50
 骨肉腫..... 18
 骨の種類..... 10
 骨盤臓器脱..... 50
 子ども・子育て支援事業.. 54
 子どもの意識レベル..... 47
 子どもの虐待予防..... 44
 子どもの権利..... 44
 子どもの死を看取る家族.. 48
 子どもの成長..... 44
 子どもの発達..... 46
 個別指導の特性と適用... 26
 コミュニケーション6, 26, 41,
 44
 コミュニケーション能力.. 41
 コミュニケーション方法.. 42
 コミュニティ・グループ.. 19
 誤薬..... 26
 誤薬の防止..... 7
 雇用..... 40
 雇用形態..... 1, 19
 雇用保険..... 20
 婚姻..... 1, 19
 根拠に基づいた看護..... 25
 コンフォート理論..... 40
 混乱..... 42

さ

サーカディアンリズム 9, 57
 サービス付き高齢者向け住宅
 63
 サービスの統合..... 63
 災害..... 66
 災害医療..... 65
 災害各期(超急性期・急性期・
 慢性期・静穏期)..... 65
 災害看護..... 65
 災害時の地域における精神保
 健医療活動..... 55
 災害時の母子支援..... 54
 在外日本人..... 65
 細菌..... 14
 採血..... 7, 47
 採血方法..... 7
 再生医療..... 15
 在宅医療..... 24, 60
 在宅看護..... 60
 在宅サービスの実施機関. 20
 在宅療養継続のための療養者
 の健康危機管理..... 62
 在宅療養者の権利擁護... 60
 サイトカイン..... 11
 採尿..... 47
 再発や経過の不確かさに伴う
 心理的苦痛..... 31
 細胞..... 9
 細胞外液..... 9
 細胞骨格..... 9
 細胞質..... 9
 細胞性免疫..... 11
 細胞小器官..... 9
 細胞分裂..... 9
 細胞膜..... 9
 在留外国人..... 65
 在留外国人の母子支援... 54
 作業環境..... 23
 作業機能障害..... 37
 作業療法士..... 59
 サクセスフルエイジング. 39
 差別..... 55
 控滅症候群..... 16

酸塩基平衡..... 11
 酸塩基平衡調節機能障害. 34
 酸塩基平衡の異常..... 17
 産業廃棄物..... 23
 産後休業..... 54
 産後精神障害..... 52
 産褥..... 13
 産褥期..... 50, 51, 52
 産褥熱..... 52
 産褥の経過..... 4, 51
 産褥復古..... 52
 産前休業..... 54
 酸素化障害..... 32
 酸素吸入..... 28
 酸素ボンベ..... 8
 酸素マスク..... 8
 酸素流量計..... 8
 酸素療法..... 32, 47, 62
 酸素療法の原則..... 8
 残存機能..... 63
 三大栄養素..... 12
 産痛..... 51
 産痛の緩和..... 51
 産道..... 51
 残尿測定..... 37
 産婦..... 51

し

死因..... 1, 22
 シェーグレン症候群..... 17
 ジェンダー..... 49
 支援体制..... 65
 自我..... 55
 歯科医師..... 59
 歯科医師法..... 24
 視覚..... 10
 視覚障害..... 18, 36, 42
 視覚の伝導路..... 10
 色覚..... 10
 子宮..... 13
 子宮筋腫..... 18, 38, 49
 子宮頸癌..... 18, 38
 子宮体癌..... 18, 38
 糸球体濾過..... 12

- 子宮底の測定..... 50
 子宮内膜症..... 18, 38, 49
 子宮復古 52
 子宮復古不全..... 52
 刺激 10
 刺激伝導系..... 10
 刺激伝導障害..... 33
 止血機構 11
 止血法 8, 28
 思考 44
 嗜好性 41
 嗜好品 1, 50
 自己管理 30
 自己決定 49, 58
 自己決定権..... 2
 事故防止 44, 45, 53
 自己免疫疾患..... 17, 36
 自己モニタリング..... 30
 自殺 45, 58
 自殺企図 58
 自殺防止対策..... 23
 自殺の防止..... 45
 死産 22, 49, 52
 四肢 53
 四肢切断後..... 37
 支持組織 9
 脂質異常症..... 17, 34
 歯周病 16
 思春期 3, 45, 49
 思春期女性..... 49
 視床 9
 視床下部 9, 13
 自傷行為 58
 自助具の活用..... 31
 視診 15, 26
 児心音聴取..... 50
 姿勢機能障害..... 37
 姿勢反射 9
 姿勢保持 41
 次世代育成支援..... 21
 自然災害 65
 自然な排泄が困難な人への援助 27
 市町村 3, 23, 57, 60
 膝関節鏡 37
 失禁のケア 6
 実施 6
 湿疹 18
 疾病の受容 2
 疾病の要因 14
 質保証 61, 64
 児童委員 21
 児童虐待の防止等に関する法律 21
 児童相談所 20
 自動体外式除細動器 8
 児童福祉法 21
 死に対する子どもの反応 48
 刺入部位 7
 死の三徴候 4
 死の受容 4
 死亡 1, 22
 脂肪肝 16
 死亡後のケア 27
 脂肪の代謝 12
 死亡判定 4
 視野 10
 社会化 45
 社会環境 1
 社会参加 ... 31, 41, 57, 60
 社会資源 44, 57, 58
 社会資源の活用・調整31, 48, 57, 61, 62, 63
 社会性 3, 44
 社会的支援の獲得への看護31
 社会的責任 3
 社会的特徴 29
 社会的偏見や制約に伴う苦痛 31
 社会的欲求 2
 社会福祉 20, 21
 社会福祉協議会 21
 社会福祉士及び介護福祉士法 24
 社会福祉施設 20
 社会復帰 57
 社会・文化的存在 25
 社会保険 20
 社会保険制度 20
 社会保障 1
 社会保障給付費 20
 社会保障制度 20
 若年妊娠 51
 縦隔 11
 集学的治療 31
 習慣および衝動の障害 ... 56
 住環境 1, 23
 就業構造 19
 周産期医療 54
 周産期医療ネットワーク . 54
 周産期死亡 22, 49
 収縮性心膜炎 16
 周手術期 48
 重症筋無力症 18, 36
 重症心身障害児 48
 重症度 29, 47, 62, 64
 住宅環境 40
 集団指導の特性と適用 ... 26
 集団精神療法 57
 集団の機能 19
 集団力動 57
 重度訪問介護 58
 十二指腸 12
 十二指腸潰瘍 16, 34
 収入 40
 終末期 32, 39, 48, 62
 終末期緩和ケア 62
 就労 40
 就労移行支援 58
 就労継続支援 58
 手術後ドレナージ 34
 手術体位 30
 手術療法 30, 31, 41
 受精 13, 49
 受胎調節 49
 手段の日常生活動作 . 39, 61
 出血性疾患 17
 出血性ショック 16
 術後合併症 30
 術後合併症と予防 30
 術後の看護 30
 術後出血 30

- 術後の機能障害と生活制限 30
 術後の疼痛管理..... 30
 出産 51
 出生 1, 19, 22, 49
 出生前診断..... 49, 51
 術前オリエンテーション.. 30
 術前からの看護..... 30
 術前準備 48
 術中の看護..... 30
 授乳 44
 守秘義務 2
 腫瘍14, 15, 16, 17, 18, 34,
 33, 35, 37, 38
 受療行動 1
 受療状況 1, 19
 受療率 1
 循環 9, 28
 循環器疾患の予防..... 23
 循環機能 16
 循環機能障害..... 33
 循環器系 4, 10, 40, 44, 52
 循環障害 14
 除圧 63
 昇圧薬 6
 常位胎盤早期剝離..... 51
 消炎鎮痛薬..... 6
 消化 12, 16, 33, 61
 障害高齢者の日常生活自立度
 判定基準..... 39
 障害者基本計画..... 21
 障害者基本法..... 21
 障害者虐待の防止、障害者の
 養護者に対する支援等に関
 する法律<障害者虐待防止
 法> 21
 障害者（児） 21
 障害者の雇用の促進等に関す
 る法律<障害者雇用促進
 法> 21
 障害者の日常生活及び社会生
 活を総合的に支援するた
 めの法律<障害者総合支援
 法> 21, 61
 障害に対する受容と適応.. 31
 障害の受容 2
 障害を理由とする差別の解消
 の推進に関する法律<障害
 者差別解消法> 21
 消化管運動 12
 消化管機能障害 33
 消化管造影 33
 消化管反射 12
 消化管ホルモン 12
 消化器系 4, 11, 40, 44, 52
 消化機能障害 33
 消化性潰瘍治療薬 6
 松果体 13
 少子化 19
 少子化対策 21
 少子高齢化 19
 上室性頻脈性不整脈 16
 症状マネジメント 62
 小線源治療 36
 小泉門 44
 情緒 39, 44
 情緒的变化 45
 消毒 7, 26
 小児医療 44
 小児看護 44
 小児期に発症する行動・情緒
 の障害 56
 小児の在宅療養者 62
 小児の疾患 5
 小児の精神・心身医学的疾患
 18
 小児慢性特定疾患治療研究事
 業 48
 小脳 9, 36
 上皮小体 13, 17
 上皮組織 9
 上部消化管腫瘍 34
 上部消化管内視鏡 33
 上部消化管の疾患 16
 情報管理 2, 26
 情報公開 20, 24
 消防署との連携 60
 情報伝達 7
 情報の公開 64
 情報のマネジメント 64
 静脈 10
 静脈性尿路造影 35
 将来推計人口 1
 ショートステイ 58
 諸外国の看護制度 65
 食育 45
 職業性疾患の発症要因 ... 29
 職業としての看護 25
 職業病の予防 23
 食細胞 11
 食事 . 1, 6, 27, 50, 52, 61
 食事介助 6
 食事摂取基準 27
 食事摂取能力 61
 食事内容 61
 食事療法 15, 35
 触診 15, 26
 食生活 . 27, 41, 45, 51, 52
 食生活の乱れ 45
 褥瘡管理 63
 褥瘡の予防・処置 8
 褥瘡の予防と治癒の促進 . 28
 食中毒 23
 食道 11
 食道癌 16, 34
 食道静脈瘤内視鏡治療 ... 34
 食道切除術 34
 食品安全確保対策 23
 食品衛生 1
 食品衛生管理制度 23
 褥婦 51, 52
 職務 64
 食物の摂取 56
 初経 49
 助産所 3, 24
 女性生殖器 . 18, 37, 38, 49
 女性の就労に関する法律 . 49
 女性の生殖器系 13
 女性不妊症 49
 女性の労働 19
 女性を中心としたケア ... 50
 触覚障害 36
 ショック 5, 16, 29

徐脈性不整脈..... 16
 自立支援 39, 61
 自立支援医療..... 58
 自立・自律支援..... 60
 自律神経 9
 自律神経失調症..... 18
 自律尊重 2
 視力 10
 シリンジポンプ..... 7
 痔瘻 16
 寝衣交換 7
 腎移植 35
 人為的災害..... 65
 腎盂腎炎 18
 腎炎 18
 新型インフルエンザ..... 22
 腎癌 18, 37
 心機能 10
 真菌 14
 心筋炎 16
 心筋症 16
 神経学的状態..... 53
 神経機能障害..... 36
 神経系 ... 4, 9, 40, 44, 52
 神経膠細胞..... 9
 神経細胞 9
 神経症性障害..... 18, 56
 神経筋接合部の疾患..... 18
 神経組織 9
 神経伝達物質..... 57
 心血管超音波..... 33
 腎結石 18, 37
 人権 20
 心原性ショック..... 16
 人工関節置換術..... 37
 人口構造 19
 人工肛門造設術..... 34
 人工呼吸 8
 人工呼吸器..... 62
 人工呼吸療法..... 62
 人口静態 22
 人工臓器 15
 人工透析 15
 人工妊娠中絶..... 49

心室性頻脈性不整脈 16
 心室中隔欠損症 16
 人獣共通感染症 22
 侵襲的陽圧換気 32
 浸潤による身体的・心理的苦
 痛 31
 心身障害 48
 心身相関 55
 心身の疾患 18
 腎生検 35
 新生児一過性多呼吸 53
 新生児ビタミンK欠乏症 . 53
 新生児期 ... 3, 44, 50, 52
 新生児搬送 54
 新生児訪問指導 54
 心臓 10, 16
 腎臓 12, 13
 心臓カテーテル 33
 身体計測 47
 身体拘束 40, 58
 身体障害者福祉法 21
 身体障害者福祉法に基づく社
 会資源の活用 31
 身体診察 15, 26
 身体的影響 46
 身体的機能 3
 身体的ケア 32
 身体的特徴 29, 51
 身体的要因に関連した精神障
 害 18
 身体の発育 3
 身体発育の評価 44
 身体表現性障害 56
 身体防御機能の障害 35
 心タンポナーデ 16
 陣痛 51
 陣痛異常 51
 心的外傷後ストレス障害 . 18
 心電図 28, 33
 浸透圧調節 11
 心肺停止状態への処置 ... 29
 深部感覚 10
 深部静脈血栓症 16
 心不全 16, 32, 33

腎不全..... 18
 心房中隔欠損症 16
 蕁麻疹..... 17
 信賴関係 25, 56
 心理教育的アプローチ ... 57
 心理検査 56
 心理・社会的 3, 14, 51, 52
 心理・社会的発達 44
 心理・社会的変化 ... 3, 50
 心理社会的療法 57
 心理・精神機能検査 15
 心理的特徴 29
 心理的発達 56
 診療記録 24
 診療記録等の電子化 64
 診療所 3
 診療情報等の開示 64
 診療放射線技師法 24
 診療報酬制度 20, 64

す

髄液検査 36
 腭液分泌障害 33
 腭炎 16, 34
 腭癌 16
 遂行力 40
 水質 1
 水質汚染 22
 髄質疾患 17
 腭切除術 34
 腭臓 12
 腭臓の疾患 16
 腭島 13
 水分の摂取 56
 髄膜 9
 髄膜炎 17, 36
 睡眠 1, 7, 9, 27
 睡眠時無呼吸症候群 18
 睡眠障害 5, 42, 57
 頭蓋内圧亢進症 17
 スキンテスト 35
 スタンダードプリコーション
 7, 26
 頭痛 5

- スティグマ..... 55
ステロイド療法..... 35
ストーマケア..... 61
ストレス1, 14, 46, 47, 55, 57
ストレス関連疾患..... 29
ストレス関連障害.... 18, 56
ストレス脆弱性仮説..... 57
ストレス対処行動..... 46
ストレス対処方法..... 29
ストレングス..... 56
ストレングスモデル..... 40
スピリチュアリティ..... 39
スピリチュアルな苦痛.... 31
スポーツ外傷..... 45
- せ**
- 性..... 41, 49
性意識..... 45, 49
生活介護..... 58
生活環境..... 1
生活機能..... 41, 62
生活技能訓練..... 57
生活訓練..... 58
生活行動..... 1
生活習慣... 14, 25, 29, 39
生活習慣に関連する健康課題..... 29
生活習慣病..... 5, 23, 45
生活習慣病の要因..... 29
生活の場..... 39, 43, 60
生活への影響32, 33, 34, 35, 36, 37, 42, 43
生活保護..... 21
生活様式..... 29, 39
生活リズム..... 39, 41, 45
生活を営む存在..... 25
精管..... 13
性感感染症..... 49
正義..... 2
生計..... 40
清潔7, 40, 50, 52, 53, 56, 61
清潔と衣生活..... 1, 27
性交障害治療..... 37
性行動..... 1, 49
生歯..... 44
精子..... 13
清拭..... 7
誠実..... 2
性周期..... 13, 49
成熟期女性..... 49
成熟度..... 53
生殖器系... 4, 13, 18, 40
生殖機能..... 3
生殖機能障害..... 18, 38
生殖器の疾患... 18, 38, 49
生殖器の変化..... 51
生殖補助医療..... 49
精神医療審査会..... 58
精神科デイケア..... 57
精神科ナイトケア..... 57
精神科訪問看護..... 57
成人期..... 3, 29
精神作用物質..... 18, 56
精神疾患5, 55, 56, 57, 58, 62
精神障害者(児)..... 23
精神障害者保健福祉手帳... 58
精神障害の一次予防..... 55
精神障害の二次予防..... 55
精神障害の三次予防..... 55
精神遅滞..... 56
精神的苦痛..... 42
精神的ケア..... 32
精神と情緒..... 55
精神の異常..... 18
精神の健康..... 55
精神の疾患..... 18
成人の人格・行動障害... 18
精神保健..... 23, 55
精神保健医療福祉23, 55, 58
精神保健及び精神障害者福祉に関する法律..... 21, 58
精神保健指定医..... 58
精神保健福祉士..... 59
精神保健福祉士法..... 24
精神保健福祉センター... 57
精神保健福祉相談員..... 59
精神保健福祉法..... 21, 58
精神力動..... 55
精神療法..... 15
性生活..... 50
性腺..... 13
精巣..... 13
精巣上体..... 13
生体機能検査..... 15
生体機能のモニタリング... 28
生体検査..... 28
生体の防御機能..... 52
生体反応..... 30
生体リズム..... 9
成長... 13, 25, 45, 46, 62
成長・発達する存在..... 25
性同一性障害..... 49, 56
性と生殖器系..... 4
青年期に発症する行動・情緒の障害..... 56
青年期の身体的特徴..... 29
青年期の心理及び社会的特徴..... 29
青年期の精神・心身医学的疾患..... 18
成年後見制度..... 60
精囊..... 13
性の疾患..... 18
性の多様性..... 49
性反応..... 49
政府開発援助..... 65
性分化疾患..... 49
性分化のメカニズム..... 49
性暴力..... 49
生命維持活動調節機能障害36
生命の危機的状況..... 28
生命への影響32, 33, 34, 35, 36, 37
整容..... 7
生理的黄疸..... 53
生理的障害..... 18, 56
生理的体重減少..... 53
生理的老化..... 39
精路..... 13

セーフティマネジメント. 24,
26, 30, 40, 58
世界人権宣言..... 25
世界保健機関..... 1
脊髄 9
脊髄神経 9
脊髄造影 37
脊髄損傷 17, 36
セクシュアリティ 41, 45, 49
世帯 19
世帯数 1
舌癌 16, 34
セックス 49
摂食障害 18, 42
接触皮膚炎..... 17
切創の防止..... 7
説明責任 2
セルフケア 25, 30, 45, 48, 50,
51, 52, 56, 60
セルフケア能力..... 30
セルフヘルプグループ..... 58
セルフマネジメント力..... 61
線維素溶解..... 11
前期破水 51
善行 2
穿刺部位 7
洗浄 28
染色体 9
全身性エリテマトーデス.. 17
全体<whole>としての人間
..... 25
前置胎盤 51
先天異常 14, 48
先天異常の新生児..... 53
先天性疾患..... 48
先天性心疾患..... 16
穿頭術 36
洗髪 7
せん妄 18, 42
専門看護師..... 64
前立腺 13
前立腺炎 18, 38
前立腺癌 18, 38
前立腺切除術..... 37

前立腺肥大 18, 37, 38

そ

造影MRI 33
造影CT 33
臓器移植 15
早期新生児 52, 53
早期新生児期 50, 52
早期発見 14, 23, 47, 61, 62
臓器不全 14
双極性障害 18
造血 11
造血因子 11
造血幹細胞移植 35
造血器の疾患 17
早産 51
早産児 53
喪失体験 39
創傷管理 8, 28, 30
創傷と治癒 14
総人口 1
総人口の減少 19
壮年期の身体的特徴 29
壮年期の心理・社会的特徴 29
僧帽弁疾患 16
ソーシャルサポート . 57, 58
ソーシャルサポートネット
ワーク 19
鼠径ヘルニア 16
組織経営 64
組織適合性抗原 11
咀嚼 11
咀嚼・障害 33
措置制度 20
尊厳保持 62
損傷 14

た

体位 7
体位ドレナージ 8
体位変換 7, 63
退院支援 43
退院支援部門 63
退院調整 4, 30, 31, 64

体液 4, 11
体液調節の疾患 17
体液量 12
体液量調節機能障害 34
体温 12
体温管理 8
体温調節 4, 12, 28, 44, 52
体温調節機能障害 34
体温調節中枢 12
体格 45
体幹 53
大気 1
大気汚染 22
胎児 10, 50, 51
胎児期 3
胎児機能不全 51
胎児心拍数図 50
胎児・胎盤の血液循環 ... 10
胎児の発生 13
代謝 12, 15
代謝異常の疾患 17
代謝機能障害 34
代謝系.. 4, 12, 40, 44, 52
代謝調節型受容体 9
体循環 10
帯状疱疹 18
退所支援 43
対人関係 56
体性感覚 10
大泉門 44
大腸癌 34
大腸切除術 34
大腸内視鏡 33
大腸ポリープ 16
大動脈解離 16
大動脈内バルーンパンピング
..... 33
大動脈弁疾患 16
大動脈瘤 16
体内時計 9
第二次性徴 3, 45, 49
大脳 9, 36
胎盤 10
胎便吸引症候群 53

- 大麻精神病..... 18
代理意思決定支援.... 29, 32
体力 3, 45
唾液腺 11
多剤耐性菌..... 14
多重課題 64
多職種との連携..... 48
多職種の連携・協働..... 47
多職種連携..... 31, 59, 64
打診 15, 26
脱臼 18
脱水 5, 17, 47
脱水症 42
脱髄疾患 17
多尿 5
多発性硬化症..... 17
多発性骨髄腫..... 17
多様化したニーズへの対応 63
多様な価値観..... 39
多様な文化..... 65
胆管炎 16
胆管癌 16
短期入所 58
胆汁分泌障害..... 33
炭水化物の代謝..... 12
男性生殖器の疾患.... 18, 38
男性の生殖器系..... 13
男性不妊症..... 49
胆石症 16, 34
胆道ドレナージ..... 34
胆道 12
胆嚢癌 16
胆のうドレナージ..... 34
胆嚢の疾患..... 16
タンパク合成..... 9
蛋白質の代謝..... 12
- ち
- チアノーゼ..... 5
地域医療連携..... 4
地域活動への参加..... 19
地域支援事業..... 2
地域集団 19
地域生活支援事業..... 58
- 地域包括ケアシステム 20, 40,
60, 63, 64
地域包括支援センター 3, 24,
63
地域保健 23
地域保健法 23
地域密着型サービス 43
地域連携クリニカルパス . 63
チームアプローチ 31, 40, 43
チーム医療 4, 54
地球温暖化 22
地球環境 22
蓄尿障害 37
父親役割 50
腔 13
窒息の予防・防止 7, 60
知的障害 56
知的障害者福祉法 21
知能 40
地方分権 20
着床 13, 49
中耳 10
中心静脈栄養法 63
虫垂 12
虫垂炎 16
中枢神経系 9
中枢神経系の疾患 17
中枢神経作用薬 6
忠誠 2
中毒 14, 29
中途視覚障害者 37
中脳 9
中皮腫 15, 33
チューブ・ライントラブル 26
超音波 28
超音波断層法 50
聴覚 10
聴覚障害 18, 36, 42
長期入院高齢者 43
長期入所高齢者 43
超急性期 65
超重症児 48
聴診 15, 26
調整 48, 57, 60
- 調節ホルモン 12
腸蠕動音聴取 6
聴力 10
聴力検査 36
直腸 12
直腸癌 16
直腸診 33
直流除細動器 8
治療継続 42
治療食 27
治療選択への援助 30
治療の必要度と生活の場 . 39
- つ
- 椎間板造影 37
椎間板ヘルニア 18, 37
通所施設 60
痛風 17
強み 56
- て
- 手洗い 7, 26
低栄養 42
帝王切開術 51
帝王切開術後 52
低血糖症 53
低出生体重児 53
低体温 5
低体温症 35
低体温療法 36
低ナトリウム血症 17
適応障害 18
適応する存在 25
適応理論 55
溺水 47
摘便 6
鉄欠乏性貧血 17
転移感情 55
転移による身体的・心理的苦
痛 31
電解質 17
電解質調節機能障害 34
電解質バランス 11
てんかん 17

電気けいれん療法..... 57
 点滴静脈内注射..... 7
 転倒・転落... 7, 26, 41, 60

と

トイレ..... 27
 同化作用..... 12
 同行援護..... 58
 統合失調症..... 18, 56
 統合失調症型障害..... 56
 凍傷の防止..... 60
 道徳性..... 44
 導尿..... 6
 糖尿病..... 17, 23, 62
 糖尿病経口薬..... 35
 糖尿病治療薬..... 6
 頭部..... 53
 頭部外傷..... 17, 36
 糖負荷試験..... 35
 動脈..... 10
 動脈管開存症..... 16
 動脈血液ガス分析..... 32
 動脈硬化症..... 16
 トータル・ヘルスプロモーション..... 23
 特異的生体防御反応..... 11
 特殊災害..... 65
 特定健康診査..... 23
 特定保健指導..... 23
 毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤等の取り扱い..... 24
 吐血..... 5
 閉じこもりの予防..... 60
 徒手筋力テスト..... 37
 土壌..... 1
 土壌汚染..... 22
 独居高齢者の防災..... 60
 突発性難聴..... 37
 トリアージ..... 8, 46, 47
 ドレーン管理..... 30

な

ナースセンター..... 2
 内耳..... 10

内視鏡..... 28
 内視鏡検査..... 15
 内視鏡的逆行性胆管膵管造影..... 33
 内臓感覚..... 10
 内部環境調節機能障害... 34
 内部環境の恒常性..... 4, 9
 内分泌器官..... 13
 内分泌系..... 4, 12, 40
 内分泌・代謝異常..... 14
 内分泌機能障害..... 35
 内分泌系の疾患..... 17
 仲間との関係..... 45
 ナルコレプシー..... 18
 軟骨..... 10
 難聴..... 18
 難病..... 62
 難病の患者に対する医療等に関する法律..... 23

に

ニーズ..... 2, 25, 63
 二次性高血圧..... 16
 二次性貧血..... 17
 日常生活援助技術..... 6
 日常生活活動の低下..... 61
 日常生活動作 31, 39, 61, 62
 日常生活能力..... 40, 62
 日本国憲法第25条..... 20
 入院期間..... 1
 入院相談..... 4
 乳癌..... 18, 37, 38
 乳癌手術..... 37
 乳児..... 49
 乳児期..... 3, 45
 乳児死亡..... 22
 入所施設での看護..... 60
 乳腺炎..... 18, 52
 乳腺機能障害..... 37
 乳腺症..... 18
 乳腺の疾患..... 18
 入退院時の連携..... 63
 入・退院調整..... 64
 乳房..... 13

乳房超音波検査..... 37
 乳房の変化..... 51
 乳幼児健診..... 54
 入浴..... 7
 入浴行動..... 41
 尿..... 12
 尿管..... 12
 尿管癌..... 18
 尿管結石..... 37
 尿検査..... 5
 尿失禁..... 27, 42, 50, 61
 尿失禁、便失禁のある人への援助..... 27
 尿道..... 12
 尿の生成..... 12
 尿流動態検査..... 37
 尿路感染..... 52
 尿路結石..... 18
 妊産婦死亡..... 49
 妊娠..... 13, 50
 妊娠・出産包括支援..... 54
 妊娠期..... 50, 51
 妊娠高血圧症候群..... 51
 妊娠悪阻..... 51
 妊娠糖尿病..... 51
 妊娠の経過..... 50
 妊娠貧血..... 51
 認知..... 44
 認知行動療法..... 57
 認知症..... 17, 42, 62
 認知症高齢者の日常生活自立度判定基準..... 39
 認知能力..... 3
 妊婦..... 50, 51
 妊婦健康診査..... 50, 54

ね

ネクロシス..... 14
 寝たきり度判定基準..... 39
 熱産生..... 12
 熱傷..... 47
 熱傷の応急処置..... 29
 熱傷の予防..... 60
 熱中症の予防..... 60

熱放散 12
 ネブライザー 8
 年金制度 20
 捻挫 18
 粘膜 11
 粘膜生検 35
 年齢別人口 1

の

脳 57
 脳炎 17, 36
 脳機能障害 36
 脳血管障害 17, 36
 脳血管造影 36
 脳梗塞 17
 脳死 4
 脳死状態への対応 32
 脳室 9
 脳室ドレナージ術 36
 脳室-腹腔シャント術 36
 脳腫瘍 17, 36
 脳循環 10
 脳神経 9
 脳脊髄液 9
 脳内出血 17
 脳波検査 36
 ノーマライゼーション2, 20,
 39

は

歯 11
 パーキンソン症候群 42
 パーキンソン病 17
 パースレビュー 52
 パーソナリティ障害 56
 肺 11
 肺炎 15, 62
 肺癌 15, 33
 配偶者からの暴力の防止及び
 被害者の保護等に関する法
 律 21, 49
 肺結核 15
 敗血症 17
 肺高血圧 15

肺循環 10
 肺循環障害 15
 肺生検 32
 排泄1, 6, 15, 18, 27, 41, 50,
 52, 56, 61
 排泄障害 61
 肺切除術 32
 排泄能力 41
 排泄補助用具 61
 肺塞栓症 15, 30
 バイタルサイン 53
 バイタルサインの測定 6, 47
 排痰法 28
 排尿 53
 排尿機能障害 37
 排尿障害 18, 37, 52
 排尿反射 12
 排便 53
 排便障害 16
 廃用症候群7, 14, 30, 31, 40,
 42
 廃用症候群の予防 7, 31, 40
 ハイリスクアプローチ ... 22
 ハイリスク新生児 48
 白内障 18
 播種性血管内凝固 17
 破水 51
 白血球減少症 17
 白血病 17
 発生 13
 発声 11
 発達3, 25, 39, 45, 46, 48, 49,
 50, 55
 発達課題25, 29, 38, 39, 43,
 44
 発達障害 21, 23, 48
 発達障害者支援法 21
 発達理論 44
 発熱 47
 パニック障害 18
 母親役割 50
 バリアフリー 23
 針刺し 7, 26
 針刺し事故 15

晩婚化 19
 晩産化 19
 判断力 40

ひ

ピアサポーター 59
 日帰り手術 48
 鼻腔 11
 鼻腔カニューラ 8
 鼻腔内吸引 8, 28
 非言語的コミュニケーション
 6
 微弱陣痛 51
 非侵襲的換気療法 62
 非侵襲的陽圧換気 32
 脾臓 11
 肥大 14
 肥大型心筋症 16
 ビタミン欠乏症 17
 ビタミンの代謝 12
 非特異的生体防御機構 ... 11
 ヒトの発生のメカニズム . 49
 ヒトパピローマウイルス検査
 37
 ヒト免疫不全ウイルス感染症
 17, 22, 36
 避難所 43
 避難方法 43
 泌尿器系4, 12, 18, 40, 44,
 52
 泌尿器の疾患 18
 皮膚 8, 11, 28, 53
 皮膚色 53
 皮膚管理 28
 皮膚障害 18
 皮膚生検 35
 皮膚粘膜障害 35
 皮膚の障害 42
 被保険者 2, 20
 肥満 34, 45
 肥満症 17
 病院 3
 病院機能評価 64
 評価 6

病期 61
 表在感覚 10
 病室環境 7
 被用者保険 20
 標準化 64
 標準予防策 7, 26
 病床機能報告 64
 病的老化 39
 ビリルビンの代謝 12
 貧血 5, 17
 頻尿 5

ふ

ファロー四徴症 16
 不安 30, 46
 フィードバック 63
 フィードバック機構 12
 不育症 51
 フィジカルアセスメント .. 6, 26
 夫婦 19
 フォーマルサービス 63
 フォーマルサポート 19
 不快症状 50
 不規則抗体 11
 腹圧性尿失禁 18
 腹囲の測定 50
 復学支援 48
 腹腔鏡 34
 腹腔鏡視下手術 34
 複合災害 65
 副甲状腺 13
 副甲状腺疾患 17
 副作用（有害事象） .. 15, 28
 副作用（有害事象）の観察 .. 7
 福祉事務所 20
 福祉避難所 43
 福祉用具 43
 副腎機能障害 35
 副腎髄質 13
 副腎髄質疾患 17
 副腎皮質 13
 副腎皮質疾患 17
 副腎皮質ステロイド薬 6

腹痛 5
 副鼻腔炎 37
 腹部超音波 34, 37
 腹部膨満 5
 腹壁の疾患 16
 腹膜炎 16
 腹膜透析 35
 腹膜の疾患 16
 服薬管理 42
 服薬状況 62
 浮腫 5, 17
 父性 50
 不整脈 5, 16, 33
 物質代謝 12
 不登校 45
 不妊症 49
 部分浴 7
 不眠症 18
 プライバシーの保護 49
 プライマリヘルスケア ... 22
 フレイル 41
 プレパレーション 46
 プロセスレコード 56
 分泌 12
 分布 15
 分娩 13
 分娩期 51
 分娩時異常出血 51
 分娩進行 51
 分娩損傷 52
 分娩の経過 4, 51
 分娩の3要素 51
 分離不安 44

へ

平均寿命 22
 平均余命 1, 22
 閉経 50
 平衡覚 10
 平衡感覚 10
 平衡器官 10
 閉塞性動脈硬化症 ... 16, 33
 ペースメーカー 33

ヘリコバクターピロリ感染症 16
 ヘルスプロモーション 22, 50
 ベル麻痺 18
 変形性関節症 18
 弁形成術 33
 偏見 55
 便失禁 61
 変性 14
 変性疾患 17
 変遷 20, 61
 弁置換術 33
 扁桃炎 16
 便秘 5, 16, 42
 便秘の予防 61
 弁膜症 16, 33

ほ

保育環境 53
 防衛機制 55
 蜂窩織炎 18
 防御機構 11
 膀胱 12
 膀胱炎 18
 膀胱癌 18, 37
 膀胱鏡 37
 膀胱切除術 37
 膀胱留置カテーテル法 ... 62
 放射性障害 14
 放射性物質 22
 放射線治療 15
 放射線療法 31, 62
 法制度 65
 包帯法 8, 28
 乏尿 5
 訪問看護 ... 4, 57, 60, 61
 訪問看護ステーション 3, 24, 61
 訪問指導 23
 暴力 58
 暴力予防プログラム 58
 ポータブルトイレ 27
 ホームヘルプ 58
 保温 53

保健医療課題..... 65
 保健・医療・福祉の連携.. 28
 保険給付 20
 保健教育 45
 保健師 59
 保健師助産師看護師法. 2, 24
 保健指導 23
 保険者 2, 20
 保健所 3, 57
 保護 28
 歩行 41
 母子及び父子並びに寡婦福祉
 法 21
 母子健康手帳..... 23
 母子接触 50
 母子相互作用..... 50
 母子保健 23
 母子保健法..... 23, 54
 補助具の活用..... 31
 母性 50
 母性保護 1
 補体 11
 母体搬送 54
 母体保護法..... 23, 49
 勃起障害治療..... 37
 ボディイメージの変容... 30
 ボディメカニクス..... 7, 27
 哺乳 53
 母乳育児 52
 母乳育児状況..... 52
 哺乳力 53
 ポピュレーションアプローチ
 22
 ボランティア活動..... 21
 ホリスティックケア..... 55
 ホルモン 12, 13, 50
 ホルモン血中・尿中濃度測定
 35
 ホルモン欠落症状..... 37
 ホルモンの受容体..... 12
 ホルモン負荷試験..... 35
 ホルモン療法..... 37
 本態性高血圧..... 16
 ポンプ機能障害..... 33

ま

マイナートラブル 51
 麻酔 15, 30
 マッサージ 27
 末梢循環の調節 10
 末梢神経系 9
 末梢神経系の疾患 18
 末梢神経障害 37
 マネジメント 55
 麻薬 6
 慢性胃炎 16
 慢性期 41, 62, 65
 慢性期の看護 41
 慢性疾患 30, 48
 慢性疾患の治療と看護 ... 30
 慢性腎臓病 18, 35
 慢性心不全 16
 慢性腎不全 35
 慢性閉塞性肺疾患 ... 15, 33
 マンモグラフィー 37

み

味覚 10
 味覚検査 36
 味覚障害 18, 36
 未熟児訪問指導 54
 未熟児養育医療 54
 身だしなみ 41, 56
 看取り 62
 ミネラルの代謝 12
 味蓄 10
 民生委員 21

む

無危害 2
 無菌操作 7, 26
 無尿 5

め

明暗覚 10
 メタボリックシンドローム 17
 滅菌 26
 滅菌法 26

メニエール病 18, 37
 眼に関する反射 10
 免疫 44, 57
 免疫異常 14
 免疫機能 57
 免疫機能障害 35
 免疫系 4, 11, 40
 免疫血清学検査 5
 免疫性血小板減少性紫斑病 17
 免疫低下に関連する疾患 . 17
 免疫抑制薬 35
 面接技法 6
 メンタルヘルス 1

も

毛細血管 10
 妄想性障害 56
 網膜症 18
 網膜剥離 18
 網膜剥離治療 36
 目標設定 26
 モニタリング ... 28, 30, 63
 もやもや病 17
 問診 15, 26
 問題解決過程 25
 門脈系 10

や

薬害 15
 薬剤師 59, 62
 薬剤師法 24
 薬剤耐性 14
 薬剤耐性菌感染症 22
 薬物治療 42
 薬物動態 15
 薬物の管理 6
 薬物療法 7, 15, 32, 56, 62
 薬理効果 6
 薬理作用 15
 薬効 15
 薬効の観察 7
 夜尿症 18

ゆ

有糸分裂 9
 誘導方法 43
 有病率 1, 22
 輸液管理 7, 28
 輸液ポンプ 7
 輸液療法 47
 床上での排泄の援助 27
 床上排泄 6
 輸血 7, 15, 28
 輸血管理 7, 28

よ

養育 19, 48
 要援護者 65
 要介護認定 2
 要介護の区分 39
 要介護の認定 20, 39
 溶血性貧血 17
 要支援の区分 39
 要支援の認定 20
 幼児期 3, 45
 養成制度 2
 腰椎穿刺 47
 腰痛症 18
 腰部脊柱管狭窄症 18
 余暇 19
 余暇活動 40
 予測 60
 予防接種 14, 22, 45
 予防治療 42
 与薬 28, 47
 与薬方法 7, 15

ら

ライフサイクル3, 19, 25, 39, 49
 ライフスタイル... 1, 19, 45

ライフレビュー 40
 卵管 13
 卵巢 13
 卵巢癌 18, 38
 卵巢嚢腫 18, 38

り

リエゾン精神看護 55
 理学療法士及び作業療法士法 24
 リカバリ 56
 罹患率 1, 22
 離婚 19
 リスクアセスメント 63
 リスクマネジメント 42
 離乳 45
 利尿薬 6
 リハビリテーション 15, 31, 39, 41, 57, 62
 リハビリテーション期 ... 62
 リプロダクティブ・ヘルス 49
 リプロダクティブ・ヘルス／ライツ 49
 流産 49
 利用契約制度 20
 利用者保護 20
 療法的アプローチ 42
 療養環境 7
 療養食 27
 療養の場の移行 63
 緑内障 18
 臨死期 42
 臨床疫学 22
 臨床検査 5, 56
 臨床検査技師等に関する法律 24
 臨床心理技術者 59
 臨床心理士 59
 リンパ液 10

リンパ管 10
 リンパ管障害 33
 リンパ系 10
 リンパ節 10
 リンパ組織 11
 倫理 2, 20
 倫理綱領 25
 倫理的葛藤と対応 25
 倫理的配慮 2

れ

冷罨法 7
 レオポルド触診法 50
 レクリエーション ... 1, 27
 レジリエンス 56
 レスパイトケア 60
 レニン-アンジオテンシン-アルドステロン系 12
 レビー小体型認知症 . 17, 18

ろ

老化 13
 老人福祉計画 21
 老人福祉法 21
 労働安全衛生法 23
 労働環境 1
 労働基準法 19
 労働時間 19
 労働者災害補償保険法 ... 20
 労働人口 1
 老年期 3
 老年期女性 50
 老年期と発達・変化 39
 老年症候群 14

わ

ワーク・ライフ・バランス 1, 23

医道審議会保健師助産師看護師分科会

保健師助産師看護師国家試験制度改善検討部会
報告書

平成28年2月22日

目次

I	はじめに.....	1
II	改善すべき事項.....	1
1	保健師助産師看護師国家試験問題について.....	1
1)	出題内容について.....	1
(1)	保健師国家試験について.....	1
(2)	助産師国家試験について.....	2
(3)	看護師国家試験について.....	2
(4)	看護に求められる判断プロセスについて.....	2
(5)	国家試験で問う知識の新しさについて.....	2
2)	状況設定問題について.....	3
3)	出題数について.....	3
4)	出題形式について.....	4
5)	評価領域分類 (Taxonomy) について.....	4
6)	視覚素材について.....	5
2	保健師助産師看護師国家試験の合格基準について.....	5
3	保健師助産師看護師国家試験問題の公募について.....	5
4	保健師助産師看護師国家試験出題基準について.....	6
1)	保健師助産師看護師国家試験出題基準平成 26 年版における改善事項.....	6
2)	改定された出題基準の適用時期について.....	6
III	その他.....	6
IV	おわりに.....	7
	保健師助産師看護師国家試験制度改善検討部会委員.....	9

I はじめに

保健師国家試験、助産師国家試験及び看護師国家試験（以下、「保健師助産師看護師国家試験」という。）は、保健師助産師看護師法第17条に基づき、それぞれ保健師、助産師又は看護師として必要な知識及び技能を評価するものであり、社会の変化や看護を取り巻く環境の変化に合わせ、定期的に改善を行ってきている。

最近では、平成24年4月にとりまとめられた『保健師助産師看護師国家試験制度改善検討部会報告書』（以下、「前回の報告書」という。）に基づき、非選択式計算問題の導入、視覚素材の公募、保健師及び助産師国家試験における状況設定問題の増問等の改善がなされたところである。

また、保健師助産師看護師国家試験出題基準についても、保健・医療・福祉の実情など看護を取り巻く状況を踏まえて見直すこととされ、現行の出題基準を見直す時期に来ている。

この度、保健師助産師看護師国家試験制度改善検討部会（以下、「本部会」という。）では、前回の報告書を踏まえて近年の保健師助産師看護師国家試験の評価を行い、保健師助産師看護師国家試験における諸課題及び改善すべき事項について検討した。議論は、ワーキンググループでの検討を含め、6回にわたって重ねられた。

今般、保健師助産師看護師国家試験制度の改善に関する基本的な方向性等について、意見を取りまとめたので、ここに報告する。

II 改善すべき事項

1 保健師助産師看護師国家試験問題について

1) 出題内容について

保健師助産師看護師国家試験においては、現行の多項目選択式試験のなかで「基礎的知識を状況に適用して判断を行う能力を問う」ことに留意しながら、「人々の生活への支援を重視する看護に特有の状況の捉え方と判断プロセスを問う」工夫が必要である。

また、各職種に求められる専門性の高度化とニーズの多様化や、免許取得時に求められる実践能力を問うために各職種の特徴を反映して出題することが望ましい。

(1) 保健師国家試験について

保健師国家試験においては、健康問題の複雑化や健康格差の拡大等の社会背景を踏まえて、地域住民や多職種・他機関と連携・協働しながら、

健康課題を解決すること及び施策化することなど、保健師に求められる役割や能力についての出題内容の充実が必要である。また、医学や公衆衛生学の知識等を含めた公衆衛生看護活動の根拠となる知識についての出題が必要である。さらに、産業保健や学校保健などの専門的分野においては、保健師免許を基礎資格として第一種衛生管理者や養護教諭二種の各免許が取得できるため、当該業務に必要な知識や能力についても問えるような出題内容の充実が必要である。

(2) 助産師国家試験について

助産師国家試験においては、引き続き、助産診断・技術学、助産管理、及び近年推進されている院内助産所や助産師外来において求められる、より高い助産診断・ケア能力についての出題内容を充実させる必要がある。また、助産学の基礎となる妊娠・分娩・産褥経過と新生児・乳幼児に関する正常及び正常からの逸脱の予測と判断、並びに異常に関する基本的な知識についても引き続き十分な出題が求められる。

(3) 看護師国家試験について

看護師国家試験においては、引き続き、健康課題を持つ人々を生活者として捉え、身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解した上で、必要な看護サービスを提供するための知識や能力についての出題内容を充実させる必要がある。

「看護の統合と実践」の科目については、より臨床実践に近い形で知識・技術を統合して判断し、解答する能力を問うような出題内容となるよう出題基準とともに見直しが必要である。

※参照：6頁4-1)

(4) 看護に求められる判断プロセスについて

保健師助産師看護師それぞれの臨床において、介入を通して直接得る多様な情報を段階的・総合的に判断した上で、患者や家族等と共に看護を決定していくプロセスを問う必要がある。出題の方法には、①判断プロセスについて問う、②判断そのものを問う、③判断するために必要な情報は何かを問う、④情報を列記したなかで優先度を問う、⑤介入の結果から判断の根拠を問うなどの方法があり、出題内容に合わせてこれらの方法を選択して出題することが望ましい。

(5) 国家試験で問う知識の新しさについて

免許取得時に具有すべき重要な知識については、最終学年において最新のものに更新しておく必要があると考えられ、保健師助産師看護師国家試験においては、これらについても出題していくことが望ましい。特

に、統計調査データや法律等、社会情勢を踏まえた実践活動に必要なとなる知識については、最新の知識に更新しておく必要がある。ただし、ガイドラインや診断基準などについても、各職種・領域における普及度や周知期間を踏まえて、慎重な判断の上で出題していくことが望ましい。

2) 状況設定問題について

状況設定問題は、出題の意図を明確にして出題する必要があるという観点から、①経時的に変化する状況の中で展開する看護活動等を問う問題、②看護における思考や判断プロセスを問う問題、③個人・家族・集団・地域など、多様な対象や状況に対して展開する看護活動を問う問題、④これらが複合している問題などといった、出題類型を明確にして出題する必要がある。

状況設定問題の状況として提示する情報については、免許取得時に求められる実践能力を問うことを目指すことを踏まえると、判断や介入に必要な情報のみならず、情報を取捨選択するということも含めて問う必要がある。個別的状況を想定し、アセスメントを行い、介入に必要な情報を取捨選択し、どのような状況なのか・どのように介入すべきかなどを判断する能力を問う、つまり、思考や判断プロセスを問うような問題を積極的に出題することが望ましい。

なお、判断によって次のケアを選択するという思考のプロセスを問う問題は、解答を連動させない連問での出題が困難な場合があり、2連問や単問での出題などの工夫が必要である。

出題類型の整理を踏まえ、現行の2連問又は3連問の状況設定問題に加え、長い状況文を付した単問の状況設定問題を導入し、多くの情報の中から必要な情報を取捨選択する能力を問う問題や、根拠に基づいて状況を判断する能力を問う問題などを積極的に出題していくことが望ましい。

具体的には、保健師国家試験では、地域診断における判断や介入の優先度を問う問題などが適しており、地域診断に必要なグラフ化されたデータや表などをもとに保健師に必要な判断力を問うような出題が望ましい。助産師国家試験では、正常分娩において助産師が正常からの逸脱を予測・判断して対応するといった実践能力を問うような臨床に則した状況設定が望ましい。看護師国家試験では、引き続き、根拠に基づいたアセスメントや計画立案に基づく看護実践における思考や判断プロセスを問うような出題が望ましい。

3) 出題数について

看護師国家試験においては240問の出題数であり、そのうち平成22年実施試験から必修問題の出題数が50問に増問され、保健師及び助産

師国家試験においては前回の報告書を踏まえて平成 25 年実施試験から状況設定問題が 35 問に増問され、各 110 問の出題数となった。

保健師、助産師及び看護師各国家試験の数年間の正解率等の解答状況や得点状況などから、信頼性と合格率の関係性や無答率等について分析し、評価・検討したところ、各国家試験の出題数については妥当であった。よって、出題数については看護師国家試験の必修問題も含めて、現行どおりとすることが適当である。

4) 出題形式について

現行の保健師助産師看護師国家試験においては、4 肢 A タイプ^{*1}、5 肢 A タイプ及び 5 肢 X2 タイプ^{*2}が用いられている。出題形式については、一般問題と状況設定問題別に評価したところ、実施年毎の出題割合が大きく異なることはなく、A タイプと X2 タイプ又は 4 肢と 5 肢では解答状況の傾向にも大きな偏りはなかった。よって、引き続き、出題の意図や出題内容などに適した肢数や形式で出題していくことが必要である。

なお、非選択式の計算問題については、正解率は低いものの、識別指数は高い傾向にあるため、状況設定問題に組み込むなどの工夫によって引き続き積極的に出題することが望ましい。特に、保健師国家試験においては活動の場に則した実践能力を問うような出題を踏まえると、非選択式計算問題の増問も含めて、更なる出題について工夫することが望ましい。

5) 評価領域分類 (Taxonomy)^{*3}について

評価領域分類 (Taxonomy) については、出題の意図や出題内容などに適した評価領域分類で出題することを前提に、必修問題では評価領域分類 I 型 (知識の想起・推定) を、状況設定問題では評価領域分類 II 型 (解釈) 及び III 型 (問題解決) を中心として出題することが望ましいとされている。

必修問題については、これまでの出題状況は概ね良好であり、引き続き、評価領域分類 I 型で出題していく。その他一般問題及び状況設定問題については、教育で培われた状況判断能力や実践能力を問うために、評価領域分類 I 型ではなく、II 型や III 型での出題割合を上げるような改善が必要である。具体的には、視覚素材の活用や長い状況文を付した状況設定問題の導入などによって、知識の単純想起型の出題をできるだけ減らしていく。特に、保健師国家試験においては、状況設定問題も含めて知識の単純想起型の出題が多く、評価領域分類 II 型や III 型の出題を増やす改善が必要である。

6) 視覚素材について

視覚素材については、所見や状態、医療機器や物品など、そのものについて直接的かつ詳細には文章で問うことが難しい問題や、処置及び看護技術など写真を用いることでより具体的に問うことができる問題などにおいては、視覚素材が有効に活用され、正確に問うことができています。より臨床に則した出題のために、写真に限らずカラーによる出題やイラスト・図表等を積極的に活用することが望ましい。

例えば、保健師及び看護師国家試験では地図、住宅見取り図や図表等のデータをもとに情報を理解・解釈して必要な介入を判断するような問題を導入すること、助産師国家試験では超音波画像や胎児心拍数陣痛図等の診断に関する問題や、看護師国家試験では画像診断の活用に関する問題などを引き続き出題することによって、より状況判断能力や実践能力を問うよう工夫することが望ましい。

なお、視覚素材の公募についても積極的に働きかける必要がある。

2 保健師助産師看護師国家試験の合格基準について

保健師助産師看護師国家試験の合格基準については、経年的な合格状況や得点状況を踏まえると現状維持が望ましい。

3 保健師助産師看護師国家試験問題の公募について

保健師助産師看護師国家試験問題の公募については、前回の報告書を受けて、平成 25 年度からは試験問題の公募システムを改修して視覚素材のみの登録を可能とし、平成 26 年度からは学校養成所や関係団体のみならず、都道府県を通して新人看護職員研修を実施している施設へ公募依頼の対象を拡大するなど、改善に向けた対応がされてきた。

しかしながら、公募問題の登録数が少ないこれまでの状況を踏まえると、作成された試験問題の公募のみではなく、視覚素材等の公募の周知・促進や、状況設定問題のもととなる情報（匿名化された事例やデータ、状況など）の公募の導入なども必要である。よって、現行の試験問題の公募システムについては、問題作成の手引きの改訂等の運用改善や公募システムの周知に努めつつ、周知の際に公募の対象となる情報を具体化して提示することなどにより、応募を促進していくことが望ましい。

4 保健師助産師看護師国家試験出題基準について

1) 保健師助産師看護師国家試験出題基準平成 26 年版における改善事項

『保健師助産師看護師国家試験出題基準平成 26 年版』については、出題基準項目*⁴小項目が「中項目に関する内容をわかりやすくするために示したキーワードである」ことを踏まえて、「出題範囲となる事項である」中項目の記載の抽象度を工夫するとともに、膨大な知識の中でどの範囲を国家試験で問うのかということを確認にするような中項目の記載の表現の工夫が必要である。

なお、看護師国家試験出題基準の「看護の統合と実践」については、科目の趣旨に照らして、国家試験においてどこまで問うことが可能かということも踏まえ、既存の出題基準項目の「看護におけるマネジメント」、「災害と看護」及び「国際化と看護」以外に、複数科目の知識を統合する能力を問うような出題や、多重課題や集団へのアプローチに必要な広い知識を統合する能力を問うような出題などに向けた出題基準を明示することなど、抜本的な改善が必要である。

※参照：2頁1-1)-(3)

2) 改定された出題基準の適用時期について

改定された出題基準の適用時期については、出題基準の改定に関する今後の検討及び周知期間を勘案し、平成 30 年の第 104 回保健師国家試験、第 101 回助産師国家試験及び第 107 回看護師国家試験から適用することが望ましい。

Ⅲ その他

保健師助産師看護師国家試験の実施回数については、現状の受験者数や試験問題の質の担保等を踏まえると現行どおりが望ましい。ただし、コンピュータを活用した試験の導入に関しては将来的に検討していく必要があり、国家試験の年間の実施回数等については、これと併せて検討すべき課題である。

また、平成 23 年の東日本大震災及び平成 26 年の雪害による第 103 回看護師国家試験の追加試験の実施などを踏まえて、試験当日に災害等によって試験時間の変更等が生じる場合や試験中に災害等が発生した場合などについては、監督者も含めた各試験会場への周知及び厚生労働省ホームページでの案内と受験者留意事項にその旨を記載して周知が図られている。受験者の安全を第一とした保健師助産師看護師国家試験の実施に向けた危機管理体制については、対応を継続することが必要である。

IV おわりに

わが国においては、少子・高齢化の進展、医療の高度化に伴い、国民の看護への期待が高まっている。今後、地域医療構想の実現や地域包括ケアシステムの推進に伴い、療養の場が多様化し、個人や家族の状況が複雑化するなかで、保健師、助産師及び看護師にはこれまで以上に重要な役割を担うことが求められる。また、看護師の養成数は引き続き増加傾向にあり、在宅医療やチーム医療等においては各職種の専門性や自律性が一層求められている。これらのことを踏まえ、本部会では、国家試験が保健師、助産師及び看護師としての資質を適正に問うことができているかについて検討した。

なお、保健師助産師看護師国家試験制度においては、適切な看護の実践と医療安全の確保のため、国家試験の質を担保することが重要であり、今後も定期的に議論を継続していくことが必要である。また、今後の保健師、助産師及び看護師に期待される役割や社会情勢を踏まえるとともに、本制度と深く関わる教育機関や臨床機関等とこれまで以上に連携を図りながら議論を行っていく必要がある。

保健師助産師看護師国家試験制度の改善は、急速に変化していく社会情勢の中で求められる看護の質を保証していく上で重要であり、看護関係者全体で本制度のより良い在り方に向けて取り組み続けていくことが期待される。

以上

【注釈】

*1 Aタイプ

複数の選択肢から1つの正解肢を選ぶ出題形式。

*2 X2タイプ

複数の選択肢から2つの正解肢を選ぶ出題形式。

*3 評価領域分類 (Taxonomy)

教育目標毎に問題の解答に要する知的能力のレベルを分類したもので、一般には認知領域ではⅠ・Ⅱ・Ⅲ型に分類される。Ⅰ型は単純な知識の想起によって解答できる問題であり、Ⅱ型は与えられた情報を理解・解釈してその結果に基づいて解答する問題であり、Ⅲ型は設問文の状況を理解・解釈した上で、各選択肢の持つ意味を解釈して具体的な問題解決を求める問題である。

*4 出題基準項目

『保健師助産師看護師国家試験出題基準平成26年版』では、大項目は「中項目を束ねる見出し」、中項目は「保健師助産師看護師国家試験の出題の範囲となる事項」、小項目は「中項目に関する内容をわかりやすくするために示したキーワードで、大・中項目に関連して出題される」とされている。なお、出題範囲は記載された事項に限定されず、標準的な学生用教科書に記載されている程度の内容を含むものとする。

【参考】

1. 保健師助産師看護師国家試験制度改善部会報告書(平成24年4月)
2. 社会保障制度改革を踏まえた看護実践能力向上のための看護基礎教育のあり方 平成26年度総括研究報告書(平成27年3月)、宮本千津子他 「分担研究報告書：看護師等の国家試験に求められる実践能力を評価するための問題構造と課題」に関する研究
3. 『保健師助産師看護師国家試験出題基準 平成26年版』

医道審議会保健師助産師看護師分科会
保健師助産師看護師国家試験制度改善検討部会委員
及びワーキンググループメンバー

- | | |
|----------|---------------------------------|
| 荒川 眞知子 | 日本看護学校協議会会長 |
| 荒木田 美香子 | 国際医療福祉大学保健医療学部教授 |
| 伊藤 圭 | 大学入試センター研究開発部准教授 |
| 井村 真澄 | 全国助産師教育協議会会長 |
| 宇佐美 慧 | 筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授 |
| 岡本 喜代子 | 日本助産師会会長 |
| 金子 仁子 | 慶應義塾大学看護医療学部教授 |
| 釜范 敏 | 公益社団法人日本医師会常任理事 |
| 萱間 真美 | 聖路加国際大学看護学部教授 |
| 菊間 博子 | 全国保健師長会副会長 |
| 佐伯 和子 | 全国保健師教育機関協議会会長 |
| 坂本 すが | 公益社団法人日本看護協会会長 |
| 関 博之 | 埼玉医科大学総合医療センター総合周産期母子医療センター産科教授 |
| 高田 早苗 | 日本看護系大学協議会会長 |
| 高田 昌代 | 神戸市看護大学教授 |
| 田中 千代美 | 京都第二赤十字病院看護部長 |
| 玉井 和哉 | 獨協医科大学医学部医学科教授 |
| ◎ 中山 洋子 | 高知県立大学大学院看護学研究科教授 |
| 堀内 成子 | 聖路加産科クリニック副所長、聖路加国際大学大学院教授 |
| ○ 宮本 千津子 | 東京医療保健大学医療保健学部看護学科教授 |

敬称略（五十音順）

◎は部会長

○は部会長代理